

平北田遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 23 年 3 月

国土交通省常総国道事務所
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第336集

平^{たいら}北^{きた}田^だ遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 23 年 3 月

国土交通省常総国道事務所
財団法人茨城県教育財団



遺跡全景(西側から)



第29号住居跡出土遺物

序

茨城県では、県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために、高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに、広域的な交通ネットワークの整備を進めています。

その一環として国土交通省が整備する首都圏中央連絡自動車道は、首都高中央環状線などと一体となって、首都圏の骨格となる3環状9放射の道路ネットワークを形成し、東京都心部への交通の適切な分散導入と首都圏全体の道路交通の円滑化、首都圏の機能の再編成を図る上で極めて重要な役割を果たすものです。しかしながら、この事業予定地内には平北田遺跡が所在し、記録保存の措置を講ずる必要があるため、当財団が国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から埋蔵文化財発掘調査の委託を受け、平成21年10月から平成22年3月までの6か月間にわたりこれを実施しました。

本書は、平北田遺跡の調査成果を取録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成23年3月

財団法人茨城県教育財団
理事長 稲葉 節生

例 言

- 1 本書は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成21年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市平字北田143番地ほかに所在する平北田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 平成21年10月1日～平成22年3月31日
整理 平成22年8月1日～平成23年3月31日
- 3 発掘調査は、調査課長池田晃一のもと、以下の者が担当した。

首席調査員兼班長	成島一也	
主任調査員	市村俊英	
主任調査員	齋藤和浩	平成22年2月1日～3月31日
主任調査員	舟橋 理	
調 査 員	江原美奈子	平成22年2月1日～3月31日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長櫻村宣行のもと、舟橋 理が担当した。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = + 6,360 \text{ m}$ 、 $Y = + 21,200 \text{ m}$ の交点を基準点 (A 1a) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C…、西から東へ 1, 2, 3… とし、「A 1 区」「B 2 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c…j、西から東へ 1, 2, 3…0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a 区」「B 2b2 区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 P-ピット PG-ピット群 SA-溝跡 SB-掘立柱建物跡 SD-溝跡
SE-井戸跡 SF-道路跡 SI-竪穴住居跡 SK-土坑 SX-不明遺構

遺物 DP-土製品 M-金属製品 N-自然遺物 Q-石器・石製品 TP-拓本記録土器
W-木製品

土層 K-攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 600 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・赤彩・施釉		炉・火床面
	竈部材・粘土範囲・黒色処理		柱痕跡・柱あたり・油煙
●	土器	○	土製品
□	石器・石製品	△	金属製品
- - - - - 硬化面			

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 現存値は () を、推定値は [] を付して示した。計測値の単位は m, cm, kg, g で示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

- 6 竪穴住居跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N-10°-E）。

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
平北田遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	13
1 旧石器時代の遺構と遺物	13
石器集中地点	13
2 古墳時代の遺構と遺物	16
(1) 竪穴住居跡	16
(2) 鍛冶工房跡	121
(3) 欄跡	125
(4) 土坑	126
(5) 不明遺構	133
3 平安時代の遺構と遺物	137
竪穴住居跡	137
4 中世の遺構と遺物	140
(1) 土坑	140
(2) 溝跡	141
5 その他の遺構と遺物	142
(1) 掘立柱建物跡	142
(2) 井戸跡	144
(3) 道路跡	145
(4) 欄跡	146
(5) 土坑	147
(6) 溝跡	156
(7) ビット群	157
(8) 埋没谷	158
(9) 遺構外出土遺物	161

第4節	まとめ	164
写真図版		
抄録		

平北田遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

平北田遺跡は、つくば市南西部（旧谷田部町域）の東谷田川と運沼川が合流する地点の東側、標高約12～15mの台地の緩やかな斜面部に位置しています。周辺には、茨城県を代表する遺跡である烏名熊の山遺跡や烏名前野東遺跡などが広がっています。

今回の調査は、新しい自動車道（圏央道）の建設事業予定地内に平北田遺跡が存在するので、工事の前に遺跡の内容を記録して保存するために、茨城県教育財団が平成21年10月から平成22年3月までの半年間にわたって行ったものです。



遺跡全景（南側から）

古墳時代の暮らし

今回の調査では、主に古墳時代後期（1400～1500年前）の集落跡の調査を行いました。当時の人々が使っていた大量の土器などが、当時の形のまま出土しました。また、出土した甕の中から炭化した米が出土しました。当時の人々が米を栽培し、食べていたことがわかります。

住居跡の中からは、マツリで使用したと思われる土玉や勾玉なども出土しました。現代のように科学が進歩していなかった時代に、様々な思いや願いを胸にして、人々はいろいろなマツリを行っていたのでしょうか。



1辺が9m以上(約51畳)もある大形の住居跡です。室内を区切る間仕切り溝があったり、マツリの道具が出土するなど、集落の中心人物が住んでいたと推測できます。また、詳しい調査の結果、この住居跡は住居の規模を広げた痕も確認できました。

発掘調査のスタッフが、調査を進めているところでは、竈のそばから、大形の甕や坏、瓶などがほぼ当時の形のまま出土しました。さらに大量の炭化材が出土したことで、この住居跡は火災にあったことが分かりました。発掘調査を進めると、当時の人々の生活がよみがえってきます。



当時の人々は、土師器や須恵器などを生活の道具として使用していました。これらの土器は、その中でも手捏土器やミニチュア土器と呼ばれているもので、マツリの時に使用したものと考えられています。当遺跡では、このようなマツリのための土器類や土製の勾玉などが数多く出土しました。



調査の成果

調査の結果、竪穴住居跡29軒、鍛冶工房跡1基などを確認し、古墳時代後期を中心に営まれた集落であることが分かりました。特に6世紀の終わり頃(1,450年前)には一気に住居の数が増え、多くの人々が生活を営んでいたことが判明しました。また、銅製の鏡をまねて作った、まだ発見例の少ない貴重な土製模造鏡も出土しました。

今までの調査で、古墳時代のこの地域には数多くの集落があったことが分かっています。当時の人々は、周辺の集落と交流などを行いながら豊かな自然の中で生活していたのでしょう。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所は、つくば市において一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業を進めている。

平成17年9月27日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成17年10月7日に現地踏査を、平成20年2月28日、6月6・25日、7月2日、10月10日に試掘調査を実施し、平北田遺跡の所在を確認した。

平成20年10月21日、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、事業地内に平北田遺跡が存在すること、及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成21年1月29日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条の規定に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成21年2月12日、茨城県教育委員会教育長は現況保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成21年3月4日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成21年3月16日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、平北田遺跡について発掘調査の範囲及び面積について回答し、あわせて調査機関として、財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成21年10月1日から平成22年3月31日まで発掘調査を実施することになった。

第2節 調査経過

平北田遺跡の調査経過については、その概要を表で記載する。

工程	平成21年			平成22年			
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
調査準備 表土除去 遺構確認	■		■				
遺構調査		■					
遺物洗浄 注記 写真整理	■						
補足調査 撤収						■	

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

平北田遺跡は、つくば市平字北田143番地ほかに所在している。

つくば市は、茨城県の南西部に位置し、北部に八溝山系の筑波山とそれにつながる丘陵部が広がり、他の地域のほとんどは常総台地上にある。当遺跡が立地するつくば市谷田部地区は、常総台地の一部である平坦な標高約20～25mの筑波・稲敷台地に広がっている。筑波・稲敷台地は、東部が霞ヶ浦に流入している桜川、西部が利根川に合流している小貝川に区切られている。両河川の間には、東から花室川、蓮沼川、小野川、東谷田川、西谷田川などの中小河川が南流しており、台地の縁辺部は樹枝状に開析され、谷津や低地が細長く形成されている。

台地の地質は、貝化石を産する海成の砂層である成田層を基盤とし、その上に斜交層理の顕著な砂層・砂礫層の竜ヶ崎層、さらに泥質粘土層である常総粘土層、関東ローム層、腐食土層の順に堆積している^{31, 32)}。

当遺跡は、つくば市の南西部旧谷田部町域の、蓮沼川左岸の蓮沼川と東谷田川が合流する東岸の台地上に位置し、低地部から4mほど緩やかに立ち上がった標高約12～15mの緩斜面部に立地している。当遺跡が立地している台地は、東谷田川と小野川に挟まれた幅約2～4kmの南北に延びた台地で、当遺跡はその台地が蓮沼川によって開析された低地に面している。調査前の現況は、山林及び畑地である。

第2節 歴史的環境

ここでは、当遺跡が存在する筑波・稲敷台地や東谷田川とその支流の蓮沼川流域の、古墳時代から平安時代にかけての遺跡を中心に記述する。

縄文時代には、東谷田川対岸の鳥名境松遺跡(16)では中期(阿玉台I b式期)から後期(加曾利E IV式期)の住居跡37軒、土器焼成遺構1基、フラスコ状土坑5基などが確認されている³³⁾。また、鳥名前野東遺跡(19)では中期の住居跡や陥し穴などが確認されており、西谷田川と東谷田川に挟まれた台地上に集落が確認されている。

弥生時代の遺跡は、当遺跡から南へ約5.8kmに位置する境松貝塚などが挙げられるが、つくば市内での遺跡数は少ない。

古墳時代になると遺跡数が急増し、前期では鳥名熊の山遺跡(22)・鳥名前野遺跡(8)・鳥名一町田遺跡(18)・鳥名前野東遺跡などが挙げられる。これらの遺跡は台地の縁辺部に位置しており、東谷田川や蓮沼川の水利の恵みを受けて生活をしていただと考えられる。

中期になると、前記以外に鳥名八幡前遺跡(20)や鳥名関ノ台遺跡(34)、真瀬三度山遺跡(48)など遺跡数も増加し、集落規模も拡大している。これは、前期と比べ鉄器の普及による水田開発が進み、居住域が拡大した結果と考えられる。真瀬三度山遺跡からは、中期の住居跡7軒が確認されている。白玉や勾玉などの遺物が多数出土していることから、何らかの祭祀行為が行われていた可能性がある⁴⁾。鳥名八幡前遺跡でも同様の様相がみられる³⁵⁾。

後期になると、集落の盛衰が顕著になり、鳥名熊の山遺跡、鳥名前野東遺跡が継続しているのに対し、鳥名

前野遺跡では集落の規模が縮小している。また、鳥名八幡前遺跡では6世紀前半に集落が一度断絶し、6世紀後半になって居住が再開されている。この時期になり新たに集落が形成されるのは、当遺跡と鳥名城松遺跡である⁶⁾。鳥名熊の山遺跡では過去の調査によって、前期から中期にかけて台地縁辺部に集落が出現したあと、6世紀後半になると急速に台地全体に広がり、一挙に規模が拡大していることが分かった。これらのことから、鳥名熊の山遺跡は鳥名前野遺跡や鳥名前野東遺跡とともに、互いの増減を補完し合う形を取り合い、その過程のなかで6世紀後半には地域の拠点的な集落としての地位を確立したものと考えられる。当遺跡は、拠点的な集落であった鳥名熊の山遺跡との関連・交流の中で集落が形成されていったものと考えられる。

墓域に関しては、前期では鳥名前野東遺跡で方形周溝墓3基が調査されている。中期の状況は不明であるが、後期になると当地域には、^{鳥名熊の山遺跡} 野井古墳群(37)・^{鳥名熊の山遺跡} 鳥名関ノ台古墳群(35)などの古墳群が形成されている。これらの古墳群は、径10～20mほどの小形の円墳が主体で、埋葬施設は箱式石棺が大半であり、筑波山・霞ヶ浦周辺にみられる典型的な群集墳の様相を示している。このうち首長墓は、鳥名関ノ台古墳群にあった全長約40mの前方後円墳と目され、鳥名熊の山遺跡をはじめとする東谷田川流域の集落を権力基盤とした人物の墓の可能性⁷⁾がある。また、当遺跡から北西に約3km離れた下河原崎古墳群では130基以上の円墳が確認されており、県内の代表的群集墳である。

奈良時代になると、当地域は常陸国河内郡菅田郷に編入されることになる。河内郡は、菅田・鳥名・河内・大山・八部・眞幡・大村の七郷で構成されている。河内郡の郡衙と推定されているのは、当遺跡から北東へ約7kmに位置する国指定史跡の金田官衙遺跡である⁸⁾。近年の発掘調査によって、この時代の当遺跡周辺は急速に集落の再編が進むことが明らかとなった。つまり、周辺の遺跡で集落の断絶または一時的な中断が見られる背景には、律令国家の成立と地方の国郡制度の整備が推し進められたことが理由として挙げられる。隣接する河内郡鳥名郷の中心的な集落である鳥名熊の山遺跡や鳥名八幡前遺跡では、大形住居とそれに伴う掘立柱建物^{掘立柱建物}が集落の中心となり、特に鳥名熊の山遺跡ではL字状に配置された掘立柱建物群も整備され、郷関連の官衙施設の可能性も示唆されている。鳥名前野遺跡と鳥名前野東遺跡では半世紀の間、空地地となっていたが、律令制度の進展に伴い8世紀に入って集落が再び形成される。その一方で、これらの遺跡以外に当遺跡周辺の当該期の集落は見られなくなり、鳥名熊の山遺跡周辺だけにこの時期の集落が集中するという現象が見られる。

平安時代になると、遺跡数はさらに減少し、集落跡として明確に捉えられるのは鳥名熊の山遺跡と鳥名八幡前遺跡だけとなる。当遺跡も、平安時代の堅穴住居跡は1軒しか確認されていない。鳥名熊の山遺跡と鳥名八幡前遺跡は、鍛冶生産などの手工業に積極的に関わっていた集落であるが、10世紀を迎えると新たな展開を示し、鳥名八幡前遺跡もまた集落としての終焉を迎えることになる。鳥名熊の山遺跡では11世紀まで継続的に集落が営まれているが、その後の集落の様相は不明瞭になっていく。そのような状況は、堅穴住居から平地住居への転換の時期と重なるためと思われる。なお、鳥名熊の山遺跡の墓坑や井戸跡から平安時代末期と考えられる和鏡や小銅仏が出土しており、遺物の面からも有力者層の存在をうかがうことができる。

谷田部地区の集落変遷は、古墳時代から続く鳥名熊の山遺跡を中心として盛衰を繰り返しており、鳥名郷に接する当遺跡もその流れの中で存在した集落であると考えられる。

※ 文中の〈 〉の番号は、第1図及び表1中の該当遺跡番号と同じである。

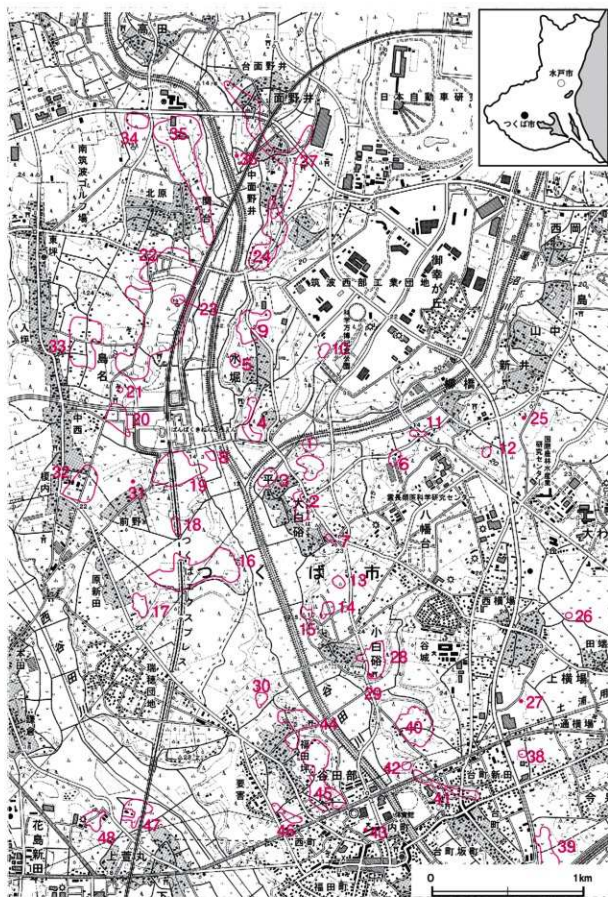
なお、本章は「茨城県教育財団文化財調査報告」第328集を基にし、若干加筆したものである。

註

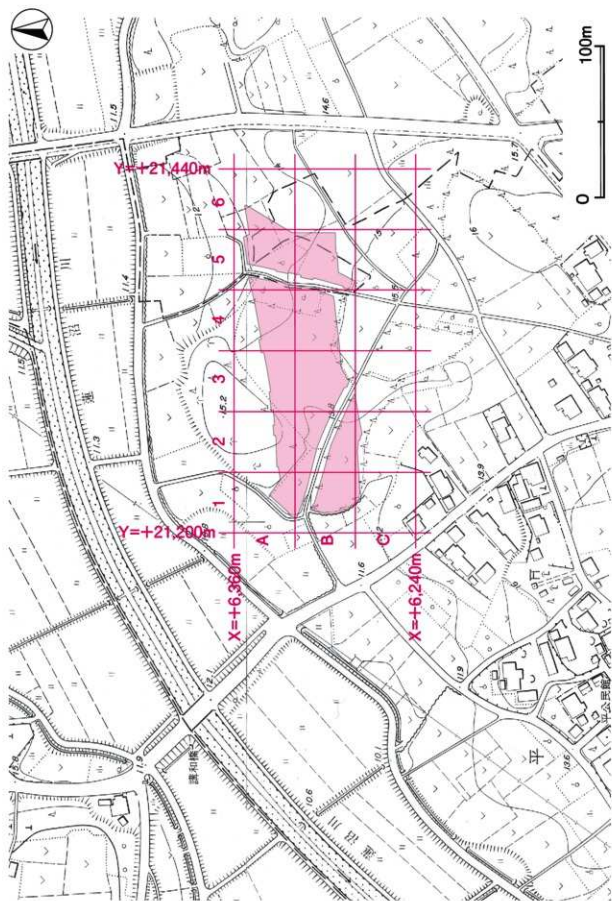
- 1) 谷田部の歴史編さん委員会『谷田部の歴史』谷田部町教育委員会 1975年9月
- 2) 茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査 土浦』茨城県 1983年12月
- 3) a 寺門千勝・田原康司・梅澤貴司『高名前野東遺跡 高名城松遺跡 谷田部漆遺跡 高名・福田坪一休型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
 b 飯泉達司『高名前野東遺跡 高名・福田坪一休型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告Ⅴ』
 『茨城県教育財団文化財調査報告』第215集 2004年3月
 c 小松崎和治『高名城松遺跡 高名前野東遺跡 高名・福田坪一休型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅤⅣ』『茨城県教育財団文化財調査報告』第281集 2007年3月
- 4) 白田正子〔(仮称) 豊丸地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 三度山・古屋敷遺跡〕『茨城県教育財団文化財調査報告』第132集 1998年3月
- 5) 菊池直哉『鳥名八幡前遺跡 都市計画道路鳥名上河原崎道路整備事業地内埋蔵文化財報告書』『茨城県教育財団文化財調査報告』第283集 2007年3月
- 6) 註3 aに同
- 7) 註1に同
- 8) 白田正子『金田西遺跡 金田西坪B遺跡 九重東岡寺・中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』『茨城県教育財団文化財調査報告』第209集 2003年3月

表1 平北田遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時 代							番号	遺跡名	時 代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
①	平北田遺跡				○	○	○	○	25	新井東塚山塚						○	○
2	大白粉西ノ宮遺跡				○				26	上城塚一休塚遺跡		○				○	
3	平 塚 遺 跡				○			○	27	上城塚遺心塚古墳群				○			
4	水原遺後田遺跡						○		28	小白粉海邊高遺跡		○				○	○
5	水原新敷沼遺跡	○			○				29	小白粉海邊塚原群						○	○
6	柳 塚 遺 跡				○			○	30	谷田部塚馬遺跡		○		○			
7	大白粉松下遺跡								31	鳥名東野古墳				○			
8	鳥名前野遺跡	○		○	○	○	○	○	32	鳥名塚内古墳群							
9	水原下池遺跡				○				33	鳥名木田遺跡						○	○
10	水 原 遺 跡				○				34	鳥名岡ノ台遺跡							
11	柳 塚 仲 塚 遺 跡				○				35	鳥名岡ノ台古墳群							
12	柳 塚 谷 津 遺 跡				○				36	西野丹城跡						○	
13	大白粉民部山遺跡				○				37	西野丹古墳群					○		
14	小白粉民部山遺跡				○				38	上城塚善正遺跡		○				○	○
15	小白粉水衣遺跡				○				39	谷田部中塚遺跡		○				○	○
16	鳥名城松遺跡	○			○				40	谷田部台成井遺跡		○					
17	鳥名ツクリ下口遺跡	○			○				41	谷田部台町古墳群					○		
18	鳥名一町川遺跡	○			○				42	谷田部下成井遺跡		○					○
19	鳥名東野東遺跡	○			○	○	○	○	43	谷田部城跡						○	○
20	鳥名八幡前遺跡				○	○	○	○	44	谷田部福田遺跡		○		○			
21	鳥名新塚遺跡				○				45	谷田部福田前遺跡		○		○	○		
22	鳥名塚の山遺跡	○			○	○	○	○	46	谷田部漆沼口遺跡		○					○
23	鳥名塚の山古墳群				○	○	○	○	47	上妻丸古塚遺跡							○
24	西野丹南遺跡				○	○	○	○	48	高瀬三度山遺跡		○		○			○



第1図 平北田跡周辺遺跡分布図 (国土地理院 25,000 分の 1「土浦」)



第2図 平北田道跡グリッド設定図 (つくば市都市計画図2,500分の1)

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

平北田遺跡は、東谷田川支流の蓮沼川左岸の標高約12～15mの台地緩斜面部に立地している。調査面積は11,259㎡で、調査前の現況は山林及び畑地である。

今回の調査では、堅穴住居跡29軒（古墳時代28、平安時代1）、掘立柱建物跡1棟（時期不明）、鍛冶工房跡1基（古墳時代）、井戸跡1基（時期不明）、土坑143基（古墳時代、中世、時期不明）などを確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に81箱出土している。主な出土遺物は、土師器（坏・碗・高坏・甕・瓶・ミニチュア）、須恵器（坏・高坏）、土製品（勾玉・土玉・管状土錘・支脚・紡錘車・模造鏡）、石器（紡錘車・砥石）、石製品（白玉・霰玉）、金属製品（刀子、鏃、煙管）などである。

第2節 基本層序

A4e3区にテストピットを設定し、基本土層（第3図）の堆積状況の観察を行った。地表面は標高14.3mで、約2m掘り下げた。第3～7層は関東ローム層、第8層は常総粘土層である。土層の観察結果は以下の通りである。

第1・2層は、周辺の山林の樹木の木根とビニール片などを含む人為的な所作の加わった現表土である。

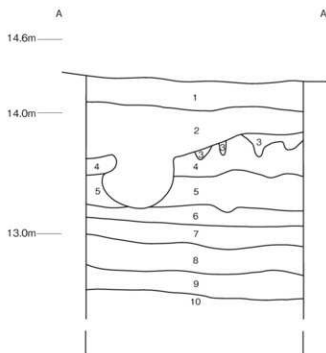
第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。赤色スコリアを微量、黒色粒子を極めて微量含み、粘性・締まりともに普通である。層厚は8～20cmである。

第4層は、褐色を呈するハードローム層である。赤色スコリア・黒色粒子を極めて微量含み、粘性は普通で、締まりは強い。層厚は14～30cmである。下層にあるガラス質粒子が微量に認められる層はAT層と考えられる。

第5層は、褐色を呈するハードローム層で第2黒色帯である。赤色スコリア・黒色粒子を極めて微量含み、粘性・締まりともに普通である。層厚は44～64cmである。

第6層は、褐色を呈するソフトローム層である。赤色スコリア・黒色粒子・細礫を極めて微量含み、粘性・締まりともに普通である。層厚は10～16cmである。

第7層は、褐色を呈するハードローム層



第3図 基本土層図

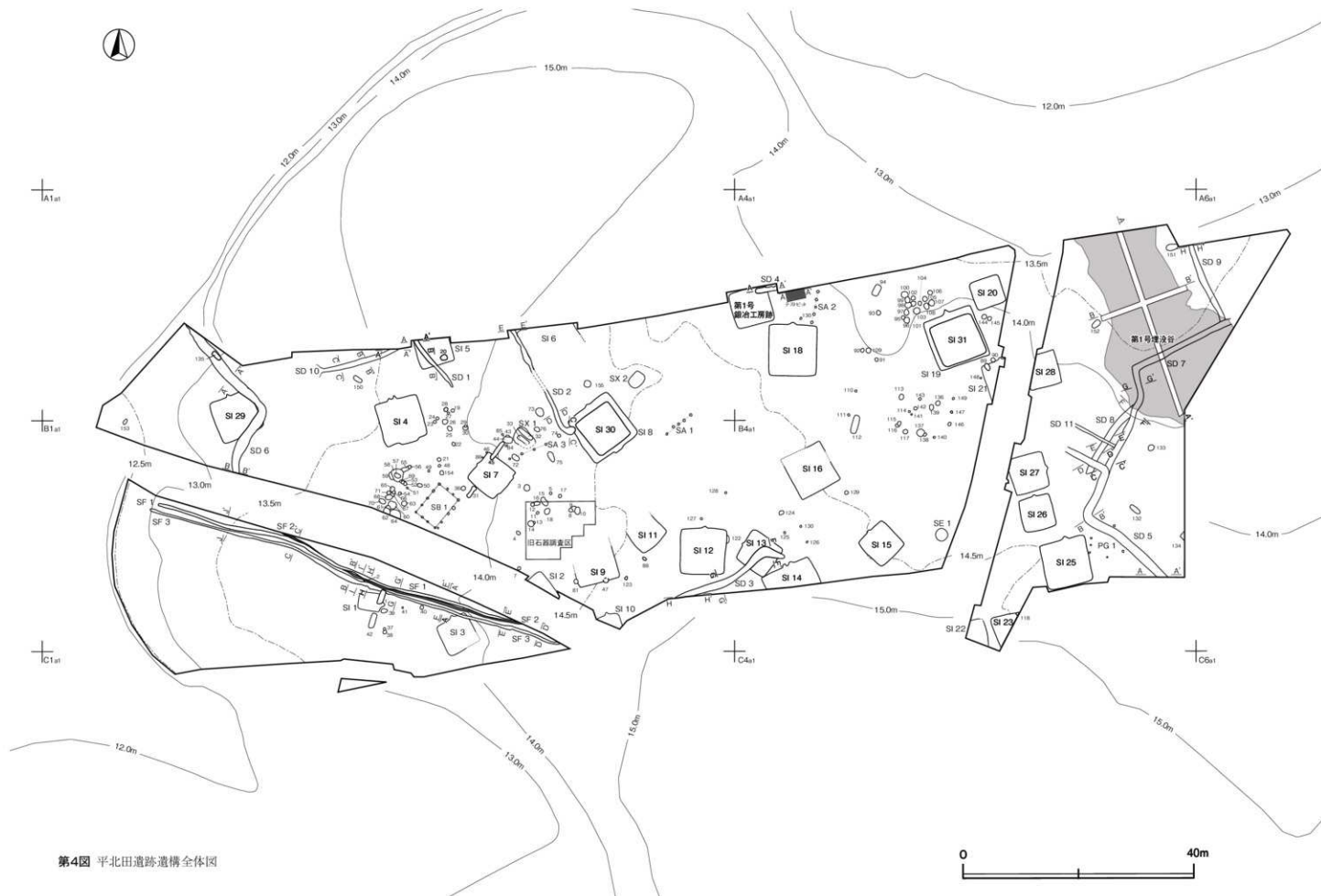
である。赤色粒子・黒色粒子を少量、白色砂粒・細礫を微量含み、粘性は強く、締まりは普通である。層厚は14～16cmである。

第8層は、明褐色を呈する粘土層への漸移層である。赤色粒子・黒色粒子を中量、青灰色粘土粒子を少量含み、粘性は強く、締まりは普通である。層厚は20～26cmである。

第9層は、明黄褐色を呈する粘土層である。青灰色粘土を多量、赤茶色粒子・黒色粒子・細砂を中量含み、粘性は強く、締まりは普通である。層厚は16～24cmである。

第10層は、にぶい黄橙色を呈する細砂層である。赤茶色粒子・青灰色砂粒を多量、黒色粒子を中量含み、粘性は弱く、締まりは普通である。層厚は2～10cmである。

また、第9・10層は、テストピットが調査区から蓮沼川付近の低地へ向かう緩斜面にあることから流路であると推定できる。なお、住居跡などの遺構は主に第4層の上面で確認した。



第4図 平北田遺跡遺構全体図

第3節 遺構と遺物

1 旧石器時代の石器集中地点と遺物

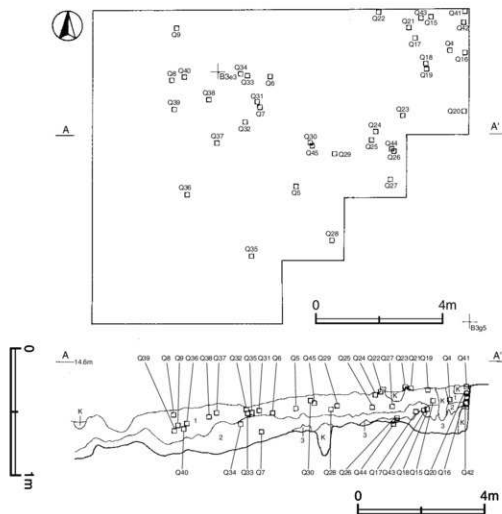
今回の調査では、石器集中地点1か所を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

石器集中地点

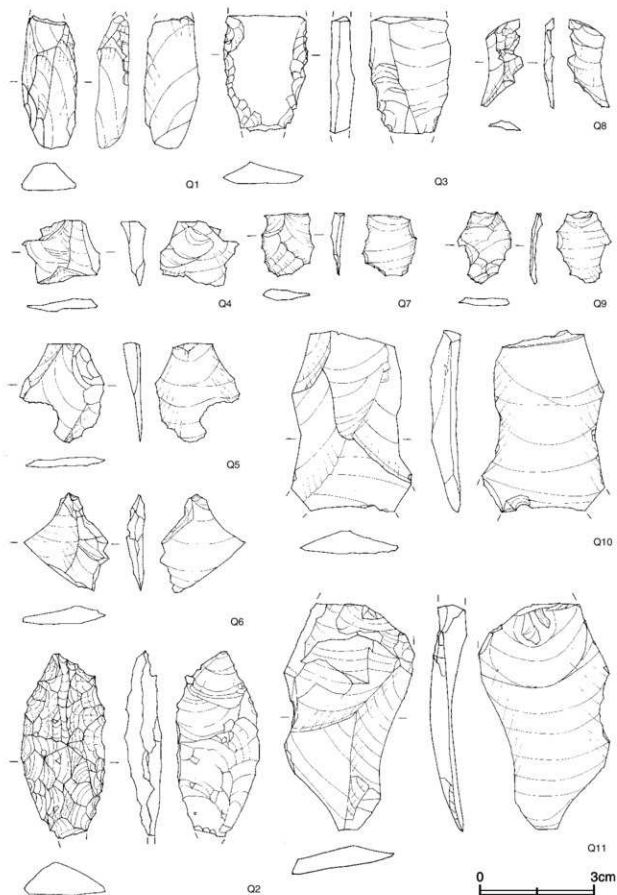
第1号石器集中地点（第5・6図）

位置 調査区中央部のB3d2～d4, B3e2～e4, B3f2・f3区, 標高13.9～14.4mの台地の西方向に緩やかに傾斜した部分上に位置している。

遺物出土状況 調査区からは剥片37点（硬質頁岩36, チャート1）を確認した。垂直分布は、標高14.04～14.40mで、第2層が基本土層の第3層（ソフトローム層）、第3層が基本土層の第4層（ハードローム層）に相当する。また、周辺の表土や遺構の覆土中からも、石核3点（チャート2, 珪質頁岩1）、剥片17点（硬質頁岩6, 珪質頁岩2, チャート9）、ナイフ形石器1点（黒色頁岩）、尖頭器2（硬質頁岩, 黒曜石）が出土している。そのうち、第7号住居跡から3点、第8号住居跡から6点出土している。いずれも、住居の埋め戻しの際に混入したものと考えられる。



第5図 第1号石器集中地点実測図



第6图 旧石器时代出土遺物実測図

所見 出土遺物の時期は、出土層位と出土遺物から約 16,000～13,000 年前（下総編年の II c 期）に比定でき、本跡は Q3 などの槍先形尖頭器の調整加工に係わる石器制作の場と考えられる。Q1 は群馬県利根川上流域の赤谷層を起源とする黒色頁岩が使用されており、時期は約 20,000～16,000 年前（II b 期）に、Q2 は高原山産と考えられる黒曜石製の片面調整槍先形尖頭器で、時期は約 16,000～13,000 年前（II c 期）にそれぞれ比定できる。

旧石器時代出土遺物観察表（第 6 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	ナイフ形石斧	(35)	1.4	0.9	(4.4)	黒色頁岩	縦長薄片加工 端部欠損	表土	PL29
Q2	尖頭器	(49)	2.2	1.0	(8.6)	黒曜石	両面調整 本葉形 端部欠損	表土	PL28
Q3	尖頭器	(30)	(22)	(0.6)	(4.8)	緑頁頁岩	両面調整に二次加工 両端欠損	表土	PL28
Q4	薄片	1.7	2.1	0.7	1.3	緑頁頁岩	背面は多方向からの調整 上面に薄層が残る	旧石器調査区	
Q5	薄片	2.6	2.2	0.5	1.2	緑頁頁岩	背面は同一方向からの調整	旧石器調査区	
Q6	薄片	2.6	2.3	0.5	1.4	緑頁頁岩	後面に二次加工 背面は同一方向からの調整	旧石器調査区	
Q7	薄片	1.6	1.4	0.3	0.5	緑頁頁岩	背面は同一方向からの調整 上部欠損	旧石器調査区	
Q8	薄片	2.4	1.1	0.3	0.3	緑頁頁岩	縦長薄片 背面は多方向からの調整	旧石器調査区	
Q9	薄片	1.9	1.4	0.3	0.4	緑頁頁岩	背面は同一方向からの調整	旧石器調査区	
Q10	薄片	(47)	(3.1)	0.7	(9.2)	緑頁頁岩	背面は同一方向からの調整 一部欠損	表土	PL29
Q11	薄片	(60)	(3.4)	(1.0)	(12.6)	緑頁頁岩	背面は同一方向からの調整 端部欠損	表土	PL29

表 2 その他の旧石器時代の出土遺物一覧表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	出土位置	番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	出土位置
Q12	石核	3.1	1.7	0.9	4.9	緑頁頁岩	表土	Q37	薄片	1.7	1.2	0.4	0.8	緑頁頁岩	旧石器調査区
Q13	石核	3.3	1.3	0.8	4.2	チャート	第 8 号段埋蔵土中	Q38	薄片	0.7	0.4	0.1	0.1	緑頁頁岩	旧石器調査区
Q14	石核	3.0	2.2	1.1	7.2	チャート	表土	Q39	薄片	0.7	0.5	0.1	0.1	緑頁頁岩	旧石器調査区
Q15	薄片	1.9	1.1	0.1	0.3	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q40	薄片	1.3	0.7	0.2	0.2	緑頁頁岩	旧石器調査区
Q16	薄片	1.1	0.9	0.2	0.2	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q41	薄片	1.2	0.7	0.2	0.2	緑頁頁岩	旧石器調査区
Q17	薄片	0.9	0.7	0.1	0.1	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q42	薄片	0.6	0.6	0.1	0.1	緑頁頁岩	旧石器調査区
Q18	薄片	1.1	1.1	0.2	0.3	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q43	薄片	1.2	0.9	0.2	0.1	緑頁頁岩	旧石器調査区
Q19	薄片	0.6	0.4	0.1	0.1	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q44	薄片	1.1	0.8	0.1	0.1	緑頁頁岩	旧石器調査区
Q20	薄片	1.2	1.1	0.1	0.2	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q45	薄片	0.9	0.9	0.1	0.1	緑頁頁岩	旧石器調査区
Q21	薄片	2.7	1.6	0.4	0.9	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q46	薄片	2.3	2.2	0.4	2.0	緑頁頁岩	表土
Q22	薄片	1.5	0.6	0.1	0.1	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q47	薄片	3.3	2.3	0.5	2.7	緑頁頁岩	表土
Q23	薄片	1.5	0.9	0.2	0.5	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q48	薄片	1.8	1.6	0.5	1.0	チャート	表土
Q24	薄片	0.7	0.6	0.1	0.1	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q49	薄片	1.8	1.2	0.2	0.4	緑頁頁岩	表土
Q25	薄片	1.2	0.7	0.1	0.1	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q50	薄片	2.8	1.3	0.4	1.5	緑頁頁岩	表土
Q26	薄片	0.8	0.6	0.2	0.1	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q51	薄片	3.8	2.5	0.9	7.4	緑頁頁岩	利根川流域上
Q27	薄片	1.1	0.6	0.1	0.2	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q52	薄片	2.1	1.4	0.4	0.9	チャート	表土
Q28	薄片	1.2	0.8	0.1	0.1	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q53	薄片	1.3	0.9	0.3	0.3	チャート	第 8 号段埋蔵土中
Q29	薄片	1.7	0.7	0.2	0.1	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q54	薄片	0.9	0.7	0.3	0.2	チャート	第 8 号段埋蔵土中
Q30	薄片	1.3	0.8	0.4	0.4	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q55	薄片	1.9	1.1	0.5	1.3	チャート	表土
Q31	薄片	1.3	1.2	0.1	0.2	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q56	薄片	1.0	0.9	0.2	0.2	チャート	第 8 号段埋蔵土中
Q32	薄片	1.4	0.7	0.1	0.2	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q57	薄片	1.3	0.8	0.3	0.4	チャート	第 8 号段埋蔵土中
Q33	薄片	0.9	0.6	0.1	0.1	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q58	薄片	3.1	2.5	1.0	10.7	緑頁頁岩	第 7 号段埋蔵土中
Q34	薄片	0.7	0.4	0.1	0.1	緑頁頁岩	旧石器調査区	Q59	薄片	2.4	1.7	0.9	2.8	チャート	第 2 号段埋蔵土中
Q35	薄片	1.6	1.3	0.9	2.1	チャート	旧石器調査区	Q60	薄片	1.5	1.2	0.4	0.7	チャート	第 7 号段埋蔵土中
Q36	薄片	1.3	0.6	0.2	0.2	緑頁頁岩	旧石器調査区								

2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡 28 軒、鍛冶工房跡 1 基、欄跡 1 か所、土坑 12 基、不明遺構 2 基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

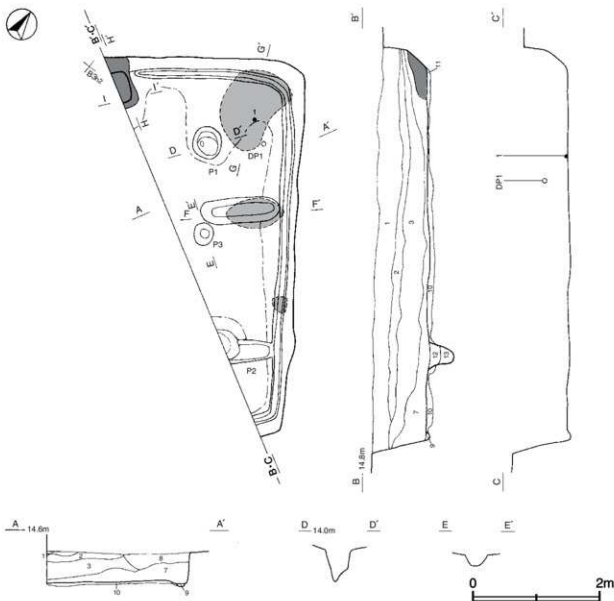
(1) 竪穴住居跡

第 2 号住居跡 (第 7・8 図)

位置 調査区中央部の B 3h2 区、標高 14.2 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びているため、北西・南東軸は 5.78 m で、北東・南西軸は 2.64 m しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、長軸方向は $N-38^{\circ}-W$ である。壁高は 82 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 確認できた範囲はほぼ平坦な貼床で、壁際まで踏み固められている。貼床はロームブロック主体の黒褐色土とローム粒子主体の褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。北東



第 7 図 第 2 号住居跡実測図

壁から2条の中央部へ延びる間仕切り溝を確認した。北コーナー部と北東壁際では、覆土中から焼土を確認した。

竈 北西壁に付設されている。竈のほとんどが調査区域外にあるため、右袖の一部しか確認できなかった。確認できた袖部は、床面と同じ高さで砂粒を極めて多く含んだ第1層を積み上げて構築されている。

覆土層解説

- | | |
|--------------------------------|----------------------|
| 1 にい 赤褐色 砂粒極多量、粘土粒子中量、焼土ブロック微量 | 3 暗 赤 褐色 焼土ブロック少量 |
| 2 暗 赤 褐色 焼土粒子中量 | 4 暗 褐色 焼土ブロック・白色粒子微量 |

ピット 3か所。P1・2は深さ56・38cmで、配置から主柱穴である。P3は深さ18cmで、性格不明である。

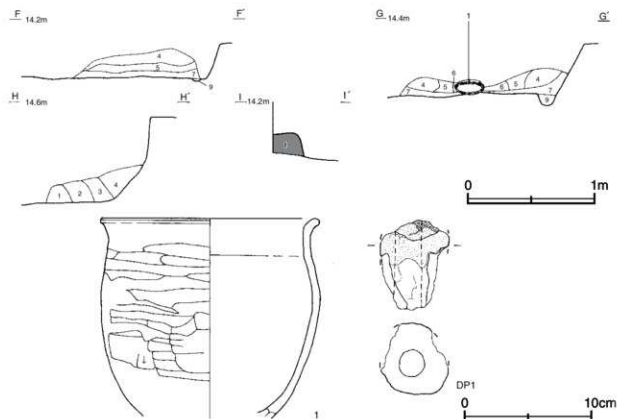
覆土 9層に分層できる。周囲から流入した堆積状況であることから自然堆積である。第10・11層は貼床の構築土である。第4～6層は、部分的にしか確認できないことから、自然堆積の過程で投棄された人為堆積層であると判断した。

土層解説

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 黒 褐色 ローム粒子微量 | 8 暗 褐色 ロームブロック微量、炭化粒子極微量 |
| 2 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 9 暗 褐色 ローム粒子中量 |
| 3 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 10 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 にい 赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子微量 | 11 黒 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 12 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 6 黒 褐色 炭化粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 13 暗 褐色 ロームブロック少量 |
| 7 褐色 ロームブロック微量、焼土粒子極微量 | |

遺物出土状況 土師器片75点(坏5, 碗1, 高坏3, 甕類37, 瓶29), 土製品2点(支脚, 羽口)のほか、炭化米19粒(0.1g)が出土している。また、流れ込んだ陶器片1点(碗)や剥片1点(チャート)も出土している。1は北コーナー部の床面から横位の状態、DP1は北コーナー付近の覆土中層から、N1は1の甕の中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。



第8図 第2号住居跡・出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表 (第8図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	千土の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	169	116.1	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外底外面へう張り残ナゲ 内面へうナゲ 1.1線部外・ 内面残ナゲ	床面	90% PL23

番号	器種	長さ	幅	口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DPI	皿口	(7.1)	5.4	2.1	130.2	土(長石・石英)	黄灰色 ナゲ 縁部に鉄滓付着	覆土中層	PL28

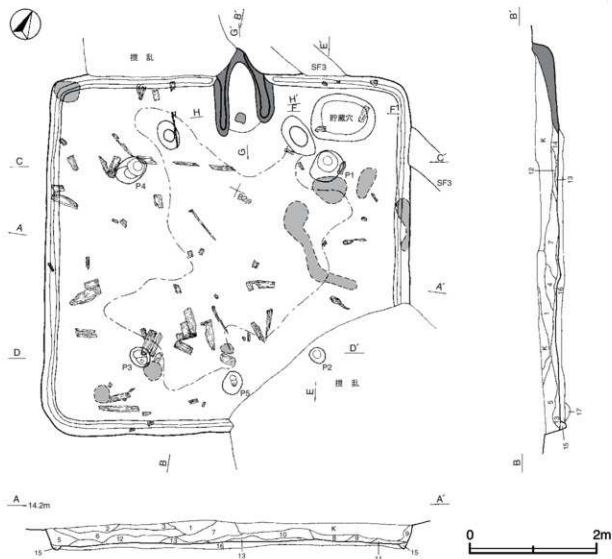
番号	器種	平均径	平均幅	平均厚	総重量	特徴	出土位置	備考
N1	灰化米	3.5	2.2	1.6	0.13	総数19粒	1覆土内	PL30

第3号住居跡 (第9～13図)

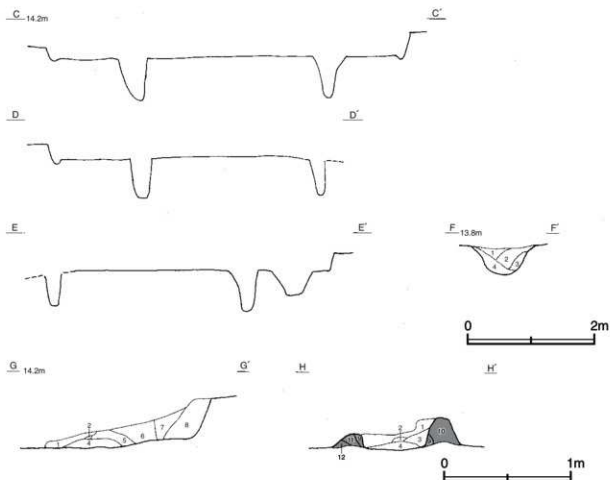
位置 調査区中央部のB28区、標高138mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3号道路に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.78m、短軸5.66mの方形で、主軸方向はN-25°-Wである。壁高は24cmで、外傾して立ち上がっている。東コーナー部と竈付近の覆土上層が攪乱を受けている。



第9図 第3号住居跡実測図(1)



第10図 第3号住居跡実測図(2)

床 ほぼ平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、ロームブロックなどを含んだ暗褐色土と黒褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。北壁際及び中央部南寄りには炭化材が一面に出土しており、中央部の床面は焼けている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで135cmで、燃焼部幅は44cmである。袖部は、床面と同じ高さにロームブロックと砂質粘土を主体とした第9～12層を積み上げて構築されている。火床部は床面から6cmほどくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に44cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------------------|-----------|--------------------------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、黄褐色粘土ブロック・炭化物・白色砂粒微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子極微量 |
| 2 にふい赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 にふい赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・白色砂粒微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子極微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量、白色砂粒微量 | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック微量、焼土ブロック・炭化粒子極微量 | 10 にふい黄褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| | | 11 褐色 | ロームブロック多量、白色砂粒少量、炭化物微量 |
| | | 12 褐色 | ロームブロック・白色砂粒少量、炭化粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ58～68cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ49cmで、位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北コーナー部に位置している。長軸104cm、短軸76cmの隅丸長方形である。深さは44cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

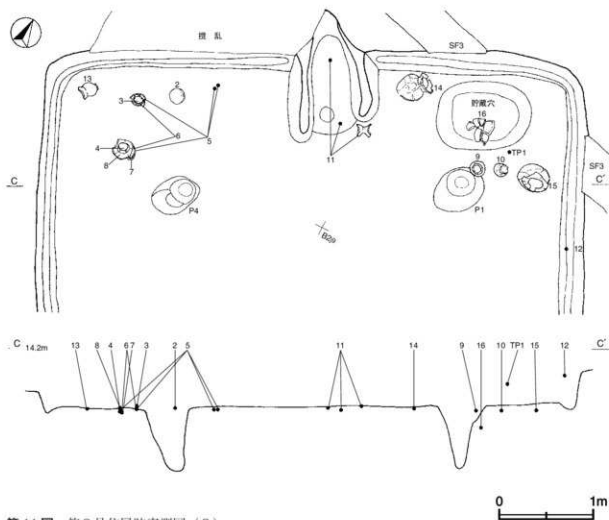
貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック・炭化材・焼土粒子少量 | 4 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 | | |
| 3 褐 色 | ロームブロック中量、炭化物極微量 | | |

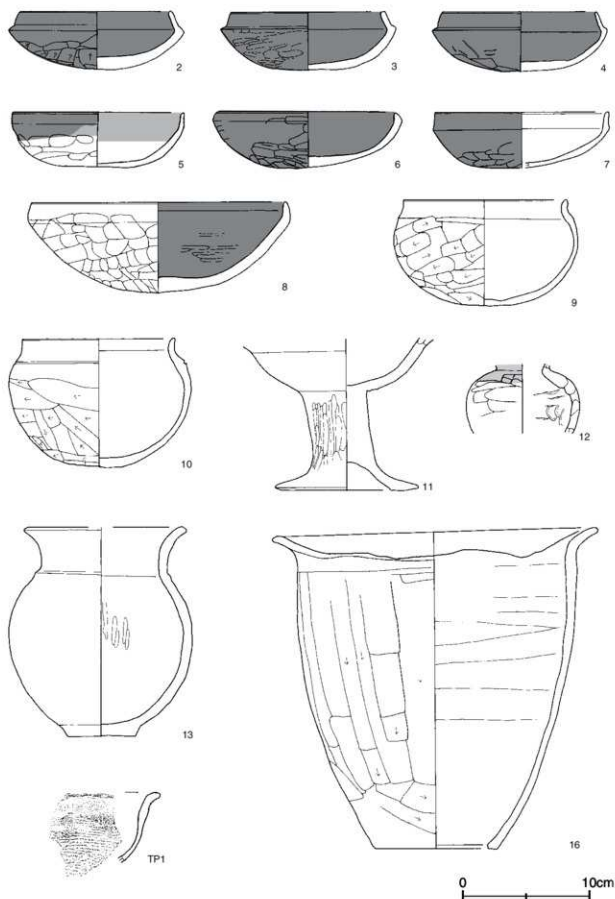
覆土 15層に分層できる。焼土粒子や炭化粒子を含み、ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。第16・17層は貼床の構築土である。

土層解説

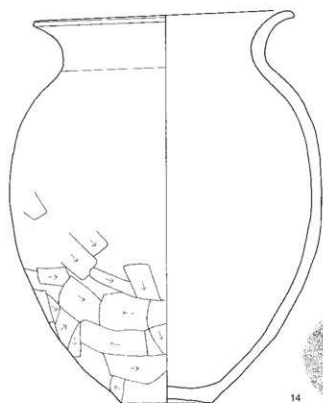
- | | | | |
|---------|--------------------------|---------|---------------------------|
| 1 褐 色 | ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 10 褐 色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量 | 11 褐 色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量、炭化物極微量 |
| 3 暗 褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 12 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 |
| 4 褐 色 | ロームブロック中量、炭化物微量、焼土粒子極微量 | 13 黒 褐色 | 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 5 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 | 14 暗 褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 6 黒 褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 15 褐 色 | ロームブロック中量、炭化粒子極微量 |
| 7 暗 褐色 | 炭化物少量、ロームブロック微量、焼土粒子極微量 | 16 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 17 黒 褐色 | ロームブロック微量 |
| 9 暗 赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量 | | |



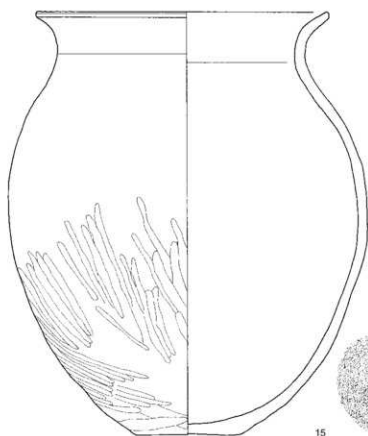
第11図 第3号住居跡実測図(3)



第12图 第3号住居跡出土遺物実測図(1)



14



15



第13图 第3号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況 土師器片 333点 (坏80, 碗2, 高坏16, 小形壺1, 甕類70, 瓶164), 須恵器片1点(坏), 粘土塊1点が, 北部の覆土中層から床面にかけて多量に出土している。16は貯蔵穴内の覆土中層から, 2~8・13は西コーナー部の床面からまとまって出土しており, 2は逆位, 5の上に3・6が重なった状況でそれぞれ正位, 4・5の破片や6~8は床面から7・5・6・8・4の順に重なった状況で正位, 13は横位でそれぞれ出土している。9・10・15は北コーナー部, 14は北西壁際, 11は竈内と右袖付近の床面から, TP1は貯蔵穴付近の覆土中層からそれぞれ出土している。12は北東壁際の覆土上層から出土している。

所見 床面が焼け, 炭化材が出土していることから焼失住居である。時期は, 出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第3号住居跡出土遺物観察表 (第12・13図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
2	土師器	坏	118	46	-	長石・石英・雲母	赤	普通	体部外面へう張り 内面横ナデ 口縁部外・内面横ナデ 二次焼熟煎	床面	100% PL16
3	土師器	坏	122	46	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へう張り 口縁部外・内面横ナデ	床面	100% PL16
4	土師器	坏	123	47	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へう張り後ナデ 口縁部外・内面横ナデ外・内面二次焼熟煎	床面	99% PL16
5	土師器	坏	136	45	50	長石・石英	橙	普通	体部外面へう張り後ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	99%
6	土師器	坏	143	45	-	長石・雲母・赤色粘土	橙	普通	体部外面へう張り上段ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	99% PL16
7	土師器	坏	136	45	-	長石・石英・雲母	明赤黄	普通	体部外面へう張り後ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	60% PL16
8	土師器	坏	202	72	-	長石・雲母・赤色粘土	橙	普通	体部外面へう張り 内面横ナデ後一部へう張り 口縁部外・内面横ナデ	床面	99% PL20
9	土師器	瓶	130	83	-	長石・石英・雲母	赤橙	普通	体部外面へう張り 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ 二次焼熟煎	床面	100% PL21
10	土師器	瓶	120	102	-	長石・石英・雲母	赤橙	普通	体部外面へう張り 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ 二次焼熟煎	床面	99% PL21
11	土師器	高坏	-	1120)	114	長石・石英・雲母	明赤黄	普通	体部外面へう張り 内面横ナデ 腹部へう張り 腹部外面横ナデ 内面ナデ 口縁部外面横ナデ	床面	79% PL21
12	土師器	小形壺	-	(55)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へう張り後ナデ 煎置圧着	覆土上層	70%
13	土師器	壺	1122)	166	53	長石・石英・雲母	橙	普通	外面二次焼熟煎 体部内面へう張りナデ 口縁部内面横ナデ	床面	98% PL22
14	土師器	壺	200	312	72	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り後上段ナデ 口縁部外・内面ナデ 腹径	床面	99% PL24
15	土師器	壺	229	336	82	長石・石英・雲母	赤橙	普通	体部外面へう張り後下半腹径のへう張り 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	99% PL25
16	土師器	瓶	254	254	96	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面横位のへう張り 下部前方へのへう張り 口縁部外・内面横ナデ 口縁部に切り込み	貯蔵穴 覆土中層	99% PL26

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP1	土師器	壺	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい橙	体部外面横置工具による横ナデ 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土中層	3%

第4号住居跡 (第14~18図)

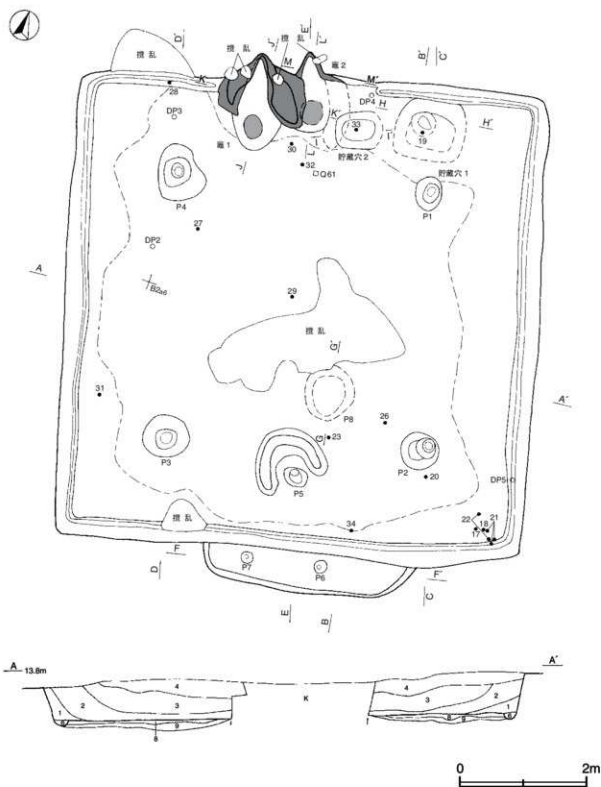
位置 調査区中央部のA2J6区, 標高136mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸7.64m, 短軸7.52mの方形で, 主軸方向はN-19°-Wである。壁高は50~65cmで, ほほ直立している。南壁中央部には, 幅3.40m, 奥行0.67mほどの張り出し部がある。

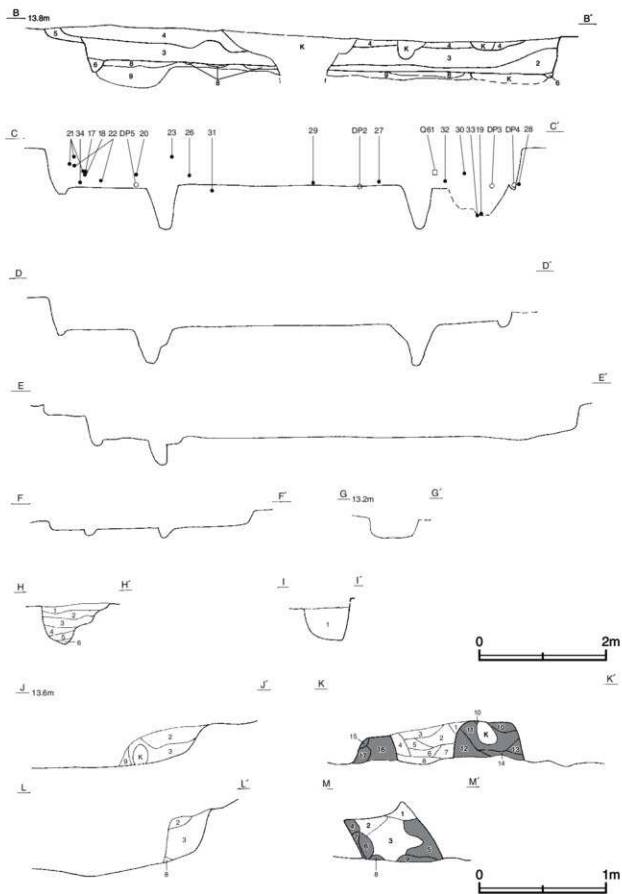
床 ほほ平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は全面を10~44cmほど掘り込み, ロームブロック主体の褐色土を埋土して構築されている。壁下には, 壁溝が巡っている。P5の周囲には, 馬路状の高まりが見られる。

竈 2か所。竈1は北壁中央からやや西寄りに付設されている。規模は焚き口から煙道部まで154cmで, 燃焼部幅は52cmである。袖部は, 床面と同じ高さでロームブロックを中心とした第10~17層を積み上げて構築されている。火床部は床面から4cmくぼんでおり, 火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に44cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。竈2は北壁中央部に付設されている。左袖は竈1の右袖に再利

用されていると推測できるが、左袖はなく、壁外へ延びる煙道部のみを確認した。確認できた規模は、焚口から煙道部まで130cmで、燃焼部幅は不明である。袖部は、床面と同じ高さにロームブロックと砂質粘土を中心とした第4～9層を積み上げて構築されている。煙道部は壁外に36cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。袖の遺存状況から竈2が古く、竈1が新しいと考えられる。



第14図 第4住居跡実測図(1)



第15图 第4号住居跡实测图(2)

■ 1土層解説

1	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量、炭化粒子・砂粒極微量	10	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量、粘土粒子極微量
2	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子・砂粒微量	11	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物・黄粘土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量、炭化粒子・粘土粒子極微量	12	褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、砂質粘土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子極微量	13	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量、粘土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子極微量	14	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量、焼土粒子・粘土粒子極微量
6	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量	15	褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
7	暗赤褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量、砂粒極微量	16	褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
8	極暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化物・ローム粒子少量	17	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量、砂質粘土粒子極微量
9	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量			

■ 2土層解説

1	褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	6	にじみ褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子少量
2	褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	7	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量
3	にじみ褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量	8	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4	褐色	焼土粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・砂質粘土粒子極微量
5	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量			

ピット 8か所。P1～P4は深さ57～68cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ40cmで、位置や硬化面の広がりや周囲に馬蹄状の高まりがあることから出入口施設に伴うピットと考えられる。また、P6・7は深さ10・16cmで、これらも出入り口施設と思われる張り出し部にあることから、P5と同じ性格のピットと考えられる。P8は深さ32cmで、床下からの確認であることや、出土遺物がないことから性格は不明である。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は長軸110cm、短軸96cmの隅丸長方形で、北東コーナーからやや西寄りの部分に位置している。深さは62cm、底面は平坦で壁は外傾して立ち上がっている。覆土第1層は粘土を多量に含んでおり、貯蔵穴1が使用されなくなった後、床として構築された可能性がある。貯蔵穴2は、長軸76cm、短軸60cmの隅丸長方形で、竈2の右袖部と推定される所に位置している。深さは52cm、底面は平坦で壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2と竈2の重複関係から、竈2に貯蔵穴1が、竈1に貯蔵穴2が共存するものと考えられる。

貯蔵穴1土層解説

1	褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック少量、焼土粒子微量、炭化粒子極微量	4	褐色	ロームブロック中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量
2	褐色	ロームブロック中量、炭化物微量、粘土ブロック・焼土粒子極少量	5	にじみ褐色	粘土粒子多量、ロームブロック中量
3	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	6	褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量

貯蔵穴2土層解説

1	灰褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量
---	-----	------------------

覆土 7層に分層できる。周囲から流入した堆積状況であることから自然堆積である。第8・9層は貼床の構築土である。

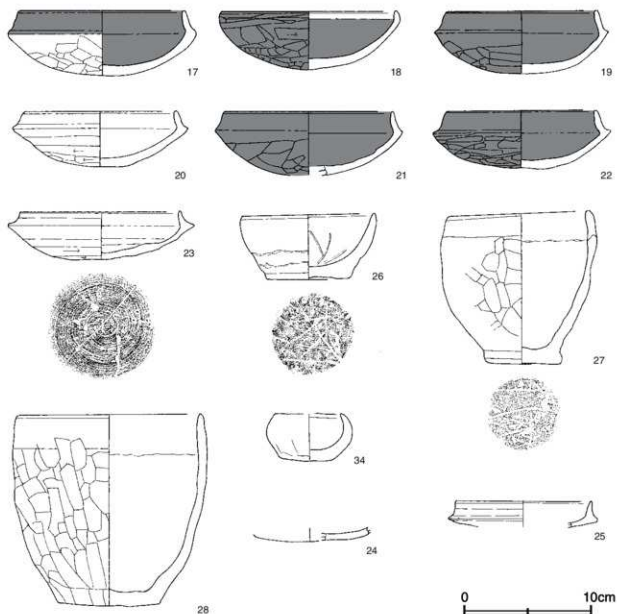
土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子極微量
4	黒色	ローム粒子微量	9	褐色	ロームブロック中量
5	褐色	ローム粒子少量			

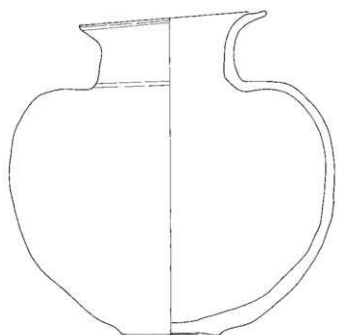
遺物出土状況 土師器片1009点(坏398、輪8、高坏3、鉢2、壺1、甕型524、甌71、手捏土器2)、須恵

器片3点(坏), 石製品2点(砥石), 土製品8点(土玉3, 管状土錘1, 支脚1, 紡錘車1, 横造鏡2)が
 竈前の床上や南部の覆土上層から下層にかけて多量に出土している。また, 流れ込んだ縄文土器片2点(深鉢)
 のほか, 混入した須恵器片1点(坏), 土師質土器片2点(擂鉢, 内耳鍋), 陶器片1点(碗)も出土している。
 19は貯蔵穴1の覆土下層から, 33は貯蔵穴2の覆土中からそれぞれ出土している。34は南壁際, 31は西壁際,
 29は中央, 32は竈前, 27・DP2・DP3はP4付近, DP4は北壁際の床面からそれぞれ出土している。28
 は北壁, DP5は東壁溝から出土している。26はP2付近の覆土下層から, 20はP2付近, 30・Q61は竈前
 の覆土中層から, 23は南部の覆土上層からそれぞれ出土している。24・25・DP6・Q62は覆土中からそれ
 ぞれ出土している。17・18・21・22は南東コーナーから流れ込むような状態でそれぞれ出土している。

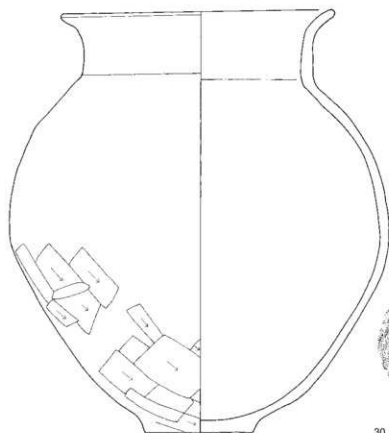
所見 23はTK209式期に比定でき, 第5号住居跡の覆土中層から出土した須恵器片と接合関係にあり, 本跡
 と第5号住居跡が廃絶され, 窪地状になったところへ投棄されたものと考えられる。時期は, 出土土器から
 6世紀中葉に比定できる。



第16図 第4号住居跡出土遺物実測図(1)



29



30



DP4



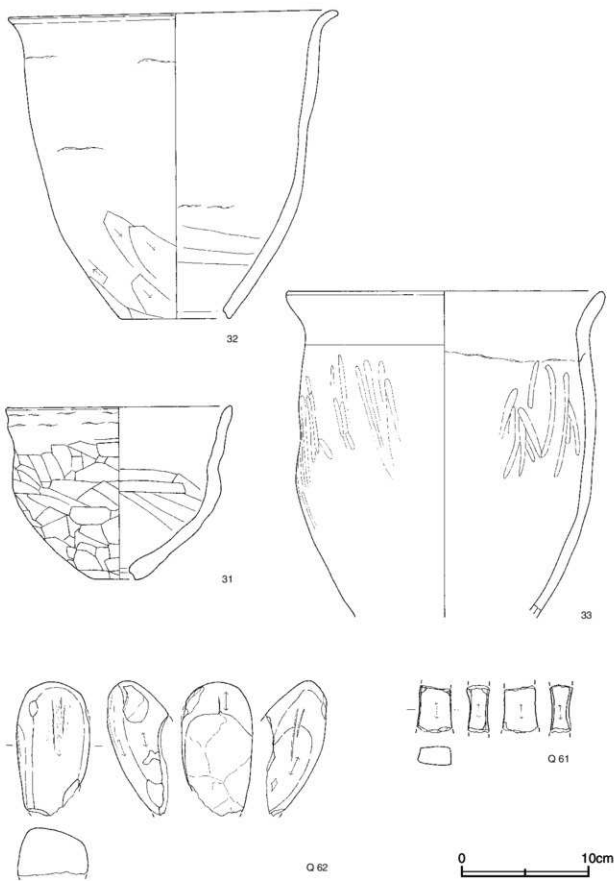
DP6



DP5



第17图 第4号住居跡出土遺物実測図(2)



第18图 第4号住居跡出土遺物実測図(3)

第4号住居跡出土遺物観察表 (第16～18図)

番号	種類	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	地成	手法の特徴はか	出土位置	備考
17	土師器	杯	132	51	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り 土師横ナデ 内面横ナデ 1線部外・内面横ナデ	商業コーナー	95% PL16
18	土師器	杯	139	46	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	体部外面へう張り 内面横ナデ	商業コーナー	98% PL16
19	土師器	杯	119	49	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	灰青褐色	普通	体部外面へう張り 土師横ナデ 1線部外・内面横ナデ	貯蔵穴1 覆土中層	100% PL16
20	土師器	杯	120	44	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り長一筋ナデ 1線部外・内面横ナデ	覆土中層	98% PL16
21	土師器	杯	134	50	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい青褐色	普通	体部外面へう張り長ナデ 1線部外・内面横ナデ	商業コーナー	90% PL16
22	土師器	杯	120	46	-	長石・雲母・黒色	黒灰	普通	体部外面へう張り土師へうナデ 1線部外・内面横ナデ	商業コーナー	80%
23	須恵器	杯	126	38	-	長石・石英・雲母	灰青ナラフ	普通	体部外面下端回転へう張り 内面回転ナデ	覆土上層	70% PL16
24	須恵器	杯	-	(11)	-	長石・石英	灰青褐色	普通	回転ナデ	覆土中	5%
25	須恵器	杯	(108)	(20)	-	長石・石英	灰	普通	回転ナデ	覆土中	5%
26	土師器	瓶	106	53	66	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ナデ 内面へうナデ	覆土下層	80% PL21
27	土師器	鉢	108	122	57	長石・石英・雲母 黒褐色	橙	普通	体部外面へう張り長ナデ 内面へうナデ 1線部外・内面横ナデ	床面	75% PL21
28	土師器	鉢	144	152	(80)	長石・石英・雲母 黒褐色	橙	普通	体部外面横位のへう張り 内面へうナデ位置位のナデ調整 1線部外・内面横ナデ 二次被熱器	壁溝内	70% PL21
29	土師器	甕	148	258	73	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へう張り長ナデ 内面へうナデ 1線部外・内面横ナデ	床面	70% PL24
30	土師器	甕	212	336	85	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へう張り長ナデ 下空へう張り 内面ナデ 1線部外内面横ナデ 底底へう張り	覆土中層	90% PL24
31	土師器	瓶	178	137	33	長石・石英・雲母 黒褐色	橙	普通	体部外面へう張り 内面へうナデ 1線部外・内面横ナデ	床面	95% PL26
32	土師器	瓶	257	248	90	長石・石英・雲母 赤色粒子・黒褐色	にぶい橙	普通	体部外面へう張り長ナデ 下空へう張り 内面へうナデ 1線部外・内面横ナデ	床面	85% PL28
33	土師器	瓶	[248]	(259)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	橙	普通	体部外面へう張り長ナデ調整のへう巻き 内面横ナデが底一部へう巻き 1線部外・内面横ナデ	貯蔵穴2 覆土中	70%
34	土師器	子粒土器	(50)	38	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り長ナデ 内面ナデ	床面	80% PL20

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DF2	土玉	08	09	02	(96)	土(雲母)	黒褐色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	床面	PL27
DF3	土玉	10	09	01	09	土(長石・雲母)	黒褐色 一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL27
DF4	胡麻串	40	25	06	379	土(長石・石英)	褐色 一方向からの穿孔 ナデ 一部へう巻き	床面	PL28

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DF5	横溝瓦	6.8	5.9	2.0	0.3	(36.6)	土(長石・石英・雲母)	褐色 縦部をナデ後接ぎ縦溝に貼り付け 二方向からの穿孔 一部欠損	壁溝内	PL28
DF6	横溝瓦	(4.3)	(4.1)	1.2	-	(15.8)	土(長石・石英・赤色粒子)	褐色 表裏ナデ 一部欠損	覆土中	PL28

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q61	磁石	(3.8)	(2.8)	1.8	(250)	凝灰岩	縦面4面 両端欠損	覆土中層	
Q62	磁石	(10.6)	5.6	4.9	(345.0)	安山岩	縦面4面のうち2面に溝状の縦線 一部欠損	覆土中	PL29

第5号住居跡 (第19・20図)

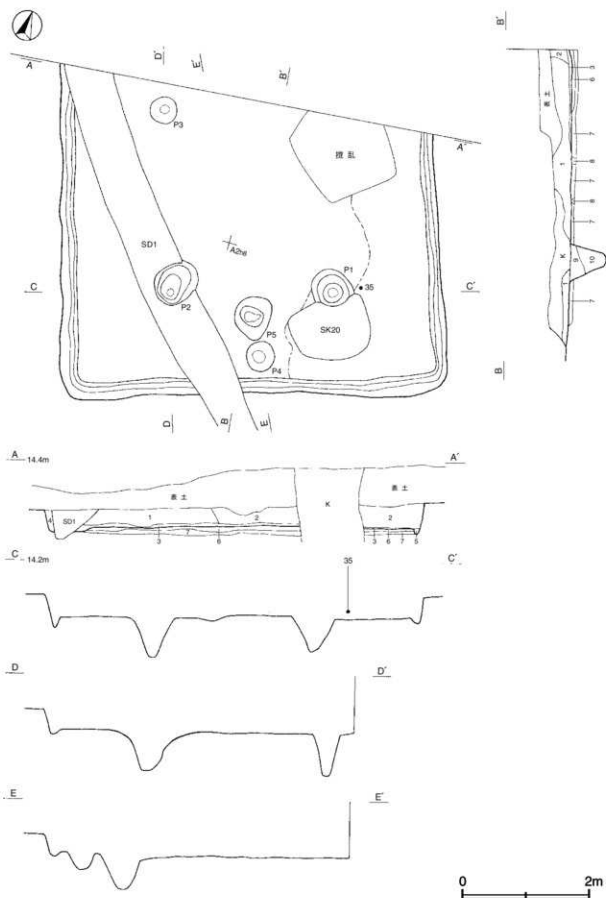
位置 調査区中央部北端のA2g7区、標高13.6mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第20号土坑、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外に延びているため、東西軸は6.08mで、南北軸は5.30mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、長軸方向はN-81°-Eである。壁高は28～34cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、北東壁際を除いた全面が踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体の褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。

ピット 5か所。P1～P3は深さ56～66cmで、配置から主柱穴である。P4・5は深さ30・46cmで、位置



第19图 第5号住居跡実測図

や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。

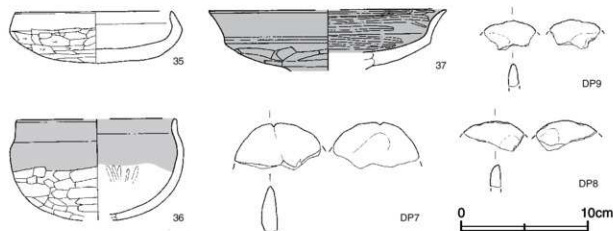
覆土 7層に分層できる。ロームブロックやローム粒子が含まれている堆積状況であるが、周囲から流れ込んだ堆積状況であることから自然堆積であると判断した。第6～8層は貼床の構築土である。

土層解説

1 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック微量、炭化粒子極微量
2 褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック多量
3 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・黒色粒子極微量	8 褐色	ロームブロック少量
4 褐色	ロームブロック中量	9 暗褐色	ロームブロック微量、炭化粒子極微量
5 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	10 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片420点（坏116、碗4、高坏2、甕類262、瓶35、手捏土器1）、石製品1点（砥石）、土製品6点（支脚、模造鏡）が、南部を中心に覆土中層から下層にかけて出土している。35はP1付近の覆土下層から、36・37・DP7～9は覆土中からそれぞれ出土している。覆土中から、第4号住居跡出土の23と接合関係にある須恵器坏片が出土している。

所見 DP7～9は接合関係にはないが、形状や材質などから同一個体の可能性がある。第4号住居跡と接合関係にある出土遺物があることから、第4号住居跡とはほぼ同じ時期に遺物が一括投棄されたと判断したが、時期は出土土器から6世紀前葉に比定できる。



第20図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表（第20図）

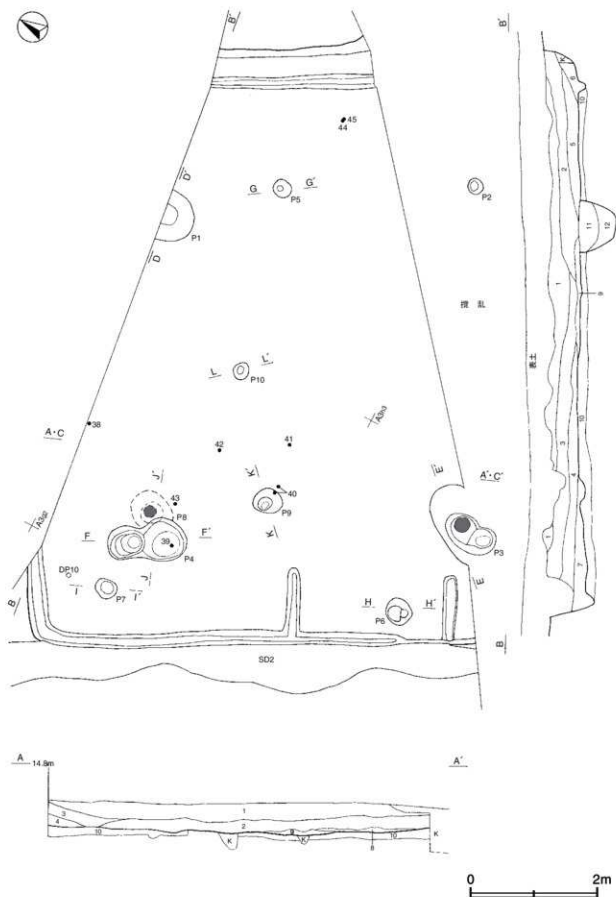
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
35	土師器	坏	122	40	-	長石・石英・雲母 黒色粒子	橙	普通	体部外面へう張り L線部外・内面横ナデ	覆土下層	98% PL26
36	土師器	碗	124	730	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り 内面へう張り L線部外・内面横 ナデ	覆土中	5%
37	土師器	高坏	188	47	-	長石・石英・雲母	赤	普通	口部外面へう張り 内面へう張り L線部外面 横ナデ	覆土中	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP7	模造鏡	58	68	07	-	(236)	土（長石・石英）	にぶい青碧 両面ナデ 一部彫刻痕	覆土中	PL28
DP8	模造鏡	24	48	09	-	(70)	土（長石・石英）	にぶい青碧 両面ナデ	覆土中	PL28
DP9	模造鏡	24	44	09	-	(60)	土（長石・石英・赤 色粒子）	にぶい青碧 両面ナデ	覆土中	PL28

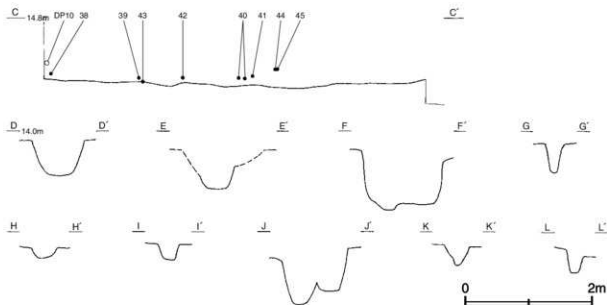
第6号住居跡（第21～23図）

位置 調査区中央部北端のA3g2区、標高143mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2号溝に掘り込まれている。



第21图 第6号住居跡实测图(1)



第22図 第6号住居跡実測図(2)

規模と形状 北部が調査区域外に延び、南部が攪乱を受けているため、北東・南西軸は9.64mで、北西・南東軸は7.02mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、長軸方向は $N-56^{\circ}-E$ である。壁高は36～57cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、硬化面は確認できなかった。貼床は、ロームブロック主体の褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。南西壁から中央に向かい、2条の間仕切り溝が延びている。

ピット 10か所。P1～P4は深さ44～58cmで、配置から主柱穴である。P8は深さ53cmで、貼床を剥がした段階で確認できた。柱の当たりが確認できたことから、古い柱穴と考えられ、本跡は立て替えられた可能性がある。従って、P3の内側の柱の当たりは立て替え前の柱穴の痕跡と推測できる。P5～7・9・10は深さ24～45cmで、性格不明である。

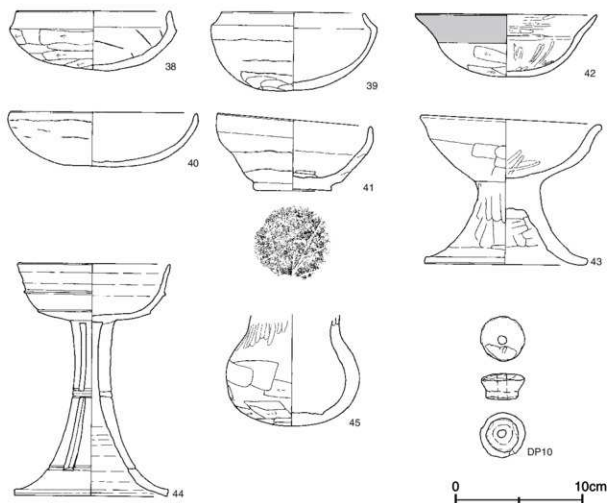
覆土 11層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子を含み、ブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。第10層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子極微量	7 暗 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子・礫微量、焼土粒子極微量
2 暗 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量	8 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子極微量
3 黒 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・礫少量	9 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 褐 色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・礫少量	10 褐 色	ロームブロック多量
5 暗 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子・礫微量	11 褐 色	ロームブロック中量、細礫・炭化粒子微量
6 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子・礫微量、焼土粒子極微量	12 褐 色	ロームブロック多量、細礫微量、炭化粒子極微量

遺物出土状況 土師器片633点(坏166, 椀9, 高坏59, 壺1, 甕類347, 飯51), 須恵器1点(高坏), 粘土塊1点が西部を中心に、覆土中層から下層にかけて出土している。また、混入した縄文土器片1点, 鉄洋1点(17.5g), 不明鉄製品1点も出土している。43はP8付近の床面から、39はP4の確認面上から、38は北部、40はP9付近、42は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。41は中央部の覆土中層から、44・45は東壁際、DP10は北西コーナー付近の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 44はTK209式期に比定でき、覆土上層から出土しており、埋め戻しの際に一括投棄されたものと判断した。時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。



第23図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表 (第23図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
38	土師器	杯	122	47	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	橙	普通	外部外面へう張り 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	100% PL17
39	土師器	杯	113	62	-	長石・石英・雲母	におい橙	普通	外部外面へう張り残ナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	100% PL17
40	土師器	杯	148	43	44	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	外部外面へうラナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	90%
41	土師器	杯	121	61	62	長石・石英・雲母	橙	普通	体底外・内面横ナデ 内面一部へう張り 口縁部外・内面横ナデ 本蓋痕	覆土中層	95% PL17
42	土師器	杯	146	49	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	におい黄橙	普通	外部外面へう張り残ナデ 内面へう巻き 口縁部外面横ナデ 内面へう巻き	覆土下層	70%
43	土師器	高杯	141	118	[130]	長石・石英・雲母 赤色粒子	橙	普通	外部外面へう張り残ナデ調整 内面へう巻き 外部外面へう巻き 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	50% PL21
44	灰土器	高杯	122	184	122	長石	灰	良好	外・内面ナデナデ 外部外面下半へう杖工具による沈着 胴部定着3本 2段透かし3孔	覆土上層	90% PL21
45	土師器	小形皿	-	(80)	-	長石・石英・雲母	赤	普通	外部外面へう張り残ナデ 内面ナデ 外部外面腹位のへう巻き 内面ナデ	覆土上層	70% PL22

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP10	磁器片	35	20	07	[232]	土(長石・石英)	刺青銅色 一方からの穿孔 ナデ 一部欠損	覆土上層	PL28

第7号住居跡 (第24～26図)

位置 調査区中央部のB2c0区。標高14.0mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第45号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 6.24 m, 短軸 6.11 m の方形で, 主軸方向は N - 52° - W である。壁高は 53 ~ 62cm で, 外傾して立ち上がっている。南東壁中央部には, 幅 4.08 m, 奥行 0.46 m ほどの張り出し部がある。

床 平坦な貼床で, 中央部と壁際が踏み固められている。貼床は, ロームブロック主体の褐色土を埋土して構築されている。壁下には, 壁溝が通っている。北東壁と南西壁から各 2 条の中央へ延びる間仕切り溝が確認できた。P 5 付近には, 約 6cm 程の高まりがある。

竈 北西壁の中央部に付設されている。攪乱により屋外への掘り込みは確認できなかった。確認できた規模は, 焚き口部から煙道部まで 100cm で, 燃焼部幅は 46cm である。袖部は床面から 7cm ほど皿状に掘りくぼめた部分に第 12・13 層を埋土して, 砂粒と礫を含む第 8 ~ 11 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から 4cm ほどくぼんでおり, 赤変硬化とも弱い。攪乱のため壁外に延びる煙道部は, 確認できなかった。

覆土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子・細礫・細砂少量	8 褐 色	ローム粒子・炭化粒子・細礫少量, 細礫・黄褐色砂粒微量
2 暗 褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・細礫・細砂少量, 焼土粒子微量	9 褐 色	黄褐色砂粒中量, 細礫少量, 微量, 炭化粒子極微量
3 ぶい・黄褐色	砂質粘土粒子多量, 細礫・細砂少量, ローム粒子, 炭化粒子微量	10 黄 褐色	黄褐色砂粒多量, 細礫中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
4 褐 色	焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子・細礫・細砂少量, ローム粒子微量	11 黒 褐色	細礫中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子・黄褐色砂粒極微量
5 褐 色	ロームブロック中量, 焼土粒子極微量	12 褐 色	ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子・黄褐色砂粒極微量
6 褐 色	ローム粒子・黄褐色砂粒・細礫少量	13 暗 褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量, 黄褐色砂粒極微量
7 褐 色	黄褐色砂粒中量, ローム粒子少量		

ピット 8か所。P 1 ~ P 4 は深さ 60 ~ 64cm で, 配置から支柱穴である。P 5 は深さ 22cm で, 位置や硬化面の広がりや周囲に馬蹄状の高まりがあることから出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6・7 は深さ 30・26cm で, これらも出入り口施設と思われる張り出し部にあることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 8 は深さ 10cm で, 床下から確認しており, 性格は不明である。

貯蔵穴 西コーナー部に位置している。長軸 98cm, 短軸 76cm の隅丸長方形である。深さは 34cm で, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。ロームブロックを含んでいるが, 覆土下層と含有物が類似していることから, 自然堆積と判断した。

貯蔵穴土層解説

1 褐 色	ロームブロック中量, 炭化物微量	2 暗 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
-------	------------------	--------	-------------------

覆土 7層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示していることから自然堆積である。第 8・9層は貼床の構築土である。

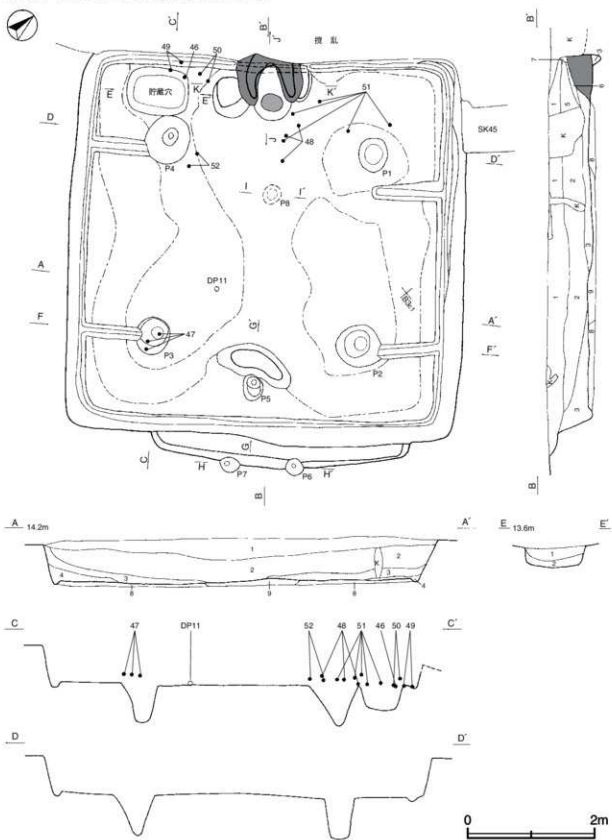
土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	6 暗 褐色	細礫中量, ロームブロック・炭化粒子少量
2 黒 褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	7 黒 褐色	炭化粒子少量
3 暗 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	8 褐 色	細礫中量, ローム粒子・黄褐色砂粒少量, 焼土ブロック微量
4 暗 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量	9 褐 色	ロームブロック中量, 粘土粒子微量
5 黒 褐色	ロームブロック・炭化粒子・細礫少量, 焼土粒子極微量		

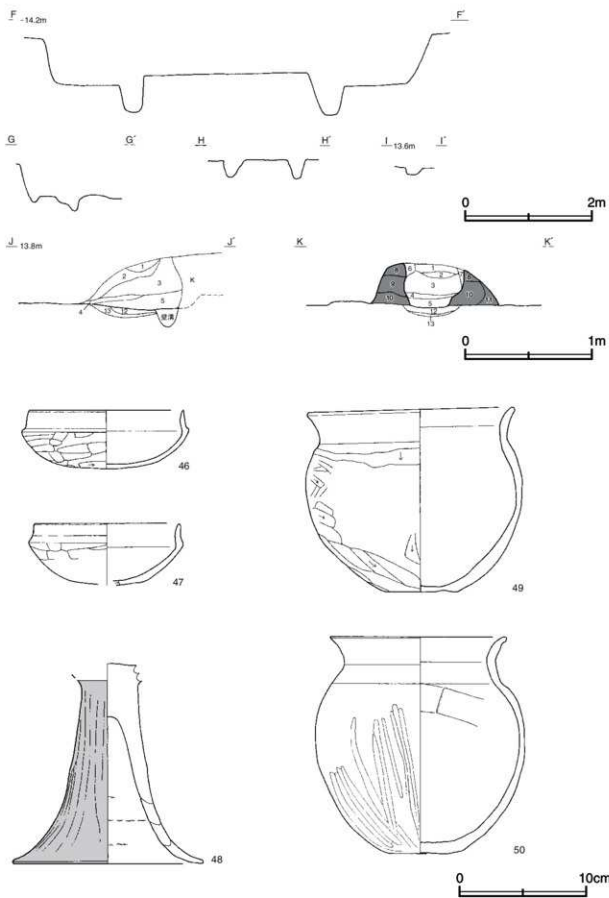
遺物出土状況 土師器片 1322 点 (坏 274, 碗 1, 高坏 24, 甕類 1011, 瓶 12), 須恵器片 2 点 (坏), 石製品 1 点 (白玉), 土製品 3 点 (支脚 2, 紡錘車 1), 鉄製品 1 点 (小札カ) が, 南東部の覆土中層から下層にかけて細かい破片の状態で出土している。また, 流れ込んだ剥片 2 点 (珪質頁岩, チャート) も出土している。46 は貯蔵穴の覆土上層から, 48 は甕前, 50 は北西壁際, DP11 は中央部の床面からそれぞれ出土している。49 は北西壁際の壁溝中及び床土から出土している。47 は P 3 の確認面上, 51 は北部, 52 は P 4 付近の覆土下層から, TP 2・M 1 は覆土中から, Q 63 は貼床の構築土中からそれぞれ出土している。

所見 大量の遺物が覆土中層から覆土下層にかけて出土していることから, 一括投棄されたものと思われる。

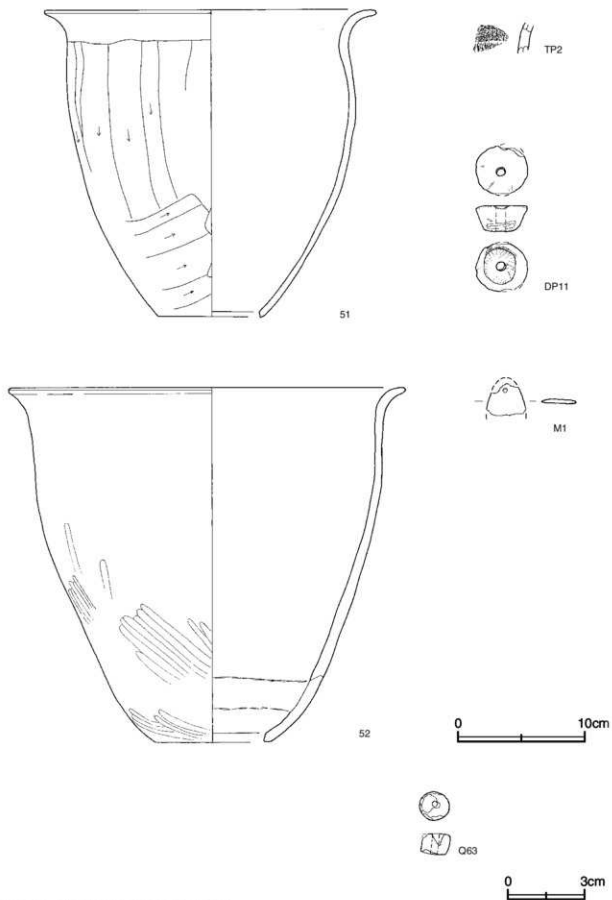
時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。



第24図 第7号住居跡実測図(1)



第25图 第7号住居跡・出土遺物実測図



第26图 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表 (第25・26図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施文	手法の特徴ほか	出土位置	備考
46	土師器	杯	12.3	4.6	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	明赤褐色	普通	外面ヘラ張り 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	竈底 覆土上層	80% PL17
47	土師器	杯	13.6	(5.0)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ張り後ナデ 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	60% PL17
48	土師器	高杯	-	(15.0)	15.0	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	胴部外面ヘラ張り 内面横ナデ 胴部外・内面横ナデ	床面	40%
49	土師器	甕	16.1	14.6	6.2	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ張り後ナデ 内面ヘラナデ後一部ナデ調整 口縁部外・内面横ナデ	竈底・床面	80% PL22
50	土師器	甕	(13.9)	17.2	4.7	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ張り後ナデ 下平ヘラナデ 内面ヘラナデ 口縁部外・内面横ナデ 二次焼直し	床面	80% PL23
51	土師器	甕	26.3	24.5	[8.1]	長石・石英・雲母 赤色粒子	橙	普通	体部外面腹位のヘラ張り後横位のヘラ張り 内面ナデ	覆土下層	70%
52	土師器	甕	31.2	28.2	9.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ナデ下平ヘラナデ 内面ナデ下平調整 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	70%

番号	種類	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP2	磁器	瓶	長石・石英・雲母	灰	体部平行引き	覆土中	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP11	磁器	4.2	2.1	0.7	(31.6)	土(長石・石英)	黄褐色 一方からの穿孔 断面一部ヘラナデ 底面取付口の沈み 一部欠損	床面	PL28

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q63	瓦	1.2	0.8	0.3	(1.5)	滑石	二方向からの穿孔 全面研磨 一部欠損	竈床積土	PL29

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	小札*	(2.5)	3.2	0.2	(3.3)	鉄	径0.3mmの穿孔 両端欠損	覆土中	PL30

第8号住居跡 (第27～31図)

位置 調査区中央部のB3a5区、標高14.5mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第30号住居跡を拡張し、第2号溝に掘り込まれている。

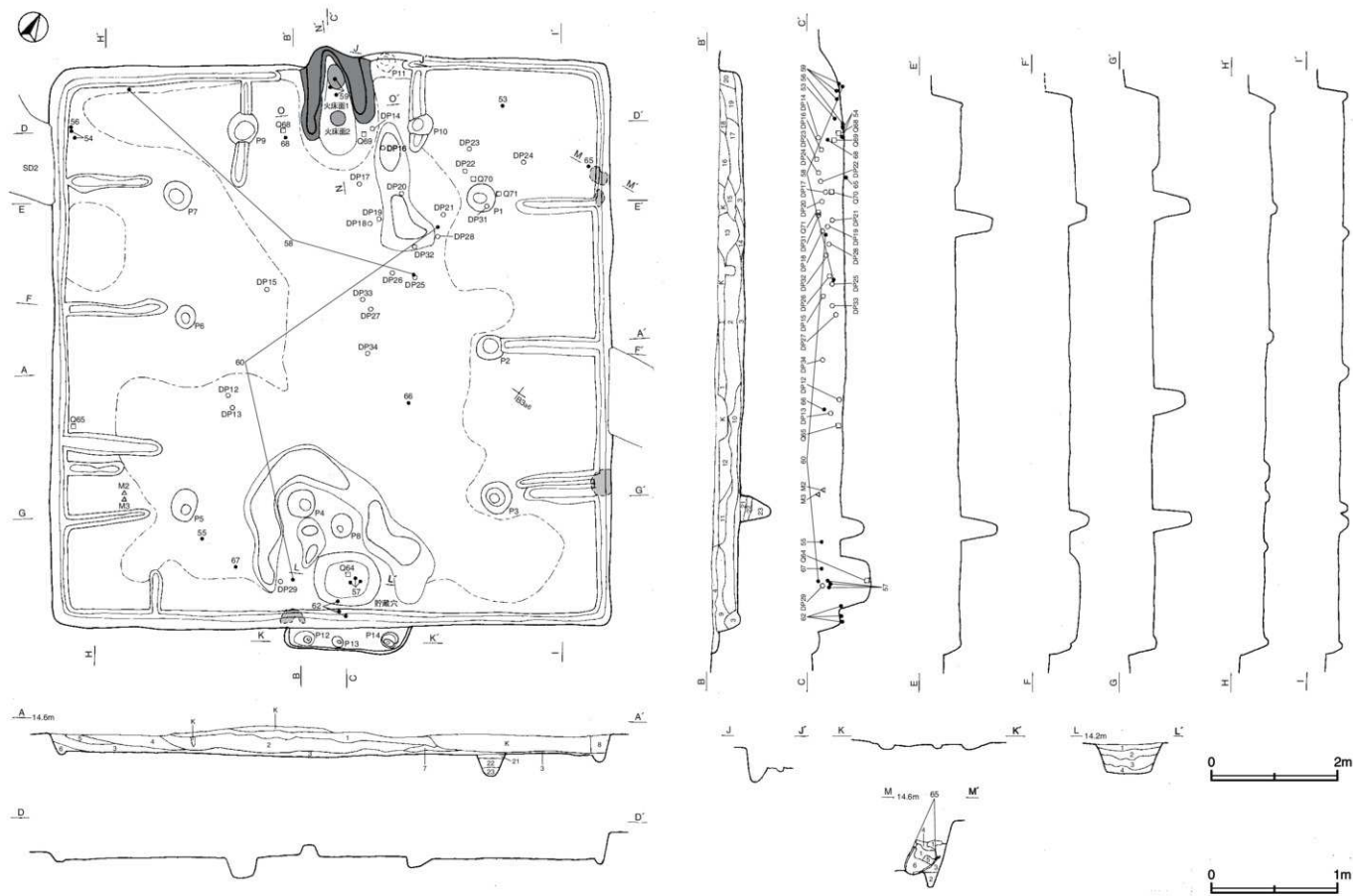
規模と形状 長軸9.18m、短軸9.05mの方形で、主軸方向はN-36°-Wである。壁高は21～46cmで、ほぼ直立している。南東壁中央には、幅1.96m、奥行0.38mほどの張り出し部がある。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、壁溝が巡っている。北東壁から4条、南東壁から1条の間仕切り溝、南西壁から5条の根太跡、北西壁から竈を区切るような2条の間仕切り溝が中央へ延びているのを確認した。P4・8と貯蔵穴の周りには、馬蹄状の高まりが見られる。北東壁及び南東壁の壁溝上から焼土塊を確認した。

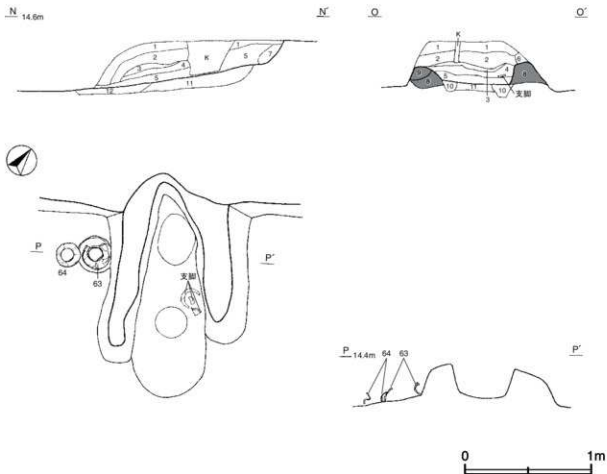
焼土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|----------------|
| 1 明赤褐色 | 焼土粒子極多量、炭化粒子極微量 | 4 赤褐色 | 焼土粒子中量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量・焼土ブロック極微量 | 5 褐色 | 焼土粒子微量、炭化粒子極微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 6 赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子微量 |

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで178cmで、燃焼部幅は55cmである。袖部は、床面から10cmほど掘りくぼめた部分に第10～12層を埋土して、砂質粘土を含む第8・9層を積み上げて構築されている。火床部は、床面とはほぼ同じ高さである。火床面は2か所あり、火床面1は焚口から105cm奥に、火床面2は焚口から48cm奥にあり、どちらも赤変硬化している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。袖の長さや火床面の状況から、縦並びの二掛竈と考えられる。火床面2の右側には支脚に転用したと思われる甕が逆位で出土しており、被熱のため極めて遺存状況が悪かった。



第27图 第8号住居跡实测图(1)



第28図 第8号住居跡実測図(2)

電土層解説

1 褐色	焼土ブロック微量、ロームブロック・炭化粒子・砂粒極微量	7 褐色	ロームブロック微量、焼土粒子・炭化粒子極微量
2 褐色	ロームブロック微量、焼土ブロック極微量	8 に近い褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量
3 暗褐色	焼土ブロック少量	9 に近い褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量、ロームブロック・炭化粒子極微量
4 に近い赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子極微量	10 褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量
5 に近い赤褐色	焼土ブロック少量	11 褐色	焼土粒子中量、粘土ブロック・ローム粒子微量
6 褐色	焼土ブロック微量、ロームブロック・砂質粘土粒子極微量	12 赤褐色	焼土粒子極多量

ピット 14か所。P1～P7は深さ32～65cmで、配置から支柱穴である。P8は深さ38cmで、位置や硬化面の広がりや周囲に馬蹄状の高まりがあることから出入口施設に伴うピットと考えられる。P9・10は深さ34・18cmで竈を覆う構築物に関わるピットと考えられる。P12～P14は深さ6～8センチで、これらも出入口施設と思われる張り出しにあることから、P8と同じ性格のピットと考えられる。P11は深さ25cmで、床下から確認したが、性格は不明である。

貯蔵穴 南西壁中央の出入口ピットの内側に位置している。長軸109cm、短軸85cmの隅丸長方形である。深さは50cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。周囲には、馬蹄状の高まりが見られる。

貯蔵穴土層解説

1 灰褐色	ローム粒子中量、炭化物少量	3 暗褐色	ローム粒子微量、焼土粒子極微量
2 褐色	ローム粒子微量	4 褐色	ロームブロック中量

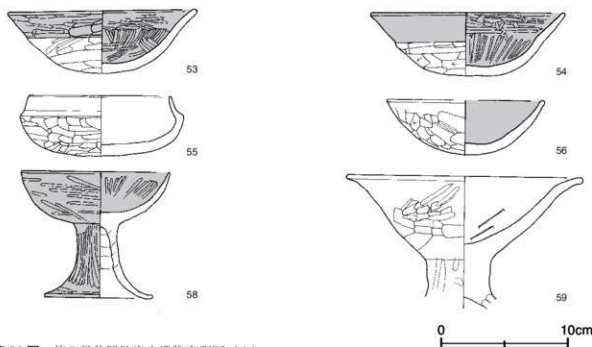
覆土 23層に分層できる。各層がローム粒子や焼土粒子を主体にした覆土であることから、埋め戻されている。

土層解説

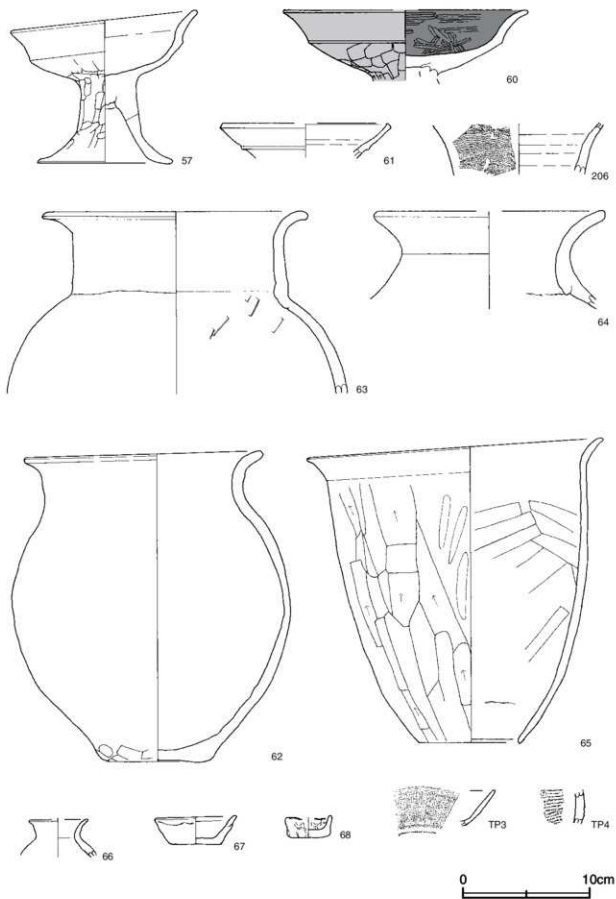
1 極暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極微量	12 暗褐色	ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量、炭化粒子極微量	13 褐色	ローム粒子微量、炭化粒子極微量
3 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極微量	14 黒褐色	ローム粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	15 極暗褐色	焼土ブロック中量、炭化物極微量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物極微量	16 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物極微量
6 褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子極微量	17 褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量、炭化粒子極微量
7 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量、炭化粒子極微量	18 褐色	ローム粒子・焼土粒子極微量
8 暗褐色	炭化物・焼土粒子微量、ローム粒子極微量	19 褐色	ローム粒子中量
9 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック微量、炭化粒子極微量	20 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子極微量
10 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量、炭化粒子極微量	21 褐色	ローム粒子微量、焼土粒子・炭化粒子極微量
11 灰褐色	ローム粒子中量、炭化材・焼土粒子極微量	22 暗褐色	ロームブロック微量、焼土粒子極微量
		23 褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片 3717点（坏1613、碗1、高坏196、壺5、甕類1899、瓶1、ミニチュア土器2）、須恵器片3点（坏1、甕2）、土製品23点（支脚1、勾玉3、土玉16、白玉3）、石器5点（砥石4、金床石1）、石製品3点（白玉2、藁玉1）、鉄器2点（刀子）、炭化種子3点が、出入口部やP1付近を中心に覆土上層から下層にかけて細かい破片の状態出土している。また、混入した須恵器片2点（瓶）、石核1点（チャート）剥片4点（チャート）も出土している。Q64は貯蔵穴の覆土下層から、54・56・Q65は南西壁際、63・64・Q68は竈左袖、DP12は中央部、65は北東壁から焼土が中に詰まった立位の状態、それぞれ床面から出土している。63・64は口縁部から体部上端までしか残存しておらず、器台として床上に据えられていたと考えられる。53は北コーナー、58は北西壁と中央部、59は竈内、62は出入口付近の壁下、68は竈左袖付近、Q69は竈右袖付近、DP13は中央部の覆土下層から、55・67・M2・M3は南部、57・DP29は出入口付近、60はP1付近と出入口、66は中央部、Q70・Q71はP1付近の覆土中層からそれぞれ出土している。61・TP3・TP4・Q66・Q67は覆土中から、DP30は竈内の覆土中からそれぞれ出土している。DP14～28・DP31～34は、竈前から北コーナー部の広い範囲にかけて投げ込まれたように覆土中層から下層にかけて出土している。

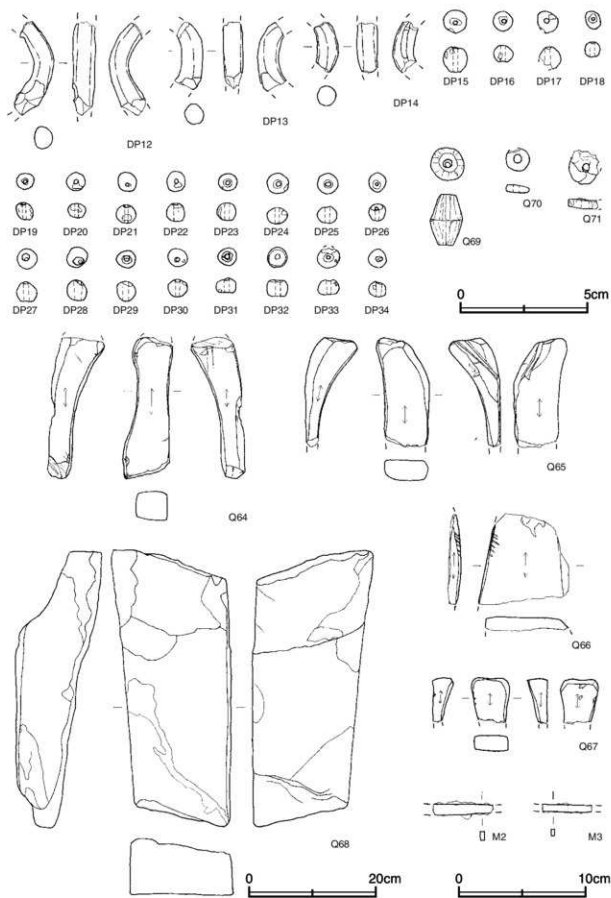
所見 時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。



第29図 第8号住居跡出土遺物実測図(1)



第30图 第8号住居跡出土遺物実測図(2)



第31图 第8号住居跡出土遺物実測圖(3)

第8号住居跡出土遺物観察表 (第29～31図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
53	土師器	杯	149	5.2	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外部外面へう張り 上段へう巻き 内面へう巻き 口縁部外面へう巻き	覆土下層	95% PL17
54	土師器	杯	154	5.1	-	長石・石英・雲母 赤色胎子	橙	普通	外部外面へう張り 内面縁位のへう巻き 口縁部外面 縁ナデ 内面縁位のへう巻き	床面	95% PL17
55	土師器	杯	112	4.8	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外部外面へう張り 口縁部外・内面縁ナデ	覆土中層	60% PL17
56	土師器	杯	[124]	4.3	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外部外面へう張り縁一部ナデ 内面縁部 口縁部外面 縁ナデ	床面	85% PL17
57	土師器	高杯	145	12.1	[10.8]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外部下段へう張り縁ナデ 脚部外面へう張り 内面へ うナデ 口縁部外面縁ナデ	覆土中層	85% PL21
58	土師器	高杯	116	10.1	8.6	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外部内面縁位のへう巻き 内面一部不明 脚部外面 縁部のへう巻き 内面ナデ	覆土下層	70% PL21
59	土師器	高杯	188	[10.5]	-	長石・石英・雲母 赤色胎子	橙	普通	外部外面へう張り縁一部へう巻き 内面一部へうナデ 脚部外面へう張り縁一部へう巻き 二次焼成痕	覆土上層 下層	40%
60	土師器	高杯	[192]	[5.2]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外部外面へう張り 内面へう巻き 口縁部外面縁ナデ 内面へう巻き	覆土中層	45%
61	須恵器	甌	[132]	[2.8]	-	長石・石英・雲母	灰色	普通	外・内面口ロナデ 自然釉	覆土中	5%
62	土師器	甌	186	24.6	8.0	長石・石英・雲母 赤色胎子	橙	普通	外部外面へう張り縁ナデ 内面へうナデ 口縁部外・ 内面縁ナデ	覆土中層	70% PL23
63	土師器	甌	204	[14.0]	-	長石・石英・雲母 赤色胎子・面焼	橙	普通	外部外面へう張り縁ナデ 内面へうナデ 脚部外面へ うナデ 口縁部外・内面縁ナデ	床面	20% PL24
64	土師器	甌	179	[7.8]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外部外面へう張り縁ナデ 内面へうナデ 口縁部外・ 内面縁ナデ	床面	30% PL24
65	土師器	甌	253	24.1	8.0	長石・石英・雲母 赤色胎子	橙	普通	外部外面へう張り縁へう巻き 内面へうナデ	床面	95% PL26
66	土師器	ミコトツ 土器	[45]	[2.9]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外部外面縁ナデ 口縁部外・内面縁ナデ	覆土中層	30%
67	土師器	ミコトツ 土器	6.3	2.3	4.0	長石・石英・雲母	橙	普通	外部外・内面縁ナデ	覆土中層	80% PL20
68	土師器	子持土器	[33]	1.7	2.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	磨損表面	覆土下層	50%
206	須恵器	甌	-	[4.1]	-	長石・石英	灰	良好	脚部外面に磨製状工具による成状文	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP3	須恵器	甌	長石・雲母	灰	口縁部外面縁位の沈線	覆土中	5%
TP4	土師器	甌	長石・石英・雲母	橙	外部平円形跡	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP12	写玉	(37)	(99)	0.9	-	(0.6)	土(石英)	にぶい褐色 ナデ 両端欠損	床面	PL27
DP13	写玉	(27)	(68)	0.8	-	(0.5)	土(石英・雲母)	黒色 ナデ 両端欠損	覆土下層	PL27
DP14	写玉	(20)	(68)	0.8	-	(0.4)	土(長石・石英)	褐色色 ナデ 両端欠損	覆土中層	PL27

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP15	土玉	1.0	0.9	0.2	1.0	土(雲母)	黒褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27
DP16	土玉	0.8	0.7	0.2	0.5	土(石英)	黒色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27
DP17	土玉	0.9	0.8	0.2	[0.6]	土(長石・石英)	黒色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	覆土中層	PL27
DP18	土玉	0.7	0.6	0.2	0.4	土(石英)	黒色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27
DP19	土玉	0.7	0.7	0.2	0.3	土(長石)	黒色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土下層	PL27
DP20	土玉	0.7	0.7	0.2	0.4	土(石英)	灰褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27
DP21	土玉	0.8	0.8	0.1	0.6	土(石英)	褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土下層	PL27
DP22	土玉	0.7	0.7	0.2	0.5	土(長石)	黒色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27
DP23	土玉	0.7	0.7	0.2	0.4	土(長石)	黒色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土下層	PL27
DP24	土玉	0.9	0.6	0.2	0.5	土(長石)	黒色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27

番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
DP25	土玉	08	0.6	0.2	0.5	土(灰石・赤色砂子)	黒褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土下層	PL27
DP26	土玉	07	0.7	0.1	0.4	土(石英)	黒褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土下層	PL27
DP27	土玉	08	0.8	0.3	0.5	土(石英)	黒色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土下層	PL27
DP28	土玉	08	0.8	0.4	0.6	土(石英)	黒色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土下層	PL27
DP29	土玉	08	0.8	0.2	0(0.4)	土(灰石)	黒褐色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	覆土下層	PL27
DP30	土玉	08	0.7	0.2	0.4	土(石英)	にぶい黄褐色 一方向からの穿孔 ナデ	壺内覆土中	PL27
DP31	白瓦	07	0.5	0.2	0.3	土(石英)	黒色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27
DP32	白瓦	08	0.6	0.2	0.6	土(石英)	明褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27
DP33	白瓦	09	0.6	0.2	0(0.4)	土(灰石)	黒色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	覆土下層	PL27
DP34	白瓦	08	0.6	0.3	0.3	土(石英)	黒色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q64	磁石	(11.2)	4.0	4.3	(148.0)	瀬灰岩	砥面3面	若草穴 覆土下層	PL29
Q65	磁石	(8.6)	4.3	4.2	(98.7)	瀬灰岩	砥面4面のうち1面に溝状の研磨痕	床面	PL29
Q66	磁石	(7.2)	7.2	1.1	(56.6)	粘板岩	砥面2面のうち1面に溝状の研磨痕 裏面全面に波り溝	覆土中	
Q67	磁石	(3.6)	3.0	1.6	(22.3)	瀬灰岩	砥面4面	覆土中	
Q68	赤床石	439	192	138	11600	砂岩	全面研磨痕	床面	PL29

番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q69	薬玉	13	2.0	0.4	4.6	黒色頁岩	二方向からの穿孔 全面研磨	覆土下層	PL29
Q70	白瓦	09	0.9	0.3	0(0.4)	滑石	一方向からの穿孔 全面研磨 一部欠損	覆土中層	PL29
Q71	白瓦	12	1.4	0.3	0(7)	滑石	一方向からの穿孔 全面研磨 一部欠損	覆土中層	PL29

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M2	刀子	(48)	0.9	0.3	(48)	鉄	基部の一部 両端欠損	覆土中層	
M3	刀子	(38)	0.6	0.3	(29)	鉄	基部の一部 両端欠損	覆土中層	

第9号住居跡 (第32・33図)

位置 調査区中央部のB3g4区、標高14.4mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第47・81号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部は掘削を受けているため、東西軸7.34m、南北軸は5.35mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、長軸方向はN-77°-Eである。壁高は68～71cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いた全面が踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体の暗褐色土と褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。P3・4の周りには馬蹄形の高まりが見られる。

ピット 4か所。P1・2は深さ91・86cmで、配置から主柱穴である。P3は深さ35cmで、位置や硬化面の広がりや周囲に馬蹄形の高まりが見られることから出入口施設に伴うピットと考えられる。P4は深さ23cmで、P3に付随するピットと考えられる。

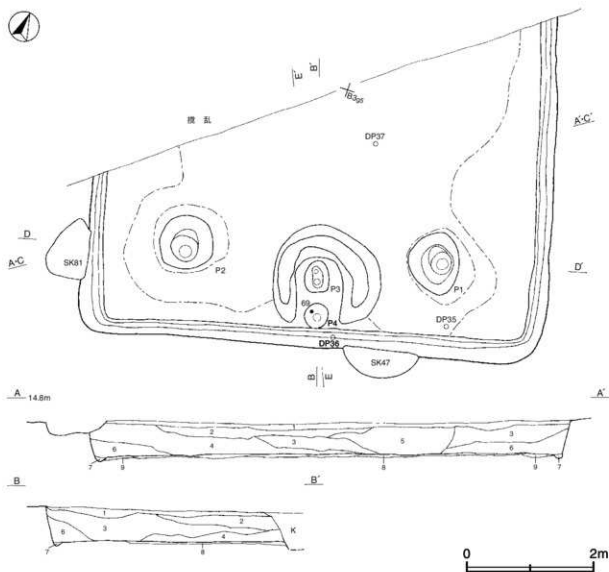
覆土 7層に分層できる。各層にロームブロック等を含み、不自然な堆積状況であることから人為堆積である。第8・9層は貼床の構築土である。

土層解説

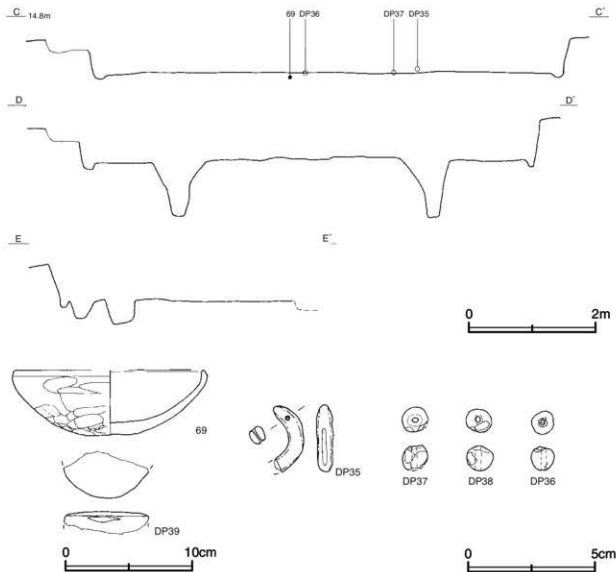
1	暗褐色	ロームブロック微量、焼土粒子・炭化粒子極微量	6	暗褐色	ローム粒子微量、焼土粒子極微量
2	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒子中量
3	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量	8	暗褐色	ロームブロック中量
4	暗褐色	ローム粒子少量	9	褐色	ロームブロック中量
5	極暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量			

遺物出土状況 土師器片 560 点 (坏 84, 碗 1, 高坏 18, 甕類 450, 瓶 7), 土製品 5 点 (勾玉 1, 土玉 3, 支脚 1), 鉄滓 6 点 (53.8 g) が南部の覆土上層から中層を中心に出土している。また、混入した縄文土器片 2 点 (深鉢) も出土している。DP37 は中央部の床面から、69 は P 4 の覆土上層、DP38 は P 3 の覆土中、DP36 は南壁溝の覆土中からそれぞれ出土している。DP35 は南壁際の覆土下層、DP39 は覆土中からそれぞれ出土している

所見 大量の遺物が覆土上層から覆土中層にかけて出土していることから、埋め戻しの際に一括投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。



第 32 図 第 9 号住居跡実測図



第33図 第9号住居跡・出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表 (第33図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
69	土器	杯	(15.0)	5.2	-	灰石・石莖	褐色	普通	外底外面ヘラ削り筋一起ヘラナデ 内面縁ナデ 11脚部斜・内面縁ナデ 底部ヘラ削り筋ナデ	F4裏土上層	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP35	写玉	(2.6)	(1.3)	0.6	0.1	(1.8)	土(灰石・石莖・雲母・黒色結子)	にぶい黄褐色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	裏土下層	PL27

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP36	土玉	0.9	0.9	0.2	0.7	土(灰石・石莖)	にぶい黄褐色 一方向からの穿孔 ナデ	礎溝内	PL27
DP37	土玉	1.0	1.0	0.2	(0.9)	土(灰石・石莖)	褐色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	床面	PL27
DP38	土玉	1.0	1.0	0.3	0.8	土(石莖・砂粒)	にぶい褐色 一方向からの穿孔 ナデ	F3裏土中	PL27

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP39	結晶半	(6.8)	1.8	-	(27.7)	土(灰石・石莖)	明黄褐色 ナデ	裏土中	

第10号住居跡 (第34・35図)

位置 調査区中央部南端のB3区画、標高146mの平坦な台地上に位置している。

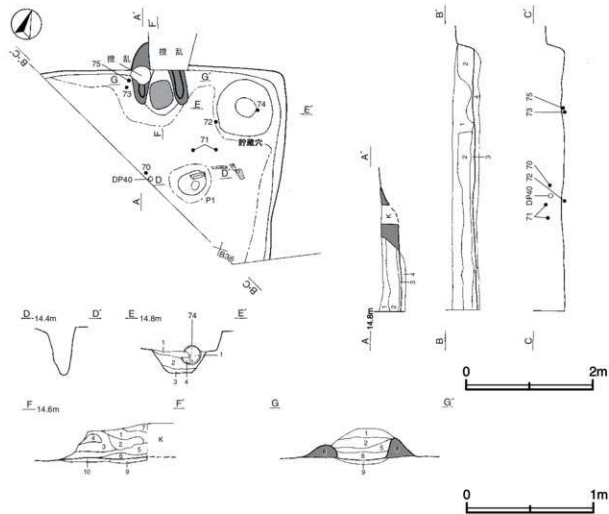
規模と形状 北東コーナー部以外のほとんどが調査区域外に延びているため、長軸3.84m、短軸3.00mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、主軸方向はN-26°-Wである。壁高は30-36cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、全面が踏み固められている。貼床は、ローム粒子主体の暗褐色土を埋土して構築されている。床面には、柱状の炭化材が出土した。

竈 確認できた北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部までは攪乱のため64cmしか確認できなかった。燃焼部幅は48cmである。袖部は、床面と同じ高さに砂粒を含む第8層を積み上げて構築されている。火床部は床面から4cmくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。壁外に延びる煙道部は、攪乱のため確認できなかった。第4層は、天井部の崩落土と考えられる。

埋土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック微量 | 6 暗赤褐色 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子微量、焼土粒子極微量 | 7 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子微量、ローム粒子・白色粒子極微量 | 8 褐色 砂粒子多量 |
| 4 濃い赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子多量 | 9 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 焼土ブロック微量、ロームブロック微量 | 10 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |



第34図 第10号住居跡実測図

ピット 深さ76cmで、配置から主柱穴である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径92cm、短径88cmの円形である。深さは48cmで、底面は平坦である。壁は、外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 炭化物・焼土粒子極微量 | 4 暗褐色 ロームブロック極微量 |

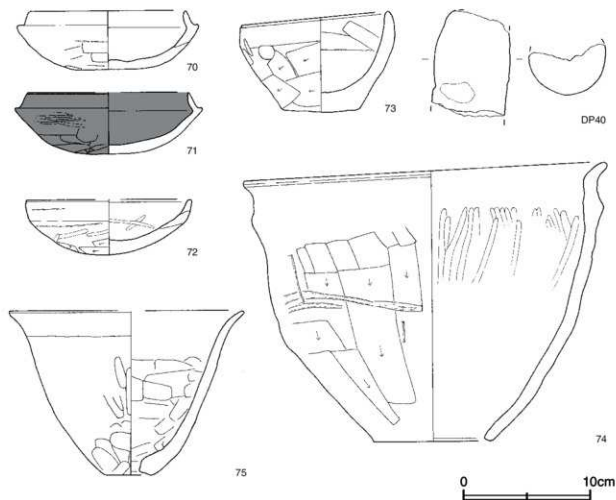
覆土 3層に分層できる。各層にローム粒子やブロックが含まれていることから、人為堆積である。第4層は、貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子極微量 | 3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片172点(坏60, 碗8, 鉢1, 甕類94, 瓶9), 土製品6点(支脚)が出土している。また、混入した土師質土器片1点(播鉢)も出土している。74は貯蔵穴内、72は貯蔵穴付近の床面からそれぞれ出土している。73・75は竈左袖付近の床上から73の上に75が据えられた状態で出土している。70は中央部、71は北部、DP40は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 床は焼けていないが、炭化材の出土状況から焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第35図 第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表 (第35図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色	施装	施地	千石の特色はか	出土位置	備考
70	土師器	杯	12.4	4.7	-	灰石・雲母・赤色 粒子	橙	普通	普通	体部外面へラ削り 内面横ナゲ	覆土上層	20%
71	土師器	杯	12.8	4.9	-	灰石・雲母・赤色 粒子	橙	普通	普通	体部外面へラ削り 上段へラナゲ 内面横ナゲ	覆土上層	30%
72	土師器	杯	13.0	4.4	-	灰石・石英・雲母・ 赤色	橙	普通	普通	体部外面へラ削り 上段へラナゲ 内面横ナゲ 内面横ナゲ後一部へ ラ削り 内面横ナゲ	床面	50%
73	土師器	鉢	11.5	8.0	6.2	灰石・石英・雲母・ 赤色	にぶい橙	普通	普通	体部外面へラ削り 内面ナゲ一部へラナゲ	床面	80% PL21
74	土師器	瓶	28.6	22.1	9.4	灰石・石英・雲母	橙	普通	普通	体部外面へラ削り 一部へラ削り 内面横ナゲ 上段方向へラ削り 内面横ナゲ	貯蔵穴 覆土上層	100%
75	土師器	瓶	18.5	13.1	3.7	灰石・石英・雲母	橙	普通	普通	体部外面へラ削り 上段ナゲ 内面ナゲ 内面横ナゲ	床面	90%

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP90	支脚	(8.5)	(6.1)	(5.5)	(171.4)	土(灰石・石英・ 赤色粒子)	橙色 ナゲ 一部欠損	覆土上層	

第11号住居跡 (第36・37図)

位置 調査区中央部のB3e6区。標高147mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北部は攪乱を受けているため、北東・南西軸は5.70mで、北西・南東軸は4.26mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、長軸方向はN-45°-Eである。壁高は40~57cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、北東壁際の一部を除いて踏み固められている。貼床は、ロームブロック等を主体とする褐色土と極暗褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。南西壁から1条の中央部へ延びる間仕切り溝が確認できた。

ピット 6か所。P1~P4は深さ88~98cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ37cmで、位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ14cmで、床下から確認されており、性格は不明である。

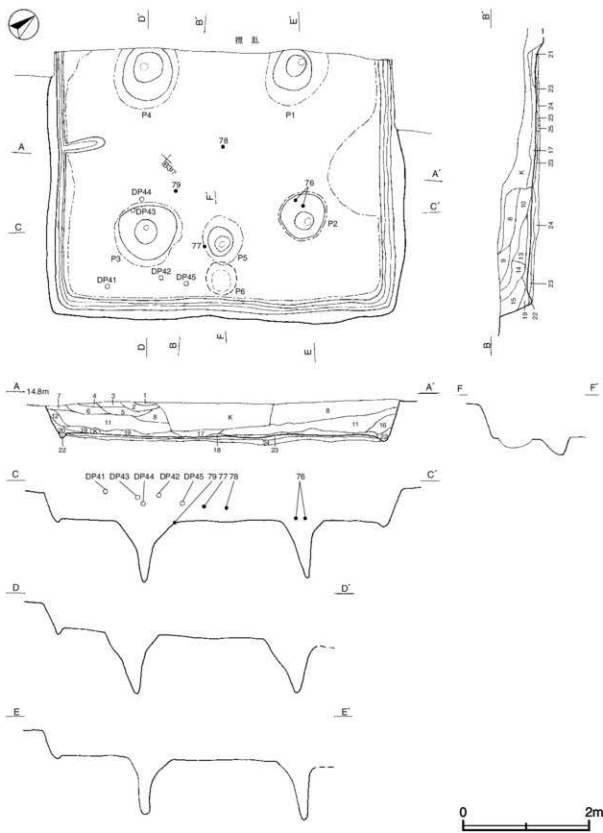
覆土 22層に分層できる。ブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。第23~25層は、貼床の構築土である。

土層解説

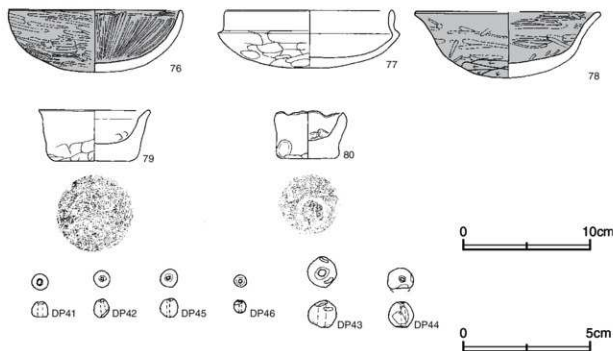
1 黒 褐色	ローム粒子少量	14 暗 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2 暗 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	15 暗 褐色	ロームブロック中量 (締まり弱い)
3 暗 褐色	ロームブロック少量	16 暗 褐色	ロームブロック中量 (締まり普通)
4 暗 褐色	ローム粒子中量 (締まり弱い)	17 暗 褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量
5 黒 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	18 暗 褐色	ロームブロック中量 (締まり普通)
6 暗 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量	19 暗 褐色	ロームブロック多量
7 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	20 褐色	ローム粒子少量
8 暗 褐色	ローム粒子中量 (締まり普通)	21 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
9 暗 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	22 褐色	ロームブロック中量 (締まり弱い)
10 暗 褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	23 褐色	ロームブロック少量
11 極暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	24 褐色	ロームブロック多量
12 暗 褐色	ロームブロック少量	25 極暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
13 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量		

遺物出土状況 土師器片419点 (坏210, 椀1, 高坏5, 甕類176, 瓶27), 須恵器片1点 (高坏), 土製品8点 (支脚2, 土玉6), 鉄滓5点 (138g) が、南東壁付近の覆土上層から中層にかけて出土している。また、混入した縄文土器片2点 (深鉢), 須恵器片1点 (蓋) も出土している。76はP2の覆土上層, 79はP3付近の床面から出土している。77はP5付近, 78は中央部, DP42・DP45は南東壁際, DP43・DP44はP3付近の覆土中層から, DP41は南東壁際の覆土上層から, 80・DP46は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 大量の遺物が覆土上層から覆土中層にかけて出土していることから、埋め戻しの際に一括投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。



第36図 第11号住居跡実測図



第37図 第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表（第37図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
76	土師器	杯	13.8	5.0	-	長石・雲母・赤色粒子	赤	普通	体部外面縁位のへら巻き 内面縁位のへら巻き	F2覆土上層	95% PL17
77	土師器	杯	13.2	4.8	-	長石・石英	にぶみ黄褐色	普通	体部外面へら振り 口縁部内面横ナデ	覆土中層	80%
78	土師器	杯 (14.6)	5.0	-	-	長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面へら巻き 下部へら振り 内面へら巻き 口縁部内面へら巻き	覆土中層	80%
79	土師器	ミニチュア土器	8.8	4.1	5.9	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面上平横ナデ 下平ナデ 内面へらナデ後ナデ	床面	95% PL20
80	土師器	子粒土器	5.3	3.8	4.8	長石・石英・雲母・磁鉄	橙	普通	体部外内面ナデ 器底平直	覆土中	80% PL20

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP41	土玉	0.7	0.6	0.2	0.3	土 (磁砂)	にぶみ黄褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土上層	PL17
DP42	土玉	0.7	0.7	0.3	0.3	土 (磁砂)	にぶみ黄褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL17
DP43	土玉	1.2	1.1	0.4	1.4	土 (雲母)	灰褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL17
DP44	土玉 (1.0)	1.0	0.1	(0.8)	土 (雲母)	にぶみ黄褐色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	覆土中層	PL17	
DP45	土玉	0.7	0.7	0.1	0.4	土 (磁砂)	にぶみ黄褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL17
DP46	土玉	0.5	0.5	0.1	0.1	土 (磁砂)	にぶみ黄褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中	PL17

第12号住居跡（第38～42図）

位置 調査区中央部のB3f9区、標高14.7mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第122号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南東コーナー部の上層が攪乱を受けていたが、長軸8.05m、短軸7.95mの方形である。主軸方向はN-4°-Eである。壁高は17～42cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際まで踏み固められている。貼床は、ローム粒子主体の褐色土を埋土して構築されている。壁下には、壁溝が巡っている。東・南壁から2条ずつ、西壁から3条の中央へ延びる間仕切り溝が確認できた。P5と貯蔵穴2の周りには、馬蹄状の高まりが確認できた。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで172cmで、燃焼部幅は47cmである。袖部は、床面から深さ12cmの皿状に掘りくぼめ、ロームブロックや砂質粒子等を含む第19～23層を埋土して、砂質粒子を多く含む第14～18層を積み上げて構築されている。火床部は床面から6cmくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に48cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

埋土層解説

1	にぶい褐色	砂粒少量、焼土ブロック・ローム粒子微量	12	にぶい褐色	焼土粒子中量、砂質粘土ブロック微量
2	褐色	砂粒微量、焼土粒子・炭化粒子極微量	13	明赤褐色	焼土ブロック中量
3	褐色	焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量	14	褐色	砂粒多量、焼土粒子極微量
4	暗褐色	ローム粒子微量、焼土粒子・砂粒極微量	15	赤褐色	焼土粒子極多量、砂粒微量
5	にぶい褐色	焼土粒子中量、砂質粘土ブロック微量	16	褐色	焼土粒子・砂粒、小礫微量、ローム粒子極微量
6	暗赤褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量、砂粒極微量	17	灰褐色	粘土粒子中量、小礫・焼土粒子・炭化粒子微量
7	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、ロームブロック極微量	18	褐色	粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8	にぶい褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・砂粒極微量	19	暗赤褐色	焼土ブロック極多量、砂粒微量
9	明褐色	ローム粒子多量	20	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、小礫微量
10	暗赤褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量	21	赤褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量、砂粒極微量
11	明赤褐色	焼土粒子多量	22	褐色	ローム粒子多量
			23	褐色	焼土粒子・砂粒中量、ロームブロック極微量

ピット 8か所。P1～P4は深さ78～94cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ38cmで、位置や硬化面の広がりや周囲に馬蹄状の高まりがあることから出入口施設に伴うピットと考えられる。床下から確認したP6～P8は深さ42～48cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は北東コーナー部に位置し、長軸114cm、短軸82cmの隅丸長方形である。深さは54cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は南壁中央部に位置し、長軸74cm、短軸64cmの隅丸長方形である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。周囲には、馬蹄状の高まりがある。両貯蔵穴は同時に機能していたものと思われる。

貯蔵穴1土層解説

1	褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子極微量	3	暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
2	褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極微量			

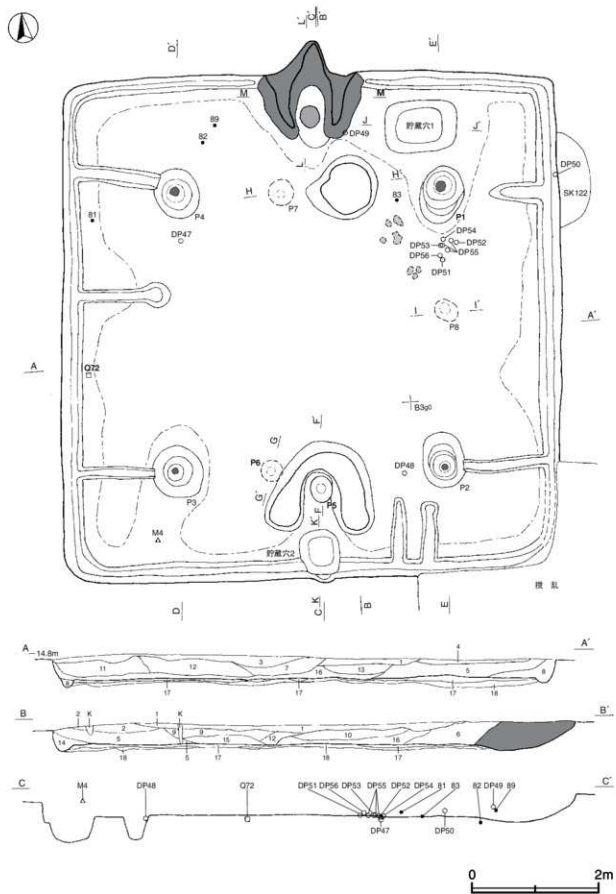
貯蔵穴2土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量	3	褐色	ローム粒子微量
2	褐色	砂質粘土粒子微量、焼土粒子極微量			

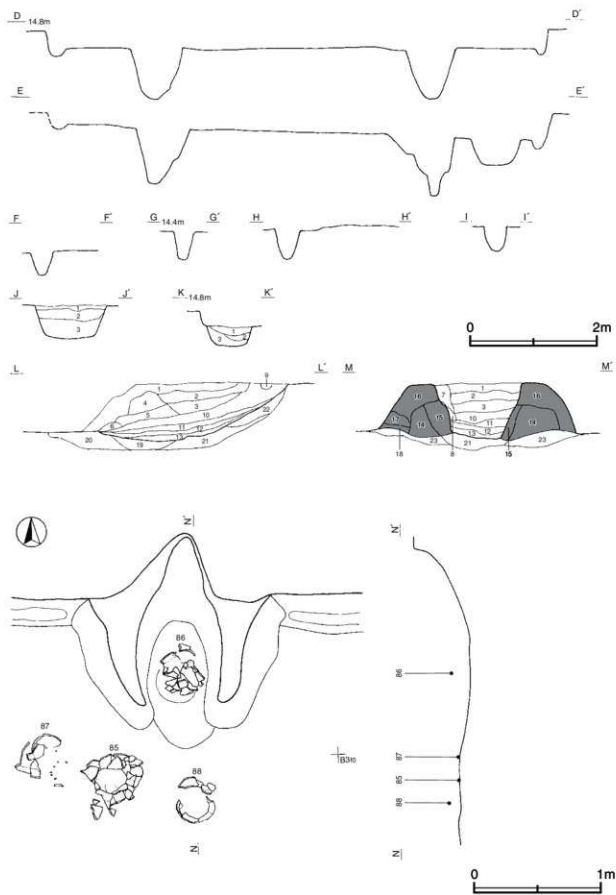
覆土 16層に分層できる。各層にロームブロックが混じり、不自然な堆積状況であることから埋め戻されている。第17・18層は、貼床の構築土である。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック微量、焼土粒子・炭化粒子極微量	11	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子極微量
2	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極微量	12	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・赤色粒子微量
3	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極微量	13	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子極微量
4	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子極微量	14	褐色	ローム粒子中量
5	褐色	ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量	15	褐色	ロームブロック少量
6	灰褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量	16	にぶい褐色	ロームブロック微量、砂質粘土ブロック・焼土粒子極微量
7	暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量、焼土粒子極微量	17	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子極微量
8	暗褐色	ロームブロック少量	18	褐色	ローム粒子多量
9	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子極微量			
10	灰褐色	砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量、焼土ブロック・ローム粒子極微量			



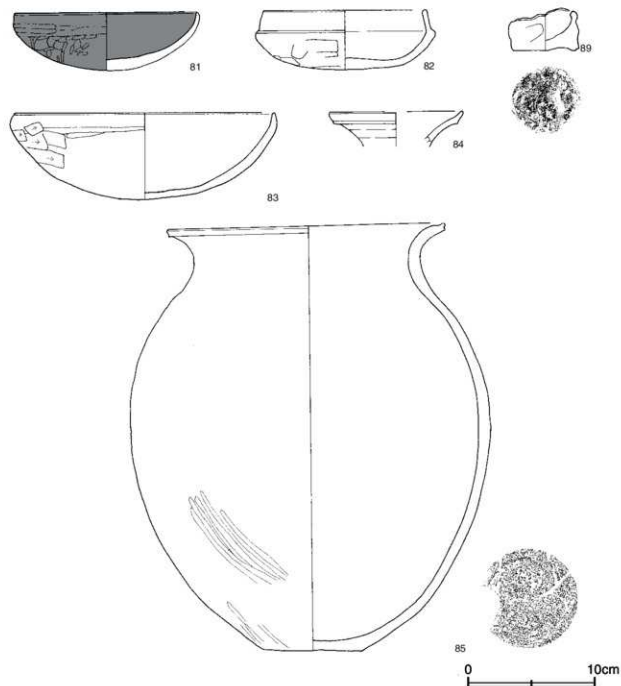
第38図 第12号住居跡実測図(1)



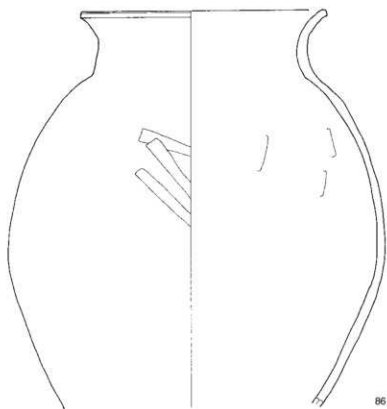
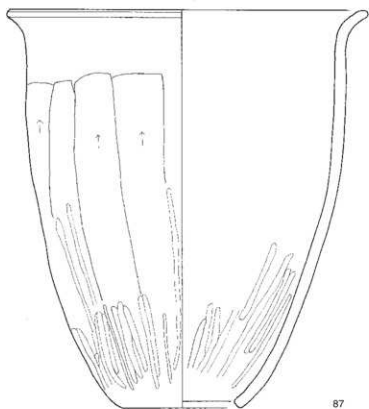
第39图 第12号住居跡実測图(2)

遺物出土状況 土師器片 647点 (坏66, 碗1, 高坏5, 甕類553, 瓶18, ミニチュア土器2, 手捏土器2), 土製品13点 (支脚3, 土玉10), 石製品1点 (白玉), 鉄器1点 (鉄鏝) が竈前を中心とした北部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。DP47はP4付近, 83はP1付近, 85・87・88は竈前, Q72は西壁際, DP48はP2付近の床面から, 86は竈内からそれぞれ出土している。DP51～56はP1付近の床上からまともに出てくる。81は西壁際, DP50は東壁際の覆土下層から, 89は北部, DP49は竈付近の覆土中層から, M4は南壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。84は, 覆土中から出土している。

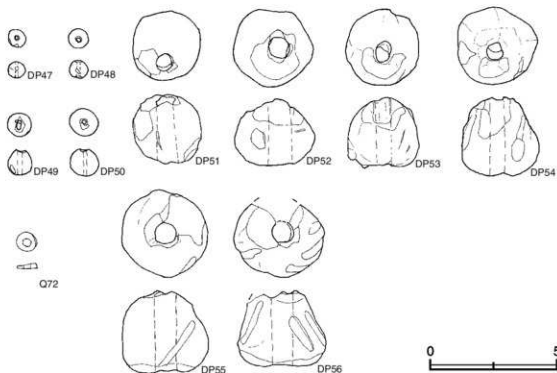
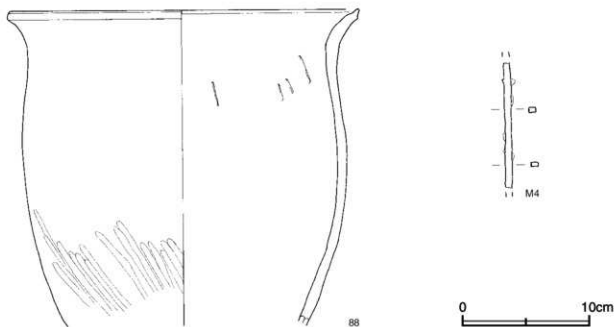
所見 大量の遺物が覆土上層から覆土中層にかけて出土していることから, 埋め戻しの際に一括投棄されたものと考えられる。時期は, 出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第40図 第12号住居跡出土遺物実測図(1)



第41图 第12号住居跡出土遺物実測図(2)



第42図 第12号住居跡出土遺物実測図(3)

第12号住居跡出土遺物観察表(第40～42図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
81	土師器	杯	14.6	4.6	-	長石・雲母	にぶい緑	普通	体部外面へラ削り 上段へラ削き 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	95% PL17
82	土師器	杯	13.0	4.7	-	長石	浅黄橙	普通	体部外面へラ削り 口縁部外・内面横ナデ	床面	90% PL17
83	土師器	杯	20.6	6.9	-	長石・雲母・赤色 粒土	にぶい緑	普通	体部外面へラ削り横ナデ 内面へラナデ 口縁部外・内 面横ナデ	床面	80% PL20
84	須恵器	皿	[10.6]	(2.8)	-	長石・石英・雲母	黄白～7%	普通	口ナデナデ	覆土中	3%
85	土師器	葉	23.8	33.9	7.8	長石・石英・雲母	にぶい緑	普通	体部外面ナデ下段へラ削き 内面ナデ 口縁部外・内面 横ナデ 二次被熱痕	床面	90% PL25

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴はか	出土位置	備考
86	土師器	甕	190	(31.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部内面へう張りナデ 内面へうナデ 口縁部外・内面へうナデ	甕内	50%
87	土師器	瓶	280	31.6	9.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面へう張りナデ 内面へうナデ 口縁部外・内面へうナデ	床面	90%
88	土師器	瓶	278	(25.2)	-	長石・石英・雲母 赤色胎土	浅褐色	普通	体部内面へう張りナデ 内面へうナデ 口縁部外・内面へうナデ	床面	50%
89	土師器	子粒土器	51	3.3	5.3	長石・石英・雲母 赤色胎土	橙	普通	体部外・内面ナデ	甕土層	100%

番号	器種	径	長さ	口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP47	土玉	07	07	0.1	0.3	土(雲母・砂粒)	にぶい褐色 一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL27
DP48	土玉	08	07	0.2	0.4	土(砂粒)	暗灰色 一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL27
DP49	土玉	10	10	0.2	0.9	土(長石・石英)	褐色 一方向からの穿孔 ナデ	甕土層	PL27
DP50	土玉	12	11	0.1	1.4	土(砂粒)	褐色 一方向からの穿孔 ナデ	甕土層	PL27
DP51	土玉	27	(27)	0.7	(16.8)	土(石英・雲母・砂粒)	にぶい褐色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	床面	PL28
DP52	土玉	32	26	0.9	(18.2)	土(石英)	にぶい褐色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	床面	PL28
DP53	土玉	30	28	0.6	17.8	土(石英・砂粒)	褐色 一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL28
DP54	土玉	32	32	0.6	22.5	土(長石・石英)	にぶい褐色 一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL28
DP55	土玉	34	33	0.8	(30.1)	土(長石・砂粒)	褐色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	床面	PL28
DP56	土玉	36	(30)	0.8	(20.1)	土(石英)	にぶい褐色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	床面	PL28

番号	器種	径	長さ	口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q22	白土	08	02	0.3	0.1	滑石	一方向からの穿孔 全面研磨	床面	PL29

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	皿	(98)	0.6	0.1	(5.9)	灰	基部の一部	甕土層	PL30

第13号住居跡(第43～46図)

位置 調査区中央部のB4区、標高14.6mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第14号住居、第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.23m、短軸6.05mの方形で、主軸方向はN-55°-Wである。壁高は15～27cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロック主体のにぶい褐色土や褐色土、暗褐色土を埋土して構築されている。壁下には、壁溝が通っている。

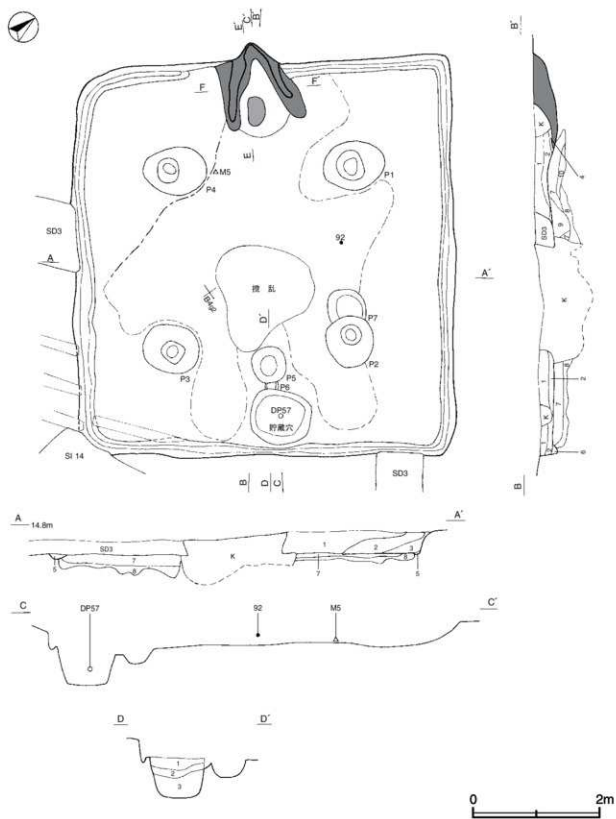
竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで156cmで、燃焼部幅は84cmである。袖部は床面から深さ15cmの皿状に掘りくぼめ、ロームブロックやローム粒子を含む第18～21層を埋土して、粘土ブロックを含む第15～17層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に35cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

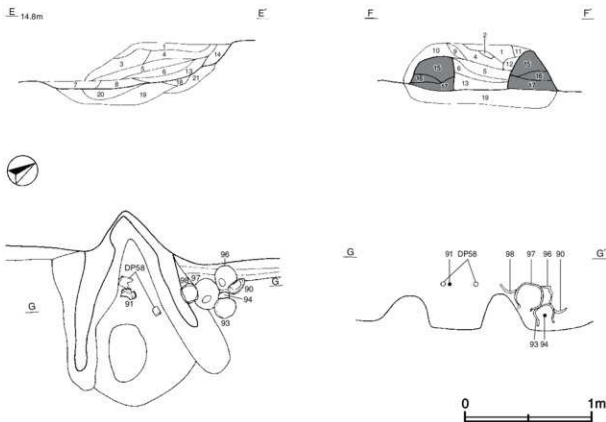
1 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック少量
2 褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・灰白色砂粒微量	10 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、灰白色粘土ブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	11 褐色	ロームブロック・灰白色砂粒少量、炭化粒子微量
4 暗褐色	焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量	12 褐色	ロームブロック・灰白色砂粒中量、炭化粒子微量
5 にぶい褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
6 にぶい褐色	焼土ブロック極多量、炭化物・ローム粒子少量	14 褐色	ローム粒子中量
7 赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量	15 灰黄褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
8 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量		

- 16 暗 褐色 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
 17 にぶい褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
 18 暗 褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量

- 19 褐 色 ロームブロック少量
 20 赤 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子中量
 21 褐 色 ローム粒子微量



第43図 第13号住居跡実測図(1)



第44図 第13号住居跡実測図(2)

ピット 7か所。P1～P4は深さ70～85cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ30cmで、位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ16cmで、P5に付随するピットであると考えられる。P7は深さ12cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 南東壁中央部に位置している。長軸97cm、短軸91cmの不整形である。深さは62cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1 褐色 | ロームブロック微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | | |

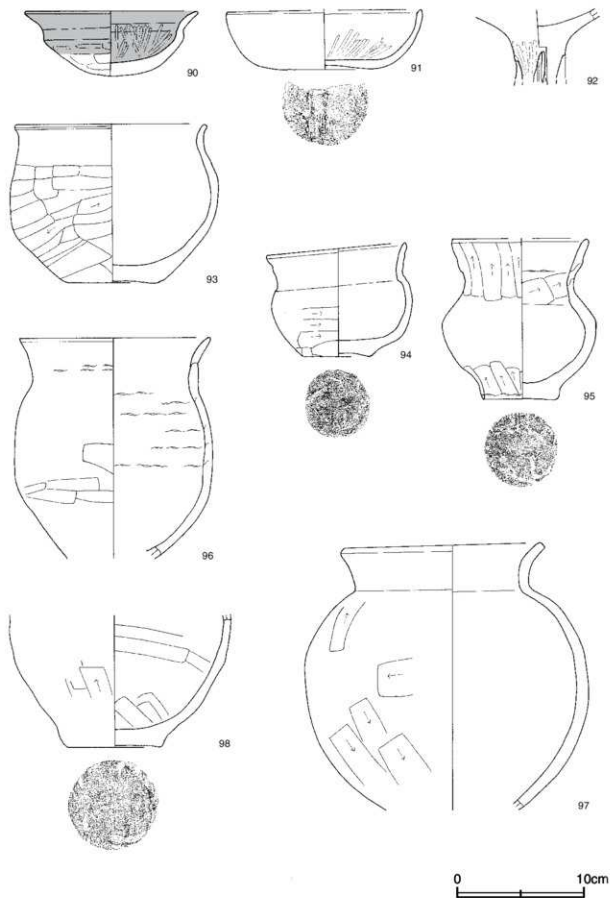
覆土 6層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況であることから自然堆積である。第7～10層は、貼床の構築土である。

土層解説

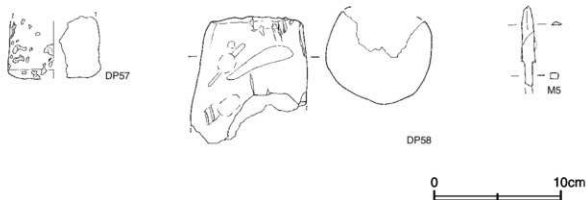
- | | | | |
|-------|---------------------|--------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 7 濃い褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、砂粒微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量(絡まり強い) |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量、炭化物少量、ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子少量 | 10 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量(絡まり普通) | | |
| 6 褐色 | ロームブロック中量、青灰色粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片428点(坏54、椀7、高坏7、甕類347、瓶13)、土製品9点(支脚8、管状土錘1)、鉄製品1点(鏃)が、北コーナー部を中心に覆土中層から下層にかけて出土している。また、流れ込んだ縄文土器片1点(深鉢)も出土している。90・94は横位、93・96・97は逆位、98は正位の状態、甕行袖付近から流れ込んだようにまとまって出土している。DP57は貯蔵穴の覆土中層から、91・DP58は窠内から、M5はP4付近の床面からそれぞれ出土している。92は中央部の覆土下層、95は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。



第45图 第13号住居跡出土遺物実測図(1)



第46図 第13号住居跡出土遺物実測図(2)

第13号住居跡出土遺物観察表(第45・46図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴はか	出土位置	備考
90	土師器	杯	13.5	5.2	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り後ナデ 内面ナデへう磨き 口縁部外・内面ナデ	覆土中層	100% PL18
91	土師器	杯	[13.2]	4.7	7.0	長石・石英・雲母	にぶ・黄	普通	外面ナデ 内面へう磨き 口縁部内面横ナデ 底部へう張り 二次発火痕	覆内	43%
92	土師器	高杯	-	[5.9]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	杯部外・内面ナデ 脚部外面へう磨き 未発火の透かし	覆土中層	30%
93	土師器	甕	15.2	12.6	6.8	長石・石英・雲母	にぶ・黄	普通	体部外面へう張り 内面へうナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	100% PL22
94	土師器	甕	11.1	9.0	5.3	長石・石英・雲母	にぶ・黄	普通	体部外面へう張り後ナデ 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	90% PL22
95	土師器	甕	[10.5]	12.7	5.9	長石・石英・雲母	橙	普通	体部下層へう張り 底部外面から口縁部にかけてへう張り 底部内面へう磨き 底部外面へう張り後ナデ	覆土中	80% PL22
96	土師器	甕	15.4	[17.0]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り後ナデ 内面二次発火痕 口縁部外・内面横ナデ	覆土中層	80% PL23
97	土師器	甕	15.7	[21.2]	-	長石・石英・雲母 白色粘土	にぶ・黄	普通	体部外面へう張り後ナデ 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ 底部内面横ナデ	覆土中層	80% PL23
98	土師器	甕	-	[10.5]	7.2	長石・石英・雲母 白色粘土	橙	普通	体部外面へう張り後ナデ 内面へうナデ	覆土上層	80%

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP57	土師	(4.9)	(7.4)	(6.8)	(96.4)	土(長石・石英・赤色粘土)	褐色 ナデ 若干の縦線あり 一部欠損	覆土中層	野崎穴 覆土中層
DP58	土師	(10.1)	(9.1)	7.7	(32.0)	土(長石・石英)	褐色 ナデ 胎面汗痕 一部欠損	覆内	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
MS	簾	(6.3)	1.1	0.5	(5.9)	瓦	基部の一部欠損 若干の編みあり 糊痕	床面	

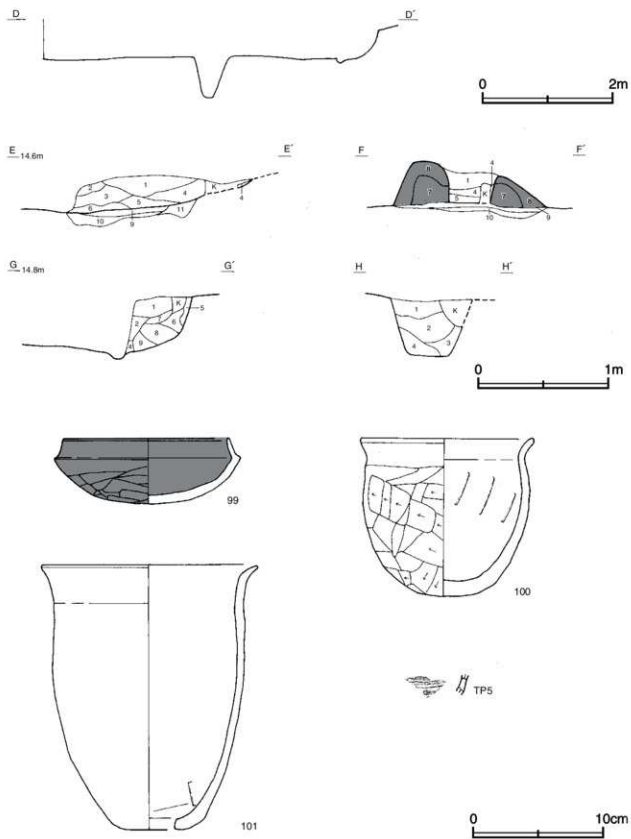
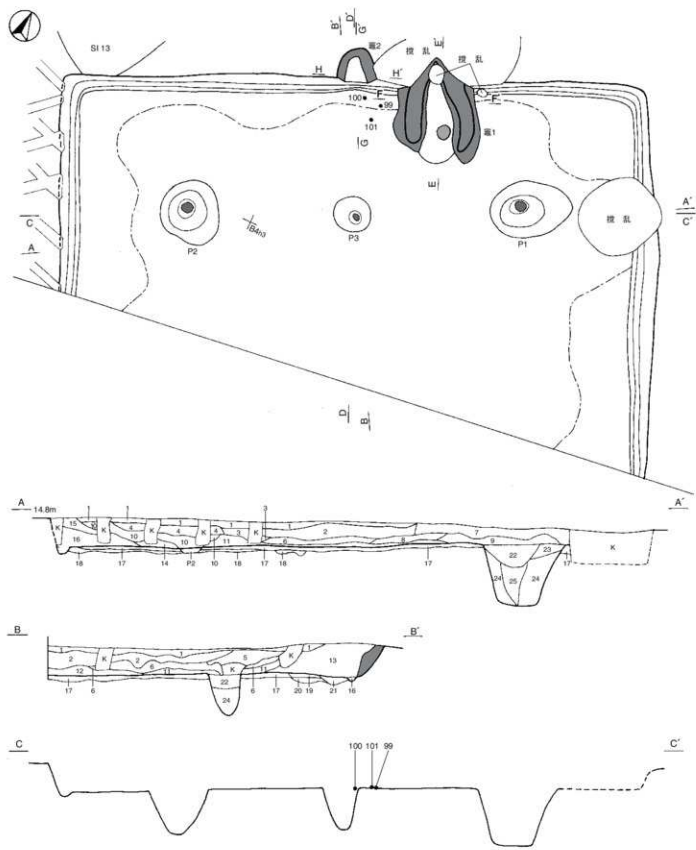
第14号住居跡(第47図)

位置 調査区中央部南端のB 4g2区、標高14.6mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第13号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区外に延びているため、東西軸は9.35mで、南北軸は5.90mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推測でき、主軸方向はN-20°-Wである。壁高は28~42cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。貼床はロームブロックや焼土ブロック主体のにぶい褐色土や褐色土、暗褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。



第 47 图 第 14 号住居跡・出土遺物実測図

竈 2カ所。竈1は、北壁のやや東寄りに付設されている。攪乱を受けているため、確認できた規模は焚口部から煙道部まで168cmで、燃焼部幅は64cmである。袖部は床面から皿状に16cmほど掘りくぼめた部分に、ロームブロックなどを含む第9～11層を埋土して、粘土粒子を含む第7・8層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に44cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。竈2は、北壁中央部に付設されている。屋外に延びる煙道部のみ確認できた。煙道部は壁外に44cm掘り込まれている。竈の遺存状況から、竈2が古く、竈1が新しいと考えられる。

竈1土層解説

1 褐 色	ローム粒子・炭化粒子・細礫少量、焼土粒子微量	7 灰 黄 褐色	粘土粒子多量、細礫少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 に近い褐色	焼土ブロック・ローム粒子・細礫少量、炭化粒子微量	8 に近い褐色	ロームブロック・粘土粒子・細礫少量、焼土粒子微量
3 赤 褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量	9 暗 褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック少量
4 暗 赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・細礫少量、炭化粒子微量	10 暗 褐色	ロームブロック微量
5 暗 赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子・細礫少量	11 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
6 暗 赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子中量、ローム粒子少量、細礫微量		

竈2土層解説

1 暗 褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量	6 暗 赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量
2 暗 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量	7 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	8 暗 赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量
4 暗 褐色	ロームブロック中量	9 暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗 赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量		

ピット 3カ所。P1・2は深さ90・66cmで、配置から主柱穴である。P3は深さ64cmで、P1・2の中間に位置していることから、竈1に作り替えた時に掘られた補助柱穴と考えられる。

覆土 20層に分層できる。ロームブロックが混じり、ブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。第17～21層は、貼床の構築土である。

土層解説

1 灰 褐色	ローム粒子少量	15 褐 色	ローム粒子中量
2 暗 褐色	ロームブロック微量	16 褐 色	ロームブロック中量（粘性普通・締まり普通）
3 黒 褐色	ロームブロック少量	17 に近い褐色	ロームブロック中量
4 灰 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	18 褐 色	ロームブロック中量（粘性強い）
5 暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	19 暗 褐色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量、ローム粒子微量
6 暗 褐色	ロームブロック少量（締まり弱い）	20 に近い褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量
7 褐 色	ロームブロック中量（粘性普通・締まり強い）	21 褐 色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
8 褐 色	ロームブロック少量（粘性強い）	22 黒 褐色	ロームブロック少量
9 灰 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	23 暗 褐色	ローム粒子少量
10 暗 褐色	ロームブロック中量	24 褐 色	ロームブロック少量（締まり強い）
11 褐 色	ローム粒子少量	25 暗 褐色	ロームブロック少量（締まり強い）
12 暗 褐色	ロームブロック少量（締まり普通）		
13 暗 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量		
14 褐 色	ロームブロック少量（粘性普通）		

遺物出土状況 土師器片199点（坏99、碗1、高坏3、甕類94、瓶2）、須恵器片1点（甕）、土製品7点（支脚）、滑石片1点が出土している。また、混入した須恵器片3点（蓋1、長頸瓶2）も出土している。99～101は竈左袖付近の床土から、TP5は貼床の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第14号住居跡出土遺物観察表（第47図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴はか	出土位置	備考	
99	土師器	坏	127	51	-	長石・石英	淡黄緑	普通	外部内面へう張り内ナデ 内面ナデ	口縁部内・内面ナデ	床面	90% PL18
100	土師器	甕	132	123	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外部内面へう張り 内面へうナデ	口縁部外・内面ナデ	床面	90% PL22
101	土師器	瓶	168	205	75	長石・石英・雲母	橙	普通	外部内面両部のナデ 内面ナデ一部へうナデ	口縁部外 内面ナデ	床面	100% PL20

番号	種別	部材	動土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP5	調査部	掘	長石・雲母	灰	掘削4本の掘削工具による成状文	総床構築土	5%

第15号住居跡（第48・49図）

位置 調査区中央部のB4f7区、標高145mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.61m、短軸5.44mの方形で、主軸方向はN-46°-Wである。壁高は9～22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて全面が踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体で炭化粒子が混じった暗褐色土を埋土して構築されている。南北コーナー部を除いて、壁下には壁溝が巡っている。北東・南西壁から各1条の中央へ延びる間仕切り溝が確認できた。P5と貯蔵穴の周りには馬蹄状の高まりが確認できた。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cmで、燃焼部幅は42cmである。袖部は床面を深さ21cmの皿状に掘りくぼめ、ロームブロック主体の第14～16層を埋土して、粘土粒子を主体とした第12・13層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は亦変硬化している。煙道部は壁外に10cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。火床部の奥側左寄りの部分で土製の支脚を確認しており、横並びの二掛け竈になる可能性がある。

竈土層解説

1 灰 褐色	砂・ローム粒子少量、焼土粒子微量	9 にぶい褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂少量
2 灰 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂少量（締まり極強）	10 灰 褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂少量、焼土ブロック微量
3 灰 褐色	焼土粒子中量、ローム粒子砂少量	11 灰 褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂少量
4 灰 褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・砂少量	12 灰 黄褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量
5 にぶい褐色	ロームブロック多量、ローム粒子・砂少量	13 にぶい褐色	粘土粒子少量、ローム粒子微量
6 灰 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂少量（締まり普通）	14 にぶい褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 にぶい褐色	砂中量、ローム粒子少量	15 赤 褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量
8 にぶい褐色	砂中量、ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量	16 褐色	ローム粒子少量

ピット 6か所。P1～P4は深さ49～70cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ48cmで、位置や硬化面の広がりや周囲に馬蹄状の高まりがあることから出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ38cmで、床下から確認した。性格は、不明である。

貯蔵穴 南西壁際の中央部に位置している。長軸86cm、短軸76cmの隅丸長方形である。深さは52cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量	3 褐色	ロームブロック中量
2 褐色	ローム粒子中量	4 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子極微量

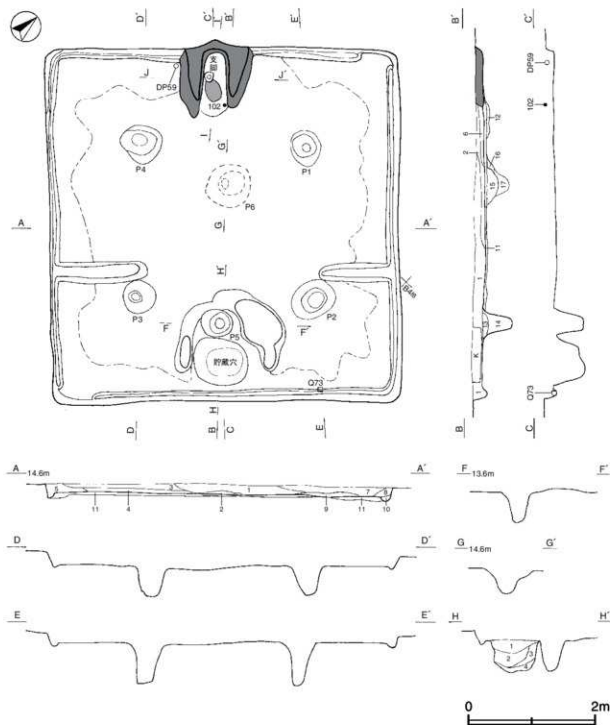
覆土 15層に分層できる。各層にロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第11・12層は貼床の構築土である。

土層解説

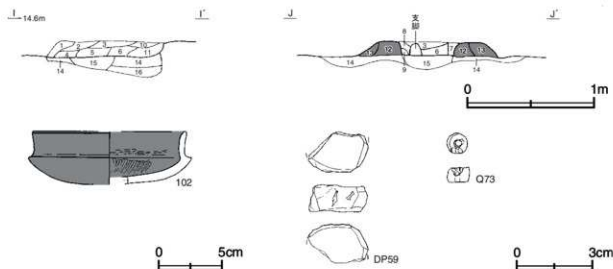
1 黒 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量、細礫極微量	10 褐色	ローム粒子中量
2 暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	11 暗 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黒 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子極微量	12 暗 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
4 暗 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子極微量	13 暗 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量、焼土ブロック極微量
5 黒 褐色	ローム粒子微量	14 褐色	ロームブロック中量
6 暗 褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量	15 灰 黄褐色	焼土ブロック・白色粘土ブロック・炭化粒子少量
7 黒 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極微量	16 灰 黄褐色	灰白色粘土ブロック多量、炭化物少量
8 黒 褐色	ロームブロック少量	17 暗 褐色	ローム粒子微量
9 暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極微量		

遺物出土状況 土師器片 132点 (坏19, 高坏1, 甕類111, 瓶1), 土製品1点 (紡錘車), 石製品1点 (白玉) が出土している。102は竈火床部から, Q 73は南西壁下の壁溝の覆土中から, DP59は北東壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀中葉に比定できる。



第48図 第15号住居跡実測図



第49図 第15号住居跡・出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表(第49図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
102	土師器	杯	(120)	(42)	-	石灰・雲母	にぶ・明橙	普通	体部外面へウ張り及ナデ 内面へウ巻き	竈火床部	30%

番号	器種	径	高さ	口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP59	粘土器*	(47)	2.2	-	(29.9)	土(石灰・雲母)	褐色 ナデ 二次焼成	竈土上層	

番号	器種	径	長さ	口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q73	貝玉	0.8	0.5	0.3	(0.6)	磨石	一方向からの穿孔。全面研磨 一部欠損	竈土	PL29

第16号住居跡(第50・51図)

位置 調査区中央部のB4c3区、標高145mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸7.61m、短軸7.48mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は21~45cmで、ほぼ直立している。中央部から北部にかけて、攪乱を受けている。

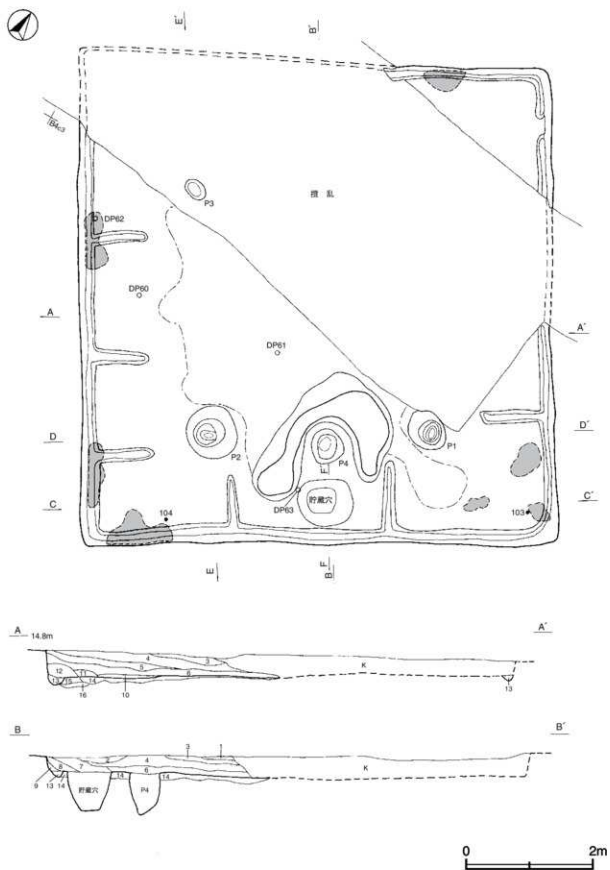
床 確認できた部分は平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体の褐色土とにぶ褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。北東壁から1条、南西壁から3条の中央部へ延びる根太跡や貯蔵穴を仕切るように配置された間仕切り溝が確認できた。P4・貯蔵穴の周りには馬蹄状の高まりが確認できた。壁際には、焼土塊が遺存している。

ピット 4か所。P1~P3は深さ25~88cmで、配置から主柱穴である。P3は攪乱の下から確認できた。P4は深さ68cmで、位置や硬化面の広がりと同様に馬蹄形の高まりがあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

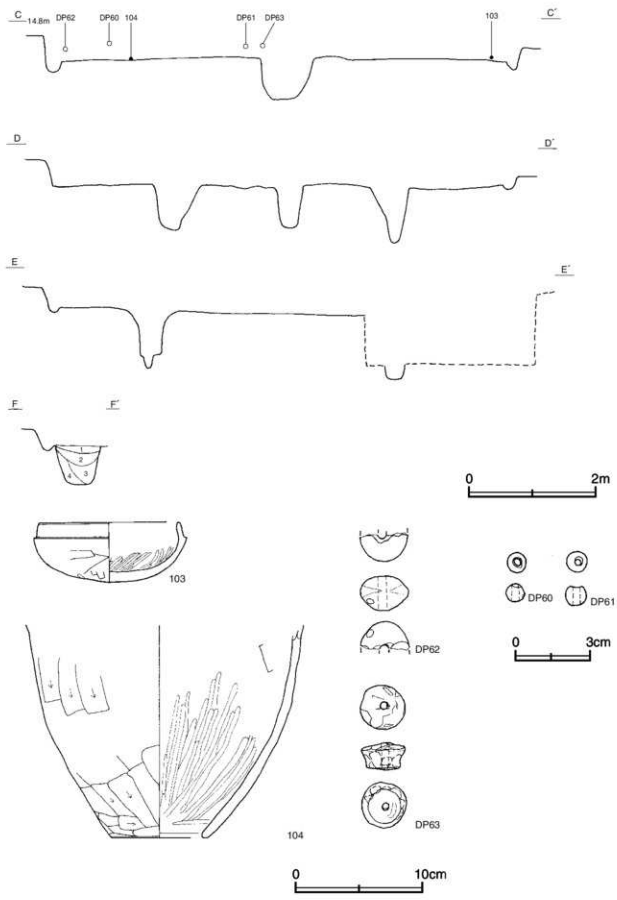
貯蔵穴 南壁中央部に位置している。長軸94cm、短軸75cmの不整形円形である。深さは64cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子極微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |



第50图 第16号住居跡実測图



第51图 第16号住居跡・出土遺物実測図

覆土 13層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況であるが、ローム粒子やロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。第14～16層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、礫・焼土粒子・炭化粒子微量	9 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物極微量	11 黒褐色	炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量
4 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量	12 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	13 褐色	ロームブロック多量
6 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	14 に近い褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量（締まり強）
7 褐色	ロームブロック中量	15 褐色	ロームブロック中量
8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	16 に近い褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量（締まり普通）

遺物出土状況 土師器片644点（坏124、碗3、高台付坏3、高坏2、甕類506、瓶6）、須恵器片2点（甕）、土製品9点（土玉4、紡錘車2、支脚3）、鉄滓1点（17.9g）が、南部を中心に覆土中層から下層にかけて出土している。また、混入した磁器片1点（碗）、陶器片1点（碗）も出土している。103は東コーナー、104は南東壁際の床面から、DP60は南西部、DP61は中央部、DP62は南西壁際、DP63は貯蔵穴付近の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 攪乱を受けていたため、南部しか遺物が遺存していなかったが、遺物は埋め戻しの際に一括投棄されたものと判断した。時期は、出土土器から6世紀後半に比定できる。

第16号住居跡出土遺物観察表（第51図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴はか	出土位置	備考
103	土師器	坏	11.2	4.7	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外部外面へう張り後ナデ 下段へう巻き 内面へう巻き （口縁部内・内面縁ナデ）	床面	80%
104	土師器	瓶	-	16.9	7.8	長石・石英・雲母	橙	普通	外部外面へう張り後ナデ 内面へうナデ後瓶口のへう巻き	床面	50%

番号	器種	径	厚さ	口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP60	土玉	0.7	0.7	0.2	0.4	土（砂粒）	黒褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	P1.27
DP61	土玉	0.8	0.7	0.3	0.5	土（砂粒）	黒褐色 一方向からの穿孔 ナデ	覆土中層	P1.27

番号	器種	径	厚さ	口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP62	紡錘車	3.8	2.7	0.7	16.3	土（長石）	褐色 二方向からの穿孔 ナデ 器頭圧痕 一部欠損	覆土中層	
DP63	紡錘車	3.5	3.5	0.6	24.1	土（長石・石英）	にに近い褐色 一方向からの穿孔 ナデ 器頭圧痕	覆土中層	P1.28

第18号住居跡（第52～55図）

位置 調査区中央部のA4g3区、標高14.3mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸8.57m、短軸8.18mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は38～63cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、全面が踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体のにぶい黄褐色土と褐色土を埋して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。東壁から3条、南壁から2条、西壁から3条の中央へ延びる間仕切り溝が確認できた。P9の周辺では、6cmほどの高まりが馬蹄状に確認できた。壁際から中央に倒れ込むように炭化材が出土している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで147cmで、燃焼部幅は68cmである。袖部は床面から深さ20cmの皿状に掘りくぼめた部分にローム粒子や粘土粒子等を含む第12～15層を埋土して、粘土粒子を主体とした第10・11層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に43cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量	9 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 粘土粒子中量、炭化物少量、焼土ブロック微量	10 灰黄褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量
3 暗褐色 焼土ブロック少量、粘土粒子微量	11 灰黄褐色 粘土粒子多量、焼土ブロック中量、籾少量、炭化粒子微量
4 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子・粘土粒子微量	12 赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子微量
5 暗褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子少量	13 にぶい褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
6 にぶい褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量	14 褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
7 灰黄褐色 粘土粒子中量、焼土粒子微量	15 にぶい褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
8 暗褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量	

ピット 15か所。P1～P9は深さ30～91cmで、配置から主柱穴である。P10・11は深さ62・64cmで、位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P12・13は深さ23・28cmで、竈を仕切る構築物に関わるピットと考えられる。P14・15は、深さ23・26cmで床下で確認したが、性格は不明である。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置している。長軸123cm、短軸100cmの長方形である。深さは58cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量	4 褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ローム粒子中量	5 褐色 ローム粒子少量
3 暗褐色 ロームブロック微量	6 褐色 ロームブロック微量

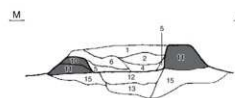
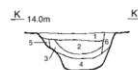
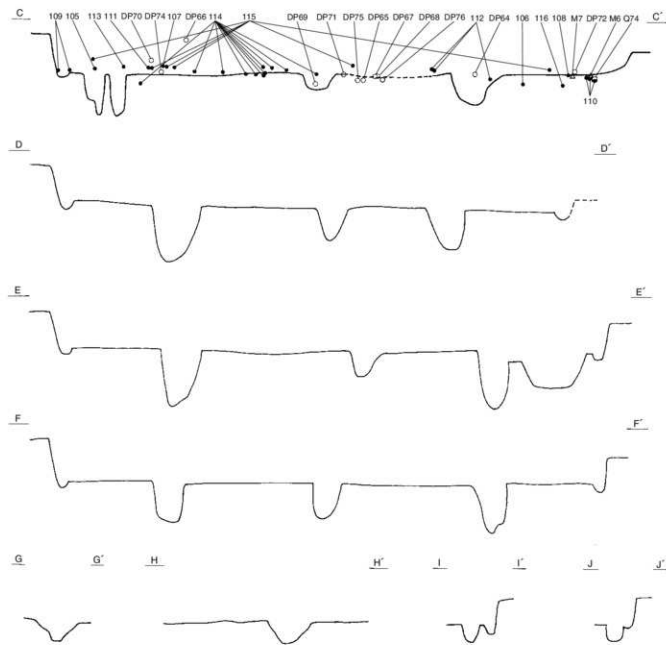
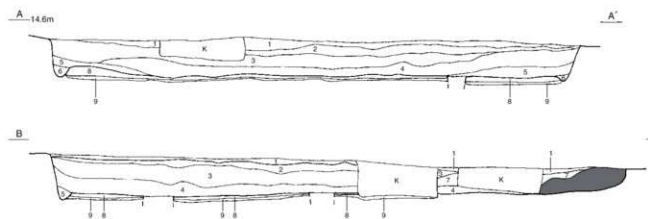
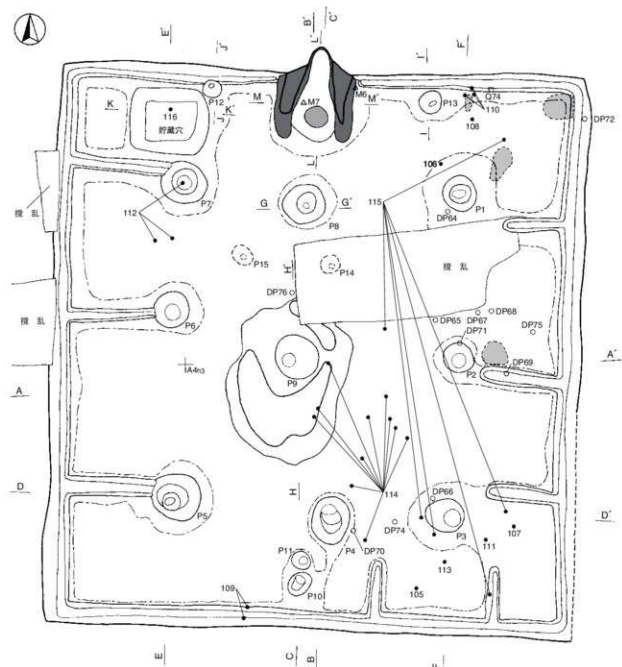
覆土 7層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況であるが、覆土上層から覆土下層にかけて同時期の遺物が一括して出土していることから埋め戻されている。第8・9層は貼床の構築土である。

土層解説

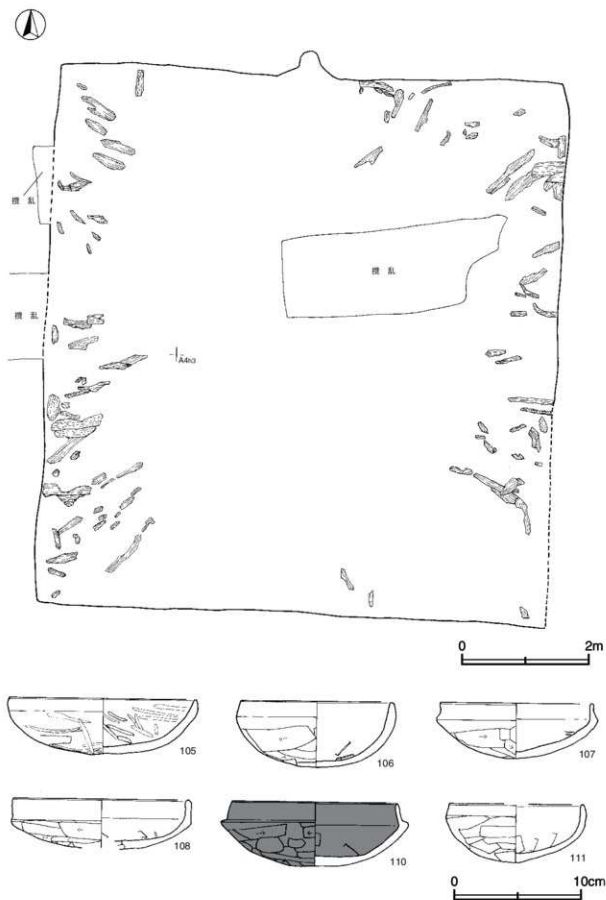
1 極暗褐色 ローム粒子微量	6 褐色 焼土粒子多量、炭化物微量
2 暗褐色 ローム粒子少量	7 黒褐色 ローム粒子・砂質粒子・粘土粒子少量、小礫・焼土粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック少量	
4 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量	8 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
5 暗褐色 炭化材多量、焼土粒子微量	9 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片1395点(坏282, 碗6, 高坏11, 甕類1057, 瓶37, 手捏土器2), 須恵器片4点(坏3, 甕1), 土製品27点(支脚14, 勾玉10, 土玉3), 石器1点(金床石), 石製品1点(白玉), 鉄器2点(鏃), 炭化種子2点(桃カ)が、覆土上層から下層にかけての全面から出土している。また、流れ込んだ縄文土器片2点(深鉢2), 須恵器片1点(高台付碗)も出土している。116は貯蔵穴の覆土上層から、105・109は南壁際、110・Q74は北壁際、106-DP64はP1付近、DP74はP3付近、108は北東コーナー、DP76は中央部、M6は竈右袖の外の床面から、M7は竈の火床部からそれぞれ出土している。また、114は南東部の床面から散らばって出土した破片が接合したもので、DP65・DP67～69・DP71・DP75はP2付近の床面からまとめて出土している。112はP7付近の覆土下層から床面にかけて、107は東壁際、111・113はP3付近、115は東部一帯、DP72は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。DP70はP4付近の覆土中層から、DP66はP3付近の覆土上層からそれぞれ出土している。DP73は覆土中から出土している。

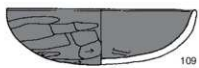
所見 床面は焼けてないが、炭化材の出土状況から焼失住居と考えられ、遺物は埋め戻しの際に一括投棄されたと考えられる。時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



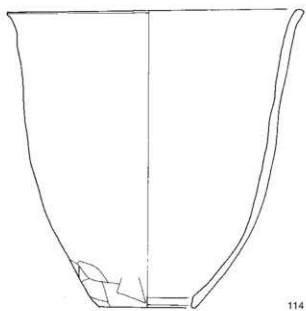
第 52 图 第 18 号住居踏实测图



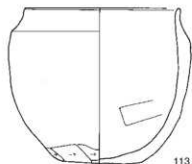
第53図 第18号住居跡炭化材出土状況・出土遺物実測図



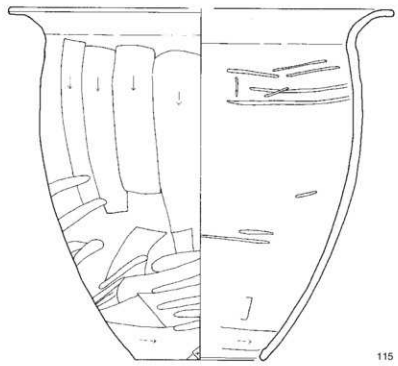
109



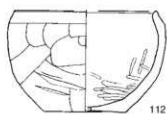
114



113



115



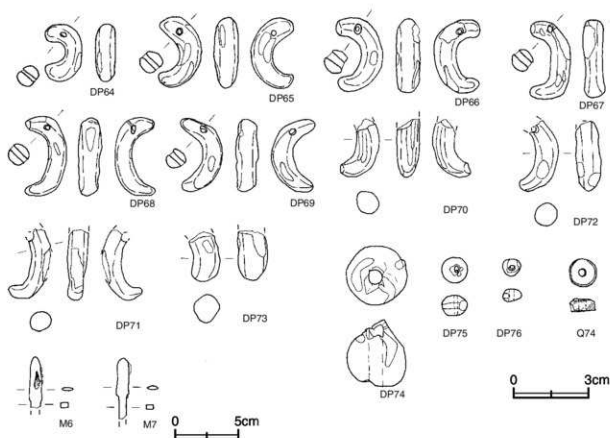
112



116



第54图 第18号住居跡出土遺物実測図(1)



第55図 第18号住居跡出土遺物実測図(2)

第18号住居跡出土遺物観察表(第53～55図)

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
105	土師器	坏	14.8	4.1	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へう張り残ナデ一部へう磨き 内面へう磨き 口縁部外・内面横ナデ	床面	100% PL18
106	土師器	坏	12.1	5.2	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り残ナデ 内面へうナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	95%
107	土師器	坏	12.1	4.4	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	橙	普通	体部外面へう張り 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ 工具当て痕	覆土下層	80%
108	土師器	坏	13.9	3.91	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へう張り 内面横ナデ 口縁部外・内面横ナデ 工具当て痕	床面	80% PL18
109	土師器	坏	15.0	4.4	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	体部外面へう張り残ナデ 内面横ナデ 口縁部外・内面横ナデ 工具当て痕	床面	75%
110	土師器	坏	13.1	5.1	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面へう張り残ナデ 内面へうナデ及横ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	70%
111	土師器	坏	110[6]	4.7	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へう張り残ナデ 内面へうナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	60%
112	土師器	甗	111[0]	8.0	5[4]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り残ナデ 下段下口流しによる沈着多数 内面へう磨き 口縁部内・内面横ナデ	覆土下層	65%
113	土師器	甗	12.1	12.4	7.0	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ナデ 下段へう張り残ナデ 内面へうナデ 口縁部外・内面ナデ	覆土下層	70%
114	土師器	甗	23.3	23.8	7.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下段へう張り残ナデ 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	75% PL26
115	土師器	甗	29[6]	28.0	10[2]	長石・石英・雲母 赤色粒子・面腐	橙	普通	体部外面へう張り一部へう磨き 内面ナデ一部へう磨き 口縁部内・内面横ナデ	覆土下層	50%
116	土師器	手取土器	5.4	2.7	4.9	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ナデ	貯蔵穴 覆土下層	100%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP64	写玉	2.3	1.5	0.8	2.0	2.3	土(石英)	明赤褐色 一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL27
DP65	写玉	2.8	1.7	0.9	2.5	3.4	土(石英)	橙 一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL27
DP66	写玉	2.9	1.8	1.0	0.3	(3.9)	土(長石・石英)	にぶい黄褐色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	覆土上層	PL27
DP67	写玉	3.1	1.6	0.9	0.3	(3.3)	土(長石・石英)	黒褐色 一方向からの穿孔 ナデ 一部欠損	床面	PL27
DP68	写玉	3.1	1.6	0.9	3.0	3.4	土(石英)	黒褐色 一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL27

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DF69	写玉	29	1.7	0.9	3.0	3.2	土(石英)	にぶい黄褐色 一方からの穿孔 ナデ	甕土中層	PL27
DF70	写玉	(23)	(1.5)	0.9	-	(2.3)	土(石英)	褐色 ナデ 一部欠損	甕土中層	PL27
DF71	写玉	(27)	(1.6)	0.8	-	(2.0)	土(石英)	黒褐色 ナデ 一部剥離 一部欠損	床面	PL27
DF72	写玉	(28)	(1.6)	1.0	-	(2.3)	土(鉄石)	褐色 ナデ 二次焼熟部 一部欠損	甕土下層	PL27
DF73	写玉	(28)	1.3	1.2	-	(2.7)	土(石英)	褐色 ナデ 一部剥離	甕土中	

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DF74	土玉	2.4	2.7	0.5	(11.9)	土(石英)	にぶい黄褐色 一方からの穿孔 ナデ 一部欠損	床面	PL28
DF75	土玉	1.0	0.8	0.3	0.8	土(鉄石・石英)	にぶい黄褐色 一方からの穿孔 ナデ	床面	PL27
DF76	土玉	0.7	0.5	0.2	(0.3)	土(石英)	黒褐色 一方からの穿孔 ナデ 一部欠損	床面	PL27

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q74	円玉	1.0	0.5	0.3	(1.0)	滑石	一方からの穿孔 全面研磨 一部欠損	床面	PL29

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M6	竈	(4.6)	1.1	0.4	(3.2)	鉄	本底有り 何本が重ねてあった可能性有り 錆変 一部欠損	床面	
M7	竈	(4.9)	1.0	0.3	(3.5)	鉄	基部の一部欠損	甕土床部	

第19号住居跡(第56～59図)

位置 調査区中央部のA4g0区、標高14.1mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第31号住居跡を拡張している。

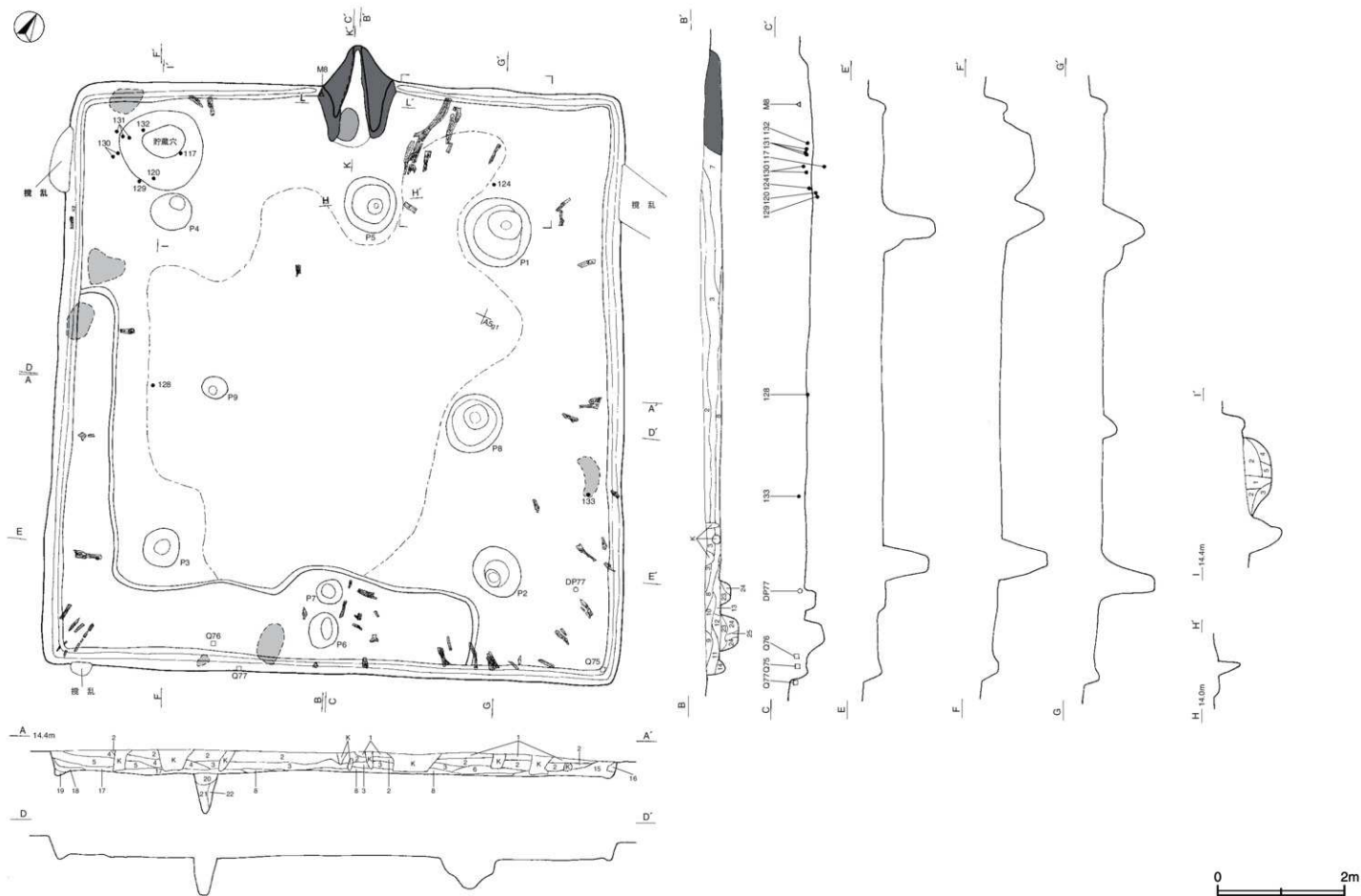
規模と形状 長軸9.38m、短軸9.22mの方形で、主軸方向はN-21°-Wである。壁高は20～37cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、第31号住居跡を埋め戻した、ロームブロックを少量含むにぶい褐色土で構築されている。壁下には、壁溝が巡っている。南西コーナー部を中心に、南壁際に長さ6.45m、最大幅1.43m、西壁際に長さ5.72m、最大幅0.88mで高さ約10cmのベッド状の高まりが確認できた。壁際からは、中央に倒れ込むように炭化材が出土している。

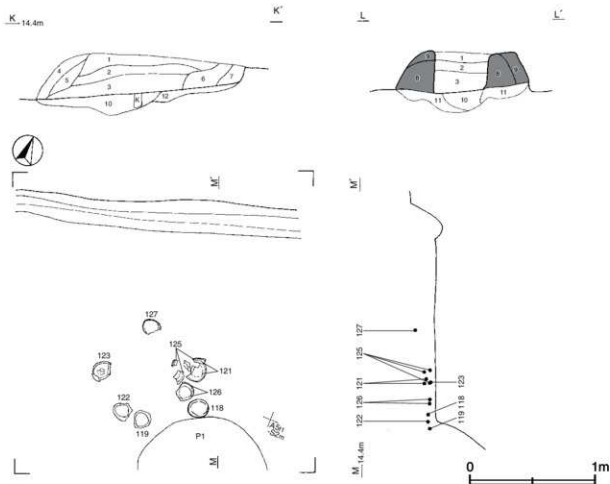
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで162cmで、燃焼部幅は48cmである。袖部は、床面から深さ16cmの皿状に掘りくぼめた部分にローム粒子や粘土粒子を含む第10～12層を埋土して、粘土粒子と礫を主体とした第8層および9層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	8	灰黄褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量、細礫少量、ローム粒子微量
3	赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	9	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	10	にぶい褐色	焼土ブロック・炭化物少量、粘土粒子微量
5	暗褐色	焼土ブロック少量、炭化粒子微量	11	褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
6	にぶい褐色	焼土粒子・粘土粒子少量	12	褐色	ローム粒子・焼土粒子微量



第 56 图 第 19 号住居跡实测图 (1)



第57図 第19号住居跡実測図(2)

ピット 9か所。P1～P5は深さ43～88cmで、配置から主柱穴である。P6・7は深さ29・15cmで、位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P8・9は深さ50・62cmで、それぞれP1とP2、P3とP4の間にあることから補助柱穴と考えられる。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置している。長軸132cm、短軸124cmの不整形円形である。深さは43cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|---------|------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 におい褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐 色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

覆土 25層に分層できる。第1～3層は周囲から流れ込んだ堆積状況であることから自然堆積で、第4～19層は各層にロームブロックやローム粒子を含み、ブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

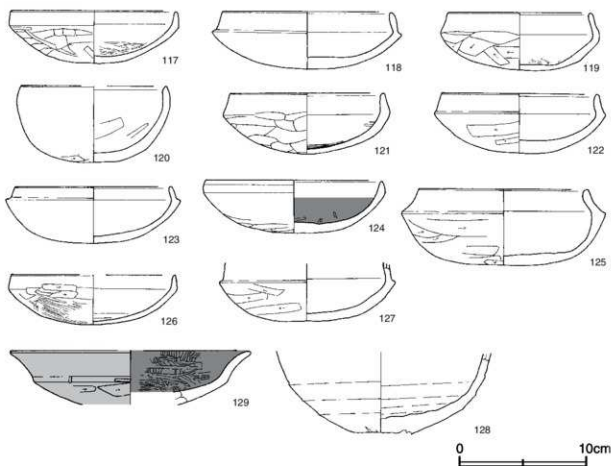
- | | | | |
|----------|---------------------------|---------|--------------------------|
| 1 極 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 黒 褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック少量 |
| 3 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化材微量 | 11 黒 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック少量 |
| 4 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 12 黒 色 | 炭化材・焼土ブロック中量、ローム粒子微量 |
| 5 黒 褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量 | 13 黒 褐色 | 炭化物・焼土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 6 黒 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 14 暗 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子極微量 |
| 7 黒 褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量、細礫少量、炭化材微量 | 15 暗 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子極微量 |
| 8 黒 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量 | 16 黒 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| | | 17 黒 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土ブロック微量 |

- 18 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
 19 褐色 ロームブロック中量（締まり普通）
 20 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 21 にぶい褐色 ローム粒子少量

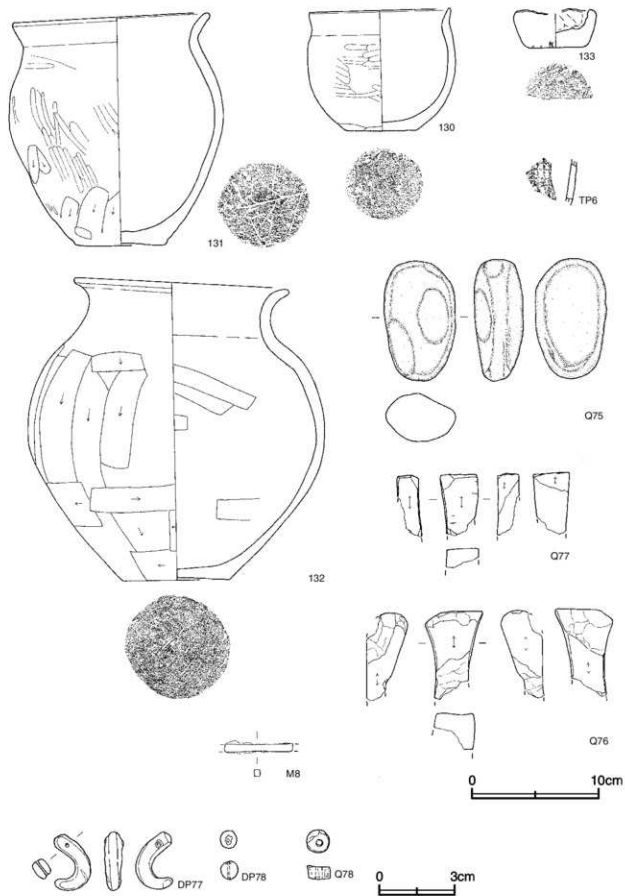
- 22 褐色 ロームブロック中量（締まり強）
 23 黒褐色 炭化物中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
 24 にぶい褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
 25 にぶい褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 1486 点（坏 360、高坏 10、甕類 1106、甗 9、手握土器 1）、須恵器片 1 点（高坏）、土製品 3 点（支脚、勾玉、土玉）、石器 3 点（磨石 1、砥石 2）、石製品 1 点（白玉）、鉄製品 1 点（刀子）、炭化種子 1 点が、竈付近や出入口付近を中心とした全面の覆土中層から下層にかけて出土している。また、混入した縄文土器片 2 点（深鉢）、須恵器片 1 点（甗）も出土している。117 は貯蔵穴内の覆土中層、120 は貯蔵穴内の覆土上層から出土している。DP77 は P 2 付近、128 は P 9 付近、129 は貯蔵穴付近の床面から出土している。124 は P 1 付近、118・119・121～123・125～126 は北東コーナー部の覆土下層から、118・119・121～123 は正位の状態であとまって出土している。130～132 は北西コーナー部、133 は東壁際、Q 75 は南東コーナー部、Q 76・Q 77 は南壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。127 は北東コーナー部、M8 は北壁際の覆土上層から、DP78・TP 6 は覆土中から、Q 78 は貼床の構築土内から出土している。

所見 第 31 号住居跡と主軸方向がほぼ同じで、各壁が平行に拡張された様相から、第 31 号住居跡を拡張した住居である。床面は焼けていないが炭化材の出土状況から焼失住居と考えられる。北東コーナー部の覆土下層から出土した遺物は、炭化材と同じ層位から出土しているので、焼失と同時に一括投棄されたものと考えられる。他の遺物も、埋め戻しの際に一括投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から 6 世紀中葉に比定できる。



第 58 図 第 19 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第59图 第19号住居跡出土遺物実測図(2)

第19号住居跡出土遺物観察表(第58・59図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施装	手法の特徴ほか	出土位置	備考
117	土師器	杯	130	4.2	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り残ナデ 内面へう巻き 1口縁部外・内面残ナデ	若狭穴 甕土中層	98% PL18
118	土師器	杯	134	4.6	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい橙	普通	体部外面へう張り残ナデ 内面残ナデ 1口縁部外・内面残ナデ	甕土中層	99% PL18
119	土師器	杯	114	4.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り残ナデ 内面ナデ一部へう巻き 1口縁部外・内面残ナデ	甕土中層	95% PL18
120	土師器	杯	[11.4]	6.1	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り残ナデ 下段へう張り残ナデ 内面ナデ 1口縁部外・内面残ナデ	若狭穴 甕土上層	50%
121	土師器	杯	121	4.8	-	長石・石英・雲母	明赤橙	普通	体部外面へう張り残ナデ 内面ナデ一部へう巻き 1口縁部外・内面残ナデ	甕土中層	89% PL18
122	土師器	杯	123	4.7	-	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面へう張り残ナデ 内面残ナデ 1口縁部外・内面残ナデ	甕土中層	80%
123	土師器	杯	124	4.4	-	長石・石英・雲母 赤色粘土	にぶい橙	普通	体部外・内面ナデ 1口縁部外・内面残ナデ	甕土中層	70%
124	土師器	杯	140	4.2	-	長石・赤色粘土	にぶい橙	普通	体部外面へう張り残ナデ 内面ナデ一部へう巻き 1口縁部外・内面残ナデ	甕土中層	80%
125	土師器	杯	136	6.0	-	長石・石英	橙	普通	体部外面へう張り残ナデ 内面ナデ一部へう巻き 1口縁部外・内面残ナデ	甕土中層	70% PL18
126	土師器	杯	[130]	4.0	-	長石・雲母	橙	普通	体部外面へう張り残ナデ 内面残ナデ 1口縁部外・内面残ナデ	甕土中層	30% PL18
127	土師器	杯	-	(4.6)	-	石英・雲母・赤色粘土	にぶい橙	普通	体部外面へう張り 内面残ナデ 1口縁部外・内面残ナデ	甕土上層	60%
128	土師器	高杯	-	(6.4)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	杯部外・内面ロケロケ 脚部透かし作成3ヶ所 杯部底部陶師印付	床面	30%
129	土師器	高杯	[188]	(4.1)	-	長石	橙	普通	体部外面へう張り残ナデ一部へう巻き 内面へう巻き 1口縁部外面残ナデ	床面	5%
130	土師器	壺	11.1	9.7	5.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面へう張り残ナデ一部へう巻き 内面ナデ 1口縁部外・内面残ナデ	甕土中層	95% PL22
131	土師器	壺	15.5	18.4	7.4	長石・石英・雲母 銅緑	にぶい黄	普通	体部外面へう巻き 下段へう張り 内面ナデ 1口縁部外・内面残ナデ	甕土中層	70%
132	土師器	壺	16.8	24.1	8.4	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面二方向のへう張り 内面へうナデ 1口縁部外・内面残ナデ	甕土中層	60% PL21
133	土師器	子粒土器	[56]	3.1	4.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ナデ 下端に沈濁	甕土中層	40% PL20

番号	種類	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP4	灰土器	瓶	長石・石英・雲母・赤色粘土	橙	体部外面特子明	甕土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
D077	写玉	2.3	1.5	0.8	0.1	1.9	土(細砂)	褐色 一方向からの穿孔 ナデ	床面	PL27

番号	器種	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
D078	土玉	0.7	0.7	0.1	0.4	土(細砂)	にぶい黄褐色 一方向からの穿孔 ナデ	甕土中	PL27

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q75	礫石	9.6	5.6	3.9	280.0	雲母片岩	片面に発用痕3ヶ所	甕土中層	
Q76	礫石	(7.0)	4.6	3.3	168.0	凝灰岩	紙面4面 一部欠損	甕土中層	
Q77	礫石	(4.0)	3.0	1.9	(25.0)	凝灰岩	紙面4面 一部欠損	甕土中層	

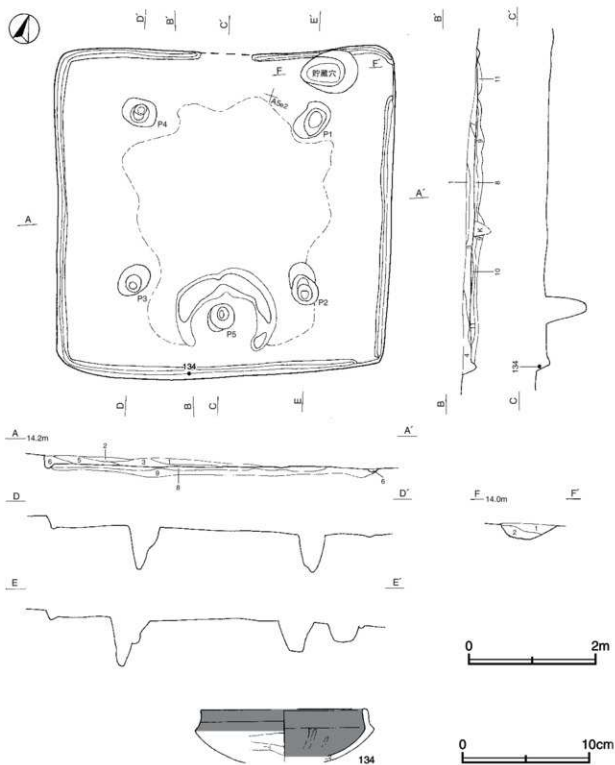
番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q78	白土	0.9	0.6	0.3	(0.8)	滑石	一方向からの穿孔 全面研磨 一部欠損	船木橋築上	PL29

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M8	刀子	(5.4)	0.7	0.4	(4.5)	鉄	基部の一部 両端部欠損	甕土上層	

第20号住居跡 (第60図)

位置 調査区中央のA 5e1区、標高138mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.30m、短軸5.12mの方形で、主軸方向はN-19'-Wである。壁高は3~19cmで、外傾して立ち上がっている。



第60図 第20号住居跡・出土遺物実測図

床 北東部は床面が削平されているが、平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体のにぶい褐色土と、ロームブロックやローム粒子を含む褐色土を埋土して構築されている。北東コーナー部の一部と南東コーナー部の一部以外には、壁溝が巡っている。P5の周辺では、馬蹄状の高まりが見られる。

ピット 5か所。P1～P4は深さ48～78cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ61cmで、位置や硬化面の広がりや周囲に馬蹄状の高まりがあることから出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径92cm、短径72cmの楕円形である。深さは44cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量 2 褐色 ローム粒子中量

覆土 7層に分層できる。各層にローム粒子などが含まれ、不自然な堆積状況であることから埋め戻されている。第8～11層は、貼床の構築土である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 7 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
 2 黒褐色 ローム粒子少量 8 にぶい褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 9 褐色 ロームブロック少量
 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量 10 にぶい褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック中量、炭化粒子微量
 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 11 褐色 ローム粒子微量
 6 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片59点(坏12, 甕類43, 瓶4)が出土している。134は、南壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と推定できる。

第20号住居跡出土遺物観察表 (第60図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
134	土師器	坏	130	142	-	灰石・石灰・雲母	にぶい黄褐色	常温	底部外面へう張り技術ナ 内面ナテウ張りナ 口縁部ナテウ張りナ	覆土中層	10%

第21号住居跡 (第61・62図)

位置 調査区東部のA5h2区、標高14.3mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第89・90号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南東部が調査区域外に延びているため、南北軸は606m、東西軸は298mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、主軸方向はN-22°-Wである。壁高は32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体の褐色土とローム粒子を含む暗褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで142cmで、燃焼部幅は50cmである。袖部は、床面から深さ30cmの皿状に掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第8～10層を埋土して、粘土粒子とロームブロックを主体とした第5～7層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は亦硬化している。煙道部は壁外に33cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 4 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
 2 褐色 砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 5 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 3 にぶい赤褐色 焼土粒子多量、ロームブロック・炭化粒子微量 6 灰黄褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 7 灰黄褐色 粘土粒子多量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量

- 8 暗 褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量
9 褐色 ローム粒子微量

- 10 に近い褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 3か所。P1・2は深さ18・80cmで、配置から主柱穴である。P3は深さ32cmで、性格不明である。

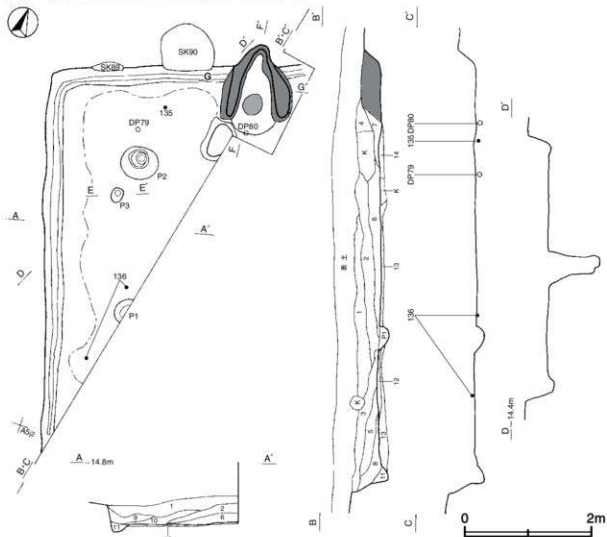
覆土 11層に分層できる。各層にロームブロックや焼土粒子、炭化粒子などの含有物を多く含むことから埋め戻されている。第12～14層は粘床の構築土である。

土層解説

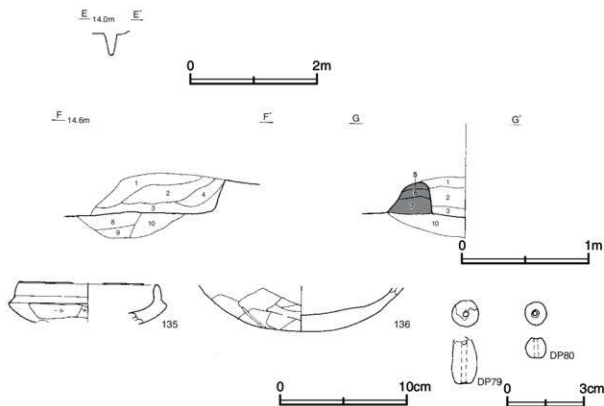
- | | | | |
|-------|--------------------------------|----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極微量 | 8 黒褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 11 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 12 に近い褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化材・灰白色粘土ブロック微量 | 13 褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・黄褐色粘土粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片133点(坏19, 甕類113, 瓶1), 土製品2点(管玉, 土玉)が出土している。また、混入した土師質土器片1点(内耳鍋)も出土している。135は北部西寄り, 136はP1付近, DP79はP2付近, DP80は竈前の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第61図 第21号住居跡実測図



第62図 第21号住居跡・出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表(第62図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
135	土師器	環	(11.0)	(3.2)	-	灰白・右裏・器底 赤色粒土	橙	普通	体部外面へう張り 内面横ナア L口縁部外-内面横ナア	床面	35%
136	土師器	杯	-	(3.7)	-	灰白・裏母・赤色 粒土	橙	普通	体部外面へう張り後ナア一部へう張り 内面ナア	床面	40%

番号	器種	径	高さ	口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP79	碧玉	1.0	(1.7)	0.2	(1.8)	土(石英)	黒褐色 一方向からの穿孔 ナア 一部欠損	床面	
DP80	土玉	0.8	0.7	0.2	0.5	土(長石)	黒色 一方向からの穿孔 ナア	床面	PL27

第22号住居跡(第63・64図)

位置 調査区東部南端のB511区、標高14.6mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びているため、南北軸は5.33mで、東西軸は3.85mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、長軸方向はN-25°-Wである。壁高は20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、確認された部分の中央部北半分が踏み固められている。貼床はロームブロック主体の褐色土と黒褐色土、ローム粒子主体の暗褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。

ピット 2か所。P1は深さ88cmで、配置から支柱穴である。P2は深さ50cmで、補助柱穴と考えられる。P1の下層からは、粘土塊が出土している。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸 105cm、短軸 90cmの隅丸長方形である。深さは 31cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|------|---------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック中量 | 2 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
|--------|-----------|------|---------------------|

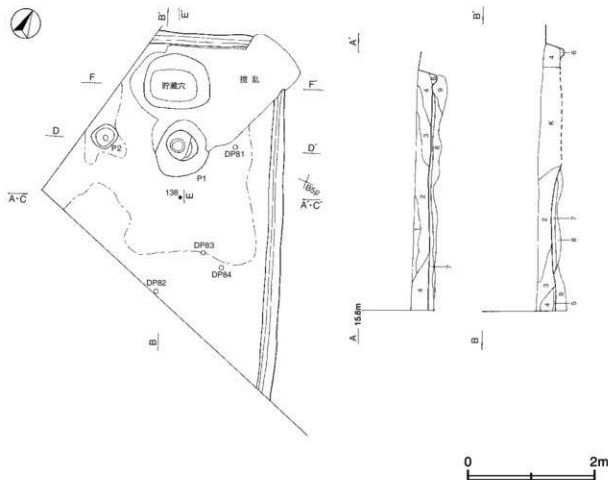
覆土 6層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況であることから自然堆積である。第7～9層は貼床の構築土である。

土層解説

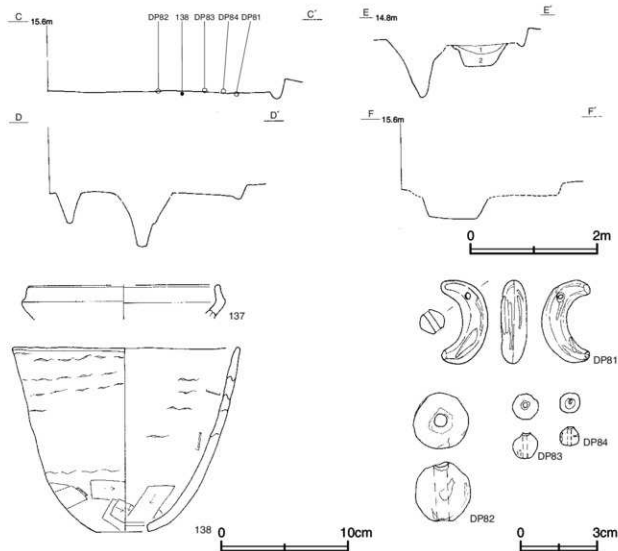
- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 109 点（坏 21、高坏 4、甕類 78、瓶 4、手捏土器 2）、土製品 4 点（勾玉 1、土玉 3）が出土している。138・DP81 は P 1 付近。DP82～84 は東部のやや中央寄りの床面からそれぞれ出土している。137 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。



第 63 図 第 22 号住居跡実測図



第64図 第22号住居跡・出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表(第64図)

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
137	土師器	環	(15.0)	(2.7)	-	灰石・石英・雲母	橙	普通	体部外面下段へラ削り残ナテ 内面へラ磨き 口縁部外内面縁ナテ	甕土中	3%
138	土師器	甕	12.7	14.6	4.2	灰石・石英・雲母 赤色粘土	橙	普通	体部外面下段へラ削り後一部ナテ 内面下段へラ削り	床面	70% PL26

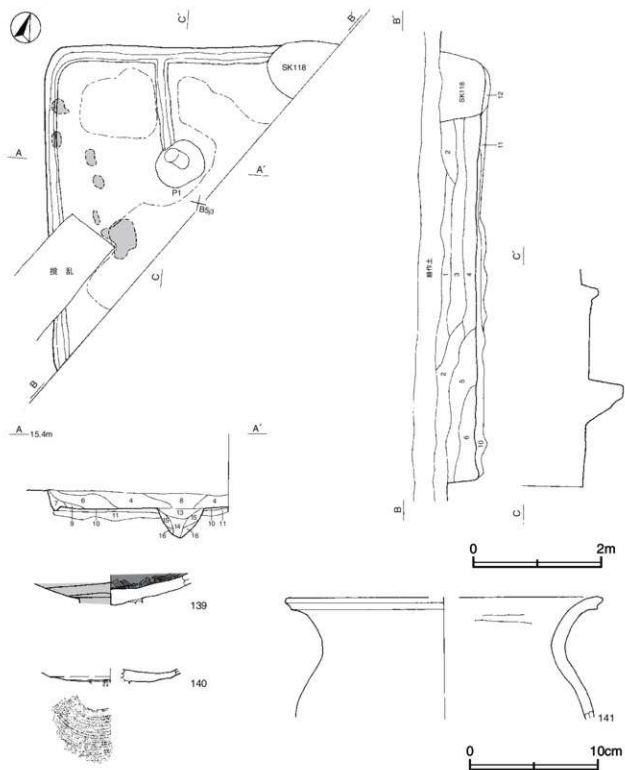
番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP81	写玉	3.3	1.9	1.0	0.2	4.9	土(灰石・石英)	に濃い黄褐色 一方からの穿孔 ナテ	床面	PL27

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP82	土玉	2.2	2.3	0.6	10.4	土(灰石)	に濃い黄褐色 一方からの穿孔 ナテ	床面	PL28
DP83	土玉	1.0	1.0	0.2	1.0	土(網砂)	橙色 一方からの穿孔 ナテ	床面	PL27
DP84	土玉	0.8	0.7	0.1	0.5	土(雲母)	黄褐色 一方からの穿孔 ナテ	床面	PL27

第 23 号住居跡 (第 65 図)

位置 調査区東部北端の B 5 i2 区, 標高 14.9 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 118 号土坑に掘り込まれている。



第 65 図 第 23 号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 南東部が調査区域外に伸びているため、南北軸は5.00 m、東西軸は3.87 mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定できる。壁高は27～30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際をのぞいた中央部が踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体の暗褐色土と褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。北壁から1条の中央部へ延びる間仕切り溝、西壁付近では焼土塊を確認した。

ピット 深さ60cmで、配置から主柱穴である。

覆土 13層に分層できる。ブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。第10～12層は貼床の構築土である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック中量 (締まり普通)	9 褐色	ロームブロック中量 (締まり強い)
2 暗褐色	ロームブロック少量 (締まり強い)	10 暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量	11 褐色	ロームブロック多量
4 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック微量	12 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
5 にぶい褐色	ロームブロック・炭化物中量、焼土粒子少量	13 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量	14 黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量
7 にぶい褐色	ロームブロック中量 (粘性普通)	15 暗褐色	ロームブロック少量 (締まり普通)
8 黒褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	16 にぶい褐色	ロームブロック中量 (粘性強い)

遺物出土状況 土師器片27点(坏5、高坏2、甕類16、瓶4)、須恵器片1点(高坏)が出土している。139～141は、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器と重複関係から6世紀中葉に比定できる。

第23号住居跡出土遺物観察表 (第65図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
139	土師器	高坏	-	(24)	-	灰石・石葉・雲母	にぶい橙	普通	外部内面へう張り穴ナデ 内面へう張り 内部彫刻施部取り付?	覆土中	10%
140	須恵器	高坏	-	(11)	-	長石・石葉・半包粒	黄灰	普通	外・内面ロクロナデ 透かし孔あり	覆土中	30%
141	土師器	甕	(24)	(24)	-	灰石・石葉・雲母	橙	普通	外部外・内面ナデ 口縁部外・内面ナデ	覆土中	10%

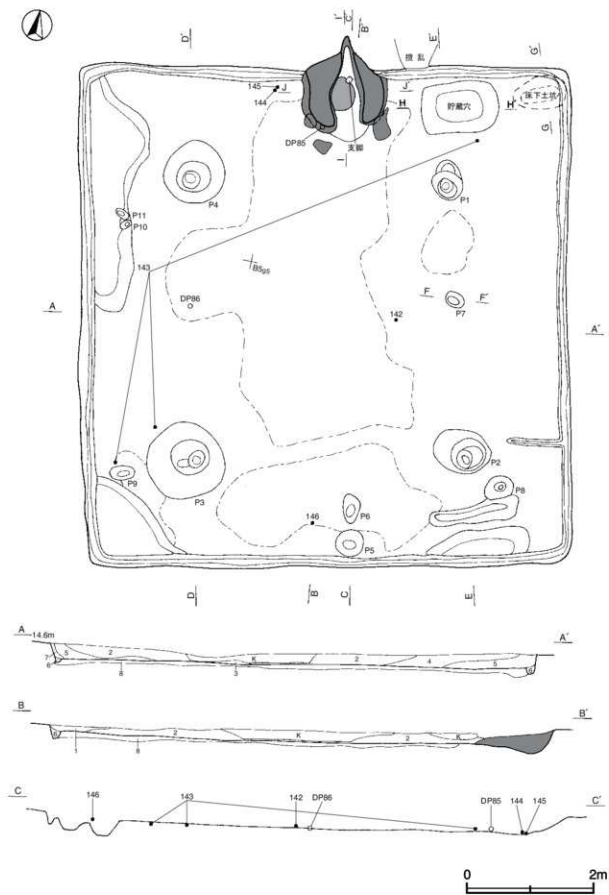
第25号住居跡 (第66～68図)

位置 調査区東部のB5F5区、標高14.5 mの平坦な台地上に位置している。

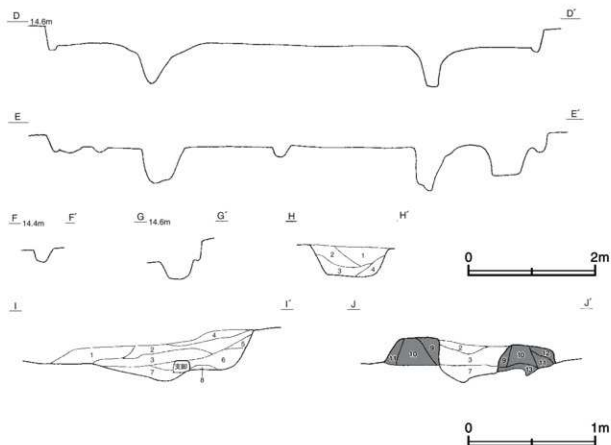
規模と形状 長軸7.88 m、短軸7.72 mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は8～24cmで、ほぼ直立している。攪乱が覆土下層まで達していたが、床面は攪乱を受けていなかった。

床 平坦な貼床で、南壁から竈に向かう中央部が踏み固められている。貼床は、ローム粒子主体の暗褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。東壁から1条の中央部へ延びる間仕切り溝が確認できた。南東コーナー部・南西コーナー部および西壁の一部付近では10cmほど周囲よりも落ち込んでいる。北東コーナー部からは長径88cm、短径52cmの楕円形で、深さ28cmの床下土坑が確認できた。竈の両袖付近から硬化した粘土が出土した。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで172cmで、燃焼部幅は58cmである。袖部は、貼床構築土上に、主に粘土ブロックを主体とした第9～13層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に58cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。袖の延長部の床面に硬化した粘土が認められることから、竈の作り替えを行った可能性がある。



第66图 第25号住居跡実測图(1)



第67図 第25号住居跡実測図(2)

電土層解説

- | | | | | | |
|---|-------|------------------------------|----|--------|-----------------------------|
| 1 | にぶい褐色 | 粘土ブロック少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 | にぶい橙色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 | にぶい褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量 | 9 | 灰褐色 | 焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 |
| 4 | 黒褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 | にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 | 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 11 | にぶい褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 | 極暗褐色 | 焼土ブロック中量、粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 12 | 灰褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子微量 |
| | | | 13 | 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 |

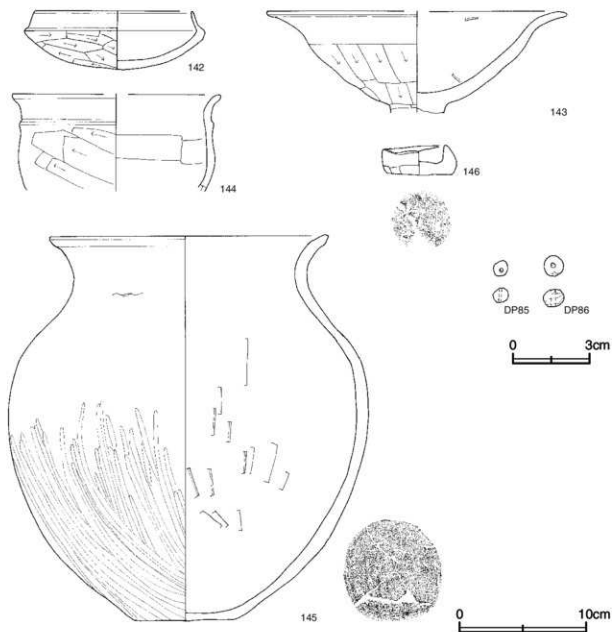
ピット 11か所。P1～P4は深さ52～68cmで、配置から主柱穴である。P5・6は深さ14・21cmで、位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P7は深さ15cmで、P1・2を結ぶ軸線にあることから補助柱穴と考えられる。P8～P11は深さ15～47cmで、性格不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸136cm、短軸82cmの隅丸長方形である。深さは46cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | | | |
|---|------|-----------------------|---|-----|------------------|
| 1 | 極暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 | 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |

覆土 7層に分層できる。周囲から流入した堆積状況であるが、ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。第8層は貼床の構築土である。



第68図 第25号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 7 黒暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片625点(坏113, 碗1, 高坏2, 鉢1, 甕類502, 瓶5, 手捏土器1)土製品13点(支脚11, 土玉2)が西部を中心に覆土中層から下層にかけて出土している。また流れ込んだ須恵器片2点(坏, 鉢)も出土している。142は中央部, 144・145は竈左袖付近の北壁際, DP85は竈前, DP86はP3・4間の床面からそれぞれ出土している。143は, 北東コーナー部付近と南西コーナー部付近の床面から出土した破片が接合したものである。146は, 出入口付近の覆土下層から出土した。竈内や床面から支脚片が出土したがいずれも細片で図化できなかった。

所見 時期は, 出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第25号住居跡出土遺物観察表 (第68図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	千法の特徴はか	出土位置	備考
142	土師器	杯	12.3	4.6	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外部外面へう張り 内面ナダ 口縁部外・内面横ナダ	床面	80% PL18
143	土師器	高杯	[24.0]	(8.2)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	明赤褐色	普通	外部外面へう張り 内面ナダ 口縁部外・内面横ナダ 工具欠て裏	床面	40%
144	土師器	壺	[16.2]	7.7	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外部外面へう張り横ナダ 面へうナダ 口縁部外・内面横ナダ	床面	45%
145	土師器	壺	21.8	30.6	8.0	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外部外面へう張り 内面へうナダ 口縁部外・内面横ナダ 工具欠て裏	床面	90% PL24
146	土師器	子粒土器	4.8	2.3	4.9	長石・石英	橙	普通	外部外面上半横ナダ 内面横ナダ	覆土下層	80% PL20

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP85	土玉	0.6	0.6	0.1	0.2	土(石英・長石)	にぶい黄褐色 一方からの穿孔 ナダ	床面	PL27
DP86	土玉	0.8	0.7	0.2	0.4	土(長石)	暗褐色 一方からの穿孔 ナダ	床面	PL27

第26号住居跡 (第69・70図)

位置 調査区東部のB5d3区、標高144mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.50m、短軸5.33mの方形で、主軸方向はN-16°-Wである。壁高は36～47cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロック主体の褐色土と黒褐色土、暗褐色土を埋土して構築されている。壁下には、壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで112cmで、燃焼部幅は43cmである。袖部は、貼床構築土を8cmほど掘り込み、ロームブロック主体の第10・11層を埋土して、ローム粒子や粘土粒子を主体とした第8・9層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に27cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

電土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|---------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 | 6 暗赤褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 9 灰褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 極暗赤褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 10 暗赤褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| | | 11 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ61～80cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ24cmで、位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸82cm、短軸62cmの隅丸長方形である。深さは51cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

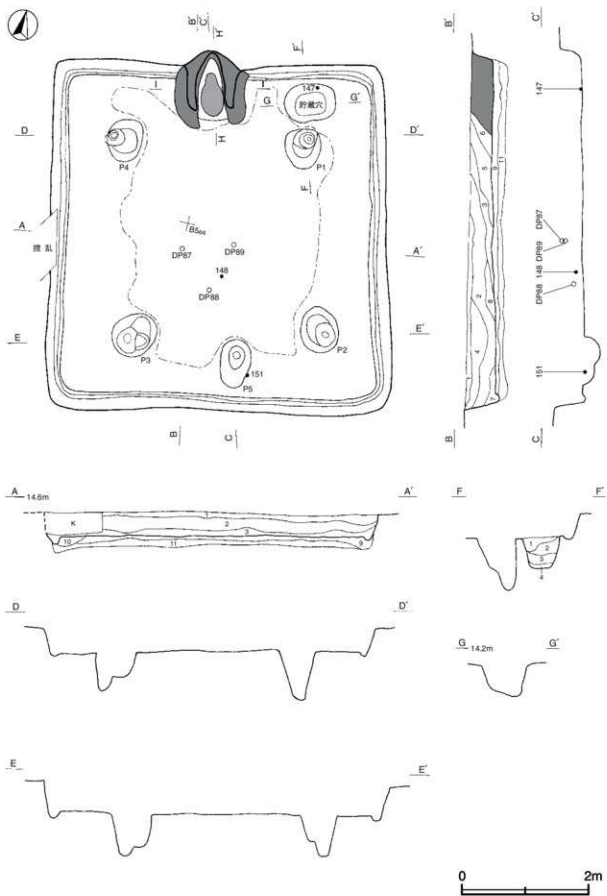
貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|----------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |

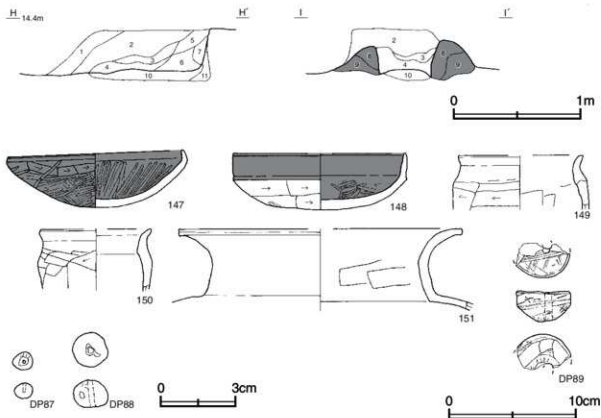
覆土 8層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況であることから自然堆積である。第9～11層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック極微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量、焼土ブロック極微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子極微量 | 8 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量、焼土粒子極微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | | |



第 69 图 第 26 号住居跡実測図



第70図 第26号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片111点(坏22, 甕類82, 瓶7), 土製品4点(土玉2, 紡錘車1, 支脚1)が出土している。151は出入口付近の床面から, 147は貯蔵穴確認面から, 148は中央部の覆土下層から出土している。DP88は中央部やや南寄りの覆土中層から, DP87・DP89は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。149は貼床の構築土内, 150は竈の覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀中葉に比定できる。

第26号住居跡出土遺物観察表(第70図)

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
147	土師器	坏	13.9	4.6	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	体部外面上段へラ削り肌へラ磨き 内面へラ磨き 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	98% PL18
148	土師器	坏	[13.2]	4.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へラ削り肌ナデ一部へラ磨き 内面へラ磨き 口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	30%
149	土師器	甕	[9.8]	(4.4)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	体部外面へラ削り 内面へラナデ 口縁部外・内面横ナデ	貼床構築土	20%
150	土師器	甕	[8.6]	(5.0)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面へラ削り 内面横ナデ 口縁部外・内面横ナデ	竈覆土中	25%
151	土師器	甕	[22.0]	(6.5)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	橙	普通	胴部外・内面横ナデ	床面	5%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP92	土玉	0.8	0.6	0.1	0.14	土(長石)	灰黄褐色 穿孔0.4cmの未製品 一方からの穿孔 ナデ	覆土上層	PL27
DP98	土玉	1.4	1.1	0.2	2.0	土(石英)	濃い黄褐色 一方からの穿孔 ナデ	覆土中層	PL27

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP99	紡錘車	(4.3)	(2.5)	(0.6)	(23.3)	土(石英)	橙色 上下面多方向の研磨 側面水平方向の研磨	覆土上層	

第27号住居跡（第71・72図）

位置 調査区東部のB5c3区、標高143mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸6.33m、短軸6.11mの方形で、主軸方向はN-76°-Eである。壁高は27～32cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、ロームブロック主体の褐色土を埋土して構築されている。壁溝が巡っている。西壁から1条の中央へ延びる間仕切り溝が確認できた。壁際には、炭化材が中央に倒れ込むように出土している。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで125cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は床面から深さ29cmの皿状に掘りくぼめた部分に粘土主体の第9～11層を埋土して、焼土ブロックと粘土粒子を主体とした第12・13層を積み上げて構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に48cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	8 灰黄褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	9 褐 色	焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	10 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量
4 にぶい褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子微量	11 褐 色	ロームブロック多量、焼土粒子微量
5 灰黄褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子少量	12 暗 褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量
6 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	13 灰黄褐色	粘土粒子中量、焼土粒子微量
7 灰黄褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量		

ピット 5か所。P1～P4は深さ56～66cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ56cmで、位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸128cm、短軸78cmの隅丸長方形である。深さは52cmで、底面は中央部が凹んでおり、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	3 にぶい褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
2 暗 褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量	4 褐 色	ロームブロック中量

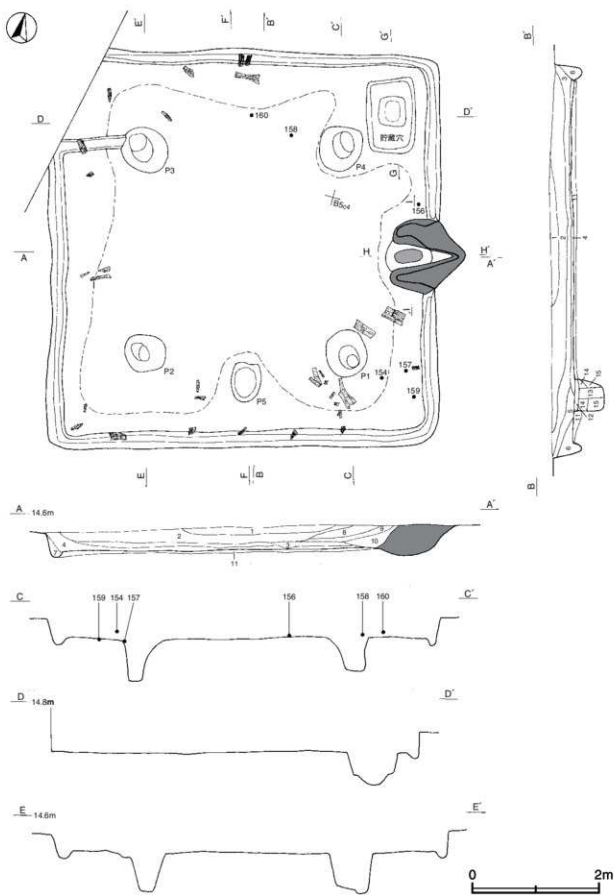
覆土 14層に分層できる。周囲から流入した堆積状況であるが、ロームブロックが多く含まれることから埋め戻されている。第11層は貼床の構築土である。

土層解説

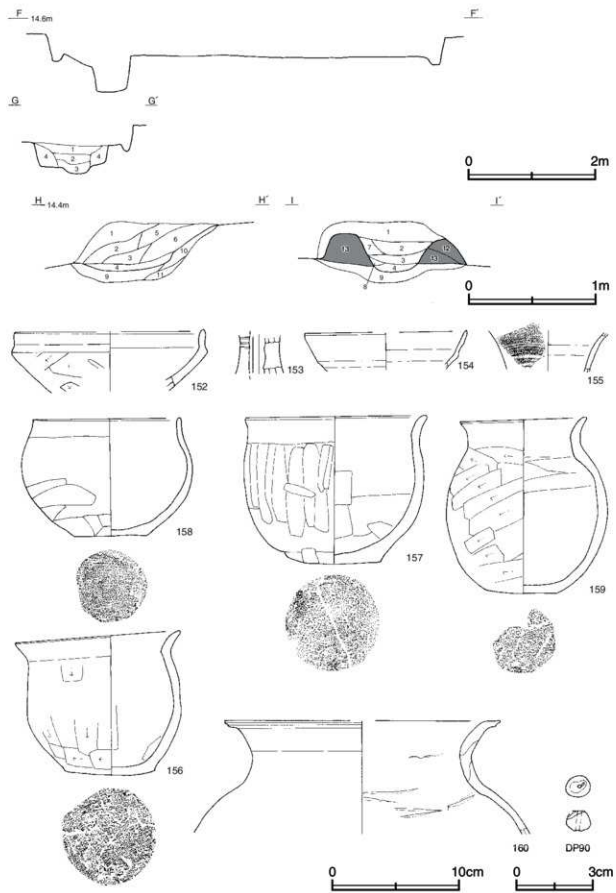
1 黒 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	9 極暗褐色	細礫少量、ローム粒子・粘土粒子微量
2 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	10 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、細礫・砂質粒子微量
3 黒 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	11 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 極暗褐色	ロームブロック少量	12 にぶい褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5 極暗褐色	ロームブロック微量	13 暗 褐色	ロームブロック中量
6 暗 褐色	ロームブロック・炭化物微量	14 にぶい褐色	ロームブロック中量、白色粒子微量
7 暗 褐色	ローム粒子中量	15 褐 色	ロームブロック少量
8 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、細礫微量		

遺物出土状況 土師器片473点（坏115、椀2、高坏4、甕類344、瓶8）、須恵器片3点（高坏1、甕2）、土製品1点（土玉）、鉄滓1点（11.5g）が、西壁際の覆土上層から中層にかけてと、東壁際の覆土中層から床面にかけて出土している。また、混入した縄文土器片1点（深鉢）も出土している。152はP1の覆土中から、155は壁溝の覆土中から、157・159は南東コーナー部、158は北部中央、156は竈左袖付近の床面からそれぞれ出土している。154は南東コーナー部、160は北部中央の覆土下層から出土している。153は覆土中から、DP90は貼床の構築土内から出土している。

所見 床面は焼けていないが、炭化材の出土状況から焼失住居と考えられる。時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第71图 第27号住居跡实测图



第72图 第27号住居跡・出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表(第72図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地肌	千石の特徴はか	出土位置	備考
152	土師器	坏	1150	1490	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り残ナデ一部へう張り 部外・内面無ナデ	P1覆土中	
153	須恵器	高坏	-	(3.1)	-	長石・雲母	灰	良好	外面ロクロナデ 機具工具による沈澱3条	覆土中	5%
154	須恵器	甌	1280	(3.1)	-	長石・雲母	灰	良好	外・内面ロクロナデ	覆土下層	5%
155	須恵器	甌	-	(3.3)	-	長石・石英	灰	良好	外・内面ロクロナデ	埋蔵覆土中	5%
156	土師器	甕	125	116	70	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り残ナデ 内面へうナデ 1線部外・内 面無ナデ 二次焼物	床面	95% P1.22
157	土師器	甕	141	119	74	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り残ナデ 内面へうナデ 1線部外・内 面無ナデ 二次焼物	床面	90% P1.22
158	土師器	甕	117	93	57	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り残ナデ 内面ナデ 1線部外・内面 無ナデ	床面	90% P1.22
159	土師器	甕	100	141	57	長石・石英・雲母	にない橙	普通	体部外面へう張り残ナデ 内面ナデ上段へうナデ 1線 部外・内面無ナデ	床面	80% P1.22
160	土師器	甕	1210	990	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ナデ 内面へうナデ 1線部外・内面無ナデ	覆土下層	5%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1P90	土玉	1.0	0.8	0.2	(0.7)	土(長石)	褐色 一方側からの穿孔 ナデ 一部欠損	埋蔵覆土中	P1.27

第28号住居跡(第73・74図)

位置 調査区東部のA5h4区、標高14.0mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北西部が調査区外に延びているが、東西軸は5.84mである。また、北壁の立ち上がりが確認できなかったが、南北軸は5.90mで、方形と推測でき、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は5～32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、一部が踏み固められている。南壁下には、壁溝が通っている。

炉 中央部からやや北寄りに付設されている。長径36cm、短径34cmの円形で、床面から5cm掘りくぼめた地床形で、炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

1 赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化物微量

ピット 6か所。P1～P3は深さ34～78cmで、配置から主柱穴である。P4は深さ64cmで、位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P5・6は深さ50・28cmで、性格不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸100cm、短軸72cmの隅丸長方形である。深さは42cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

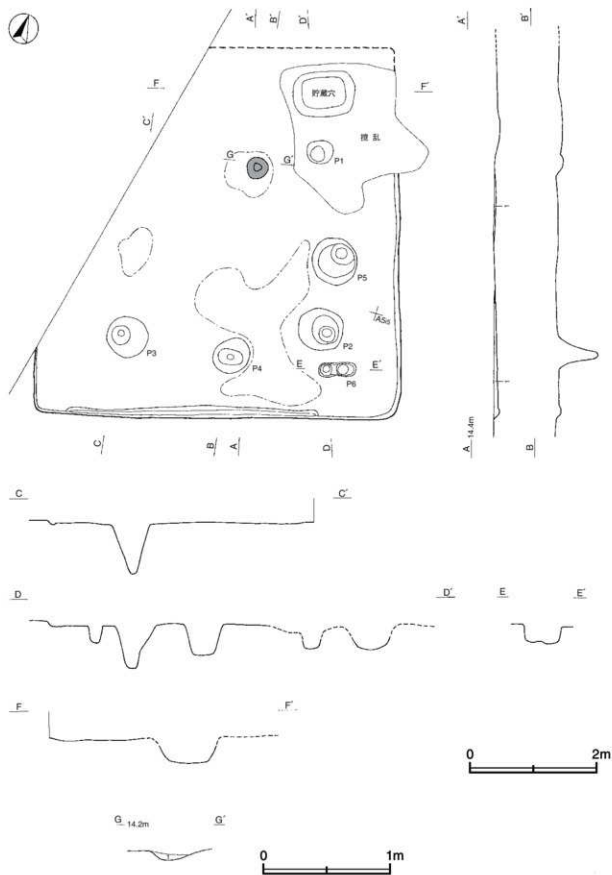
覆土 単一層である。覆土が5cmほどしか堆積していないため堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片13点(坏11, 甕類2), 須恵器片3点(高坏1, 甌2)が出土している。161・162は貯蔵穴内の覆土中から出土した。

所見 北壁の立ち上がりが確認できなかったため、竈が付設されていたかは不明であるが、小形の炉が付設されていたことから、住居ではなく工房として使用された可能性がある。時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第73图 第28号住居跡実測图



第74図 第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表(第74図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
161	土師器	杯	12cm	4.5	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	体部内面へう張り痕ナシ 内面へう巻き 口縁部内面へう巻き 外面無キナシ	貯蔵穴内	60%
162	土師器	杯	12cm	(40)	-	長石・雲母	にぶい褐色	普通	体部内面へう張り痕ナシ 内面へう巻き 口縁部内・内面無キナシ	貯蔵穴内	10%

第29号住居跡(第75～81図)

位置 調査区西部のA19区、標高13.0mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.26m、短軸7.04mの方形で、主軸方向はN-24°-Wである。壁高は41～60cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部及び南コーナー部が踏み固められている。貼床は、ローム粒子主体の暗褐色土、粘土ブロックやロームブロック主体の褐色土、粘土粒子やロームブロック主体の明褐色土を埋土して構築されている。壁下には、壁溝が巡っている。北東壁から2条、南東壁から2条、南西壁から3条、の中央へ延びる間仕切り溝が確認できた。P5の西側に若干の高まりが確認できた。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで160cmで、燃焼部幅は50cmである。袖部は床面から深さ8cmの鼠状に掘りくぼめた部分に粘土粒子やロームブロックなどを含む第11～13層を埋土して、粘土粒子と細礫を主体とした第8～10層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に48cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

電土層解説

1	にぶい褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量、粘土粒子極微量	7	赤褐色	焼土ブロック中量、粘土ブロック微量
2	にぶい褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	にぶい褐色	細礫・粘土粒子少量、焼土粒子極微量
3	にぶい褐色	砂粒中量、焼土粒子少量、炭化物微量	9	にぶい褐色	焼土粒子・粘土粒子中量
4	赤褐色	焼土粒子・砂質粒子多量	10	褐色	焼土粒子・粘土粒子少量
5	にぶい褐色	砂粒極多量、細礫少量、焼土ブロック極微量	11	暗褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
6	褐色	砂粒中量、焼土粒子極微量	12	暗褐色	砂粒中量、ローム粒子極微量
			13	にぶい褐色	ロームブロック中量

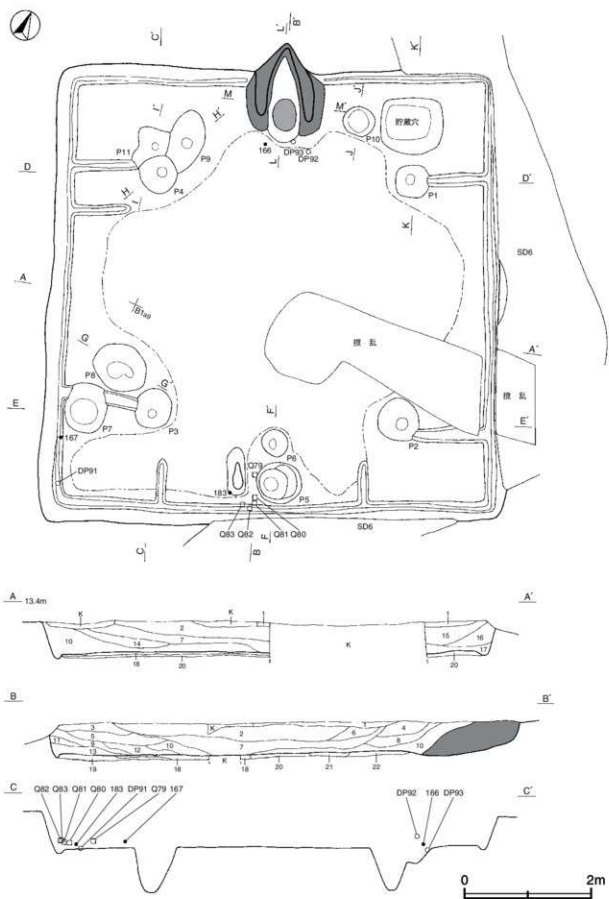
ピット 11か所。P1～P4は深さ67～70cmで、配置から主柱穴である。P5・6は深さ29・14cmで、位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P5の覆土中からは、焼土塊が出土している。P7～P11は深さ12～54cmで、性格不明である。

貯蔵穴 北コーナー部に位置している。長軸99cm、短軸90cmの隅丸長方形である。深さは38cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	極暗褐色	ロームブロック微量、焼土粒子極微量	3	褐色	ロームブロック・粘土ブロック微量、焼土ブロック極微量
2	褐色	ローム粒子微量、炭化粒子極微量			

覆土 17層に分層できる。ブロック状の不自然な堆積状況であることから埋め戻されている。第18～22層は、貼床の構築土である。



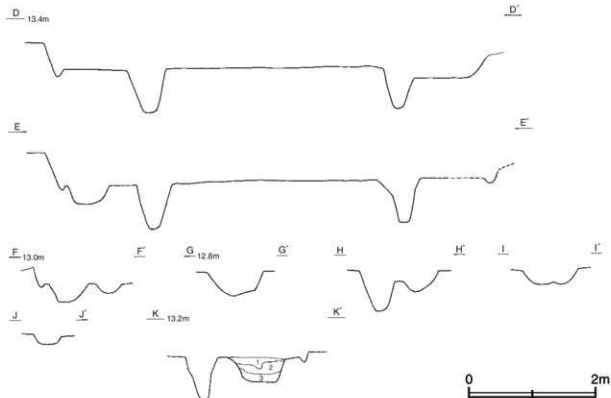
第75图 第29号住居跡実測图(1)

土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	11 褐 色	ローム粒子中量
2 黒 褐色	ローム粒子極微量	12 暗 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
3 黒 褐色	ロームブロック極微量	13 暗 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子極微量	14 暗 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極微量
5 暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	15 暗 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化粒子極微量
6 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子極微量	16 暗 褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
7 暗 褐色	ローム粒子中量	17 暗 褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量
8 暗 褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量、細礫極微量	18 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
9 黒 褐色	ロームブロック・炭化粒子極微量	19 褐 色	粘土ブロック中量
10 黒 褐色	ローム粒子・炭化粒子極微量	20 明 褐色	粘土粒子多量、黒色粒子少量
		21 褐 色	ロームブロック・炭化粒子微量、焼土粒子極微量
		22 明 褐色	ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 704 点 (坏 259, 碗 2, 高坏 4, 甕類 437, 甌 2), 土製品 3 点 (勾玉 2, 支脚 1) が、北部を中心とした覆土下層から床面にかけて出土している。また、混入した須恵器片 1 点 (蓋) も出土している。163・165・174・178・191 は貯蔵穴の底面で、178 は 191 の下から、南壁から 165・174・163 の順で斜位の状態ですれぞれ出土している。DP91 は南西コーナー付近の壁溝の覆土中から、167 は南西コーナー付近の壁溝の確認面上から、166 は竈左袖前、183、Q79 は出入り口付近、188 は貯蔵穴と竈の中間、187・DP93 は竈前の床面から、189 は貯蔵穴付近で立位状態で床面からそれぞれ出土している。186 は竈右袖付近の覆土下層から床面にかけて、DP92 は竈前の覆土中層から、190 は竈右袖付近の覆土上層から床面にかけて破片の状態ですれぞれ出土している。164・168～173・175～177・179～182・184・185 は、P 1 から竈にかけての広い範囲の床面ですれぞれ出土している。重なった状態で出土したのもあり、床面から 176・169・175 の順ですれぞれ正位状態で、床面から 170・168・177 の順で斜位状態で、床面から 171・172・164 (完形)・182・180 の順ですれぞれ出土している。Q 80～83 の自然石が出入り口付近の壁際から円を描くように並んで出土したが、その性格は不明である。

所見 床面から完形の土器が多く出土し、一部はまとまっていることから、床面に置いた状態で埋め戻しが行われ、同時に他の遺物が投棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。



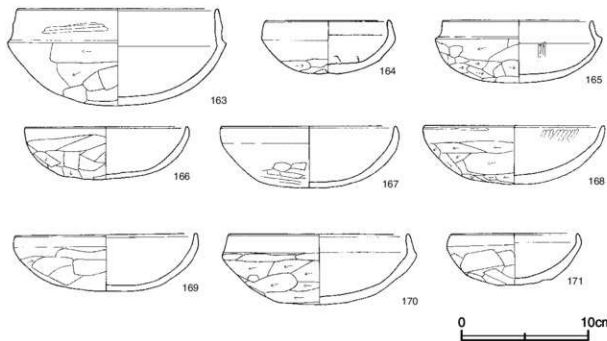
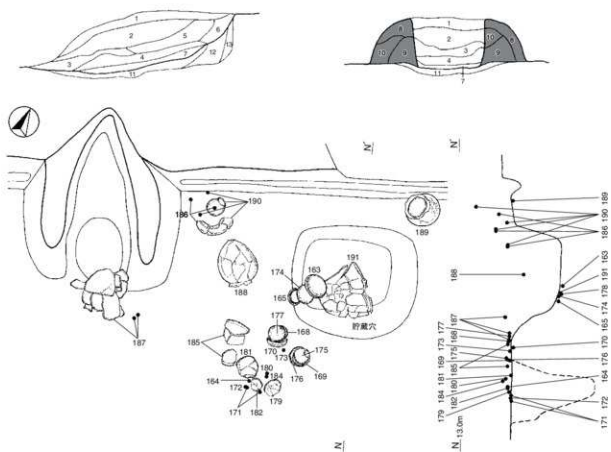
第 76 図 第 29 号住居跡実測図 (2)

L 13.2m

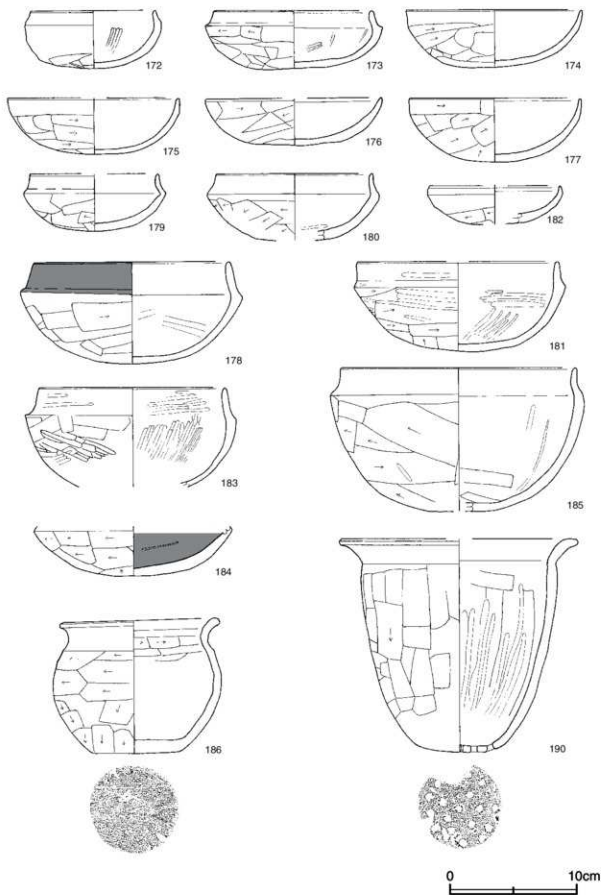
L'

M

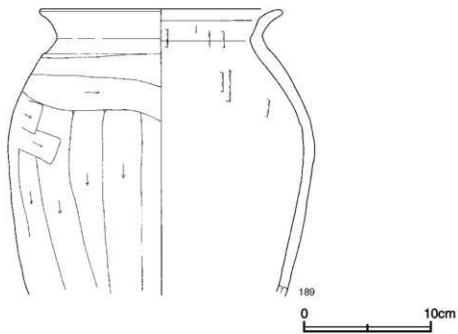
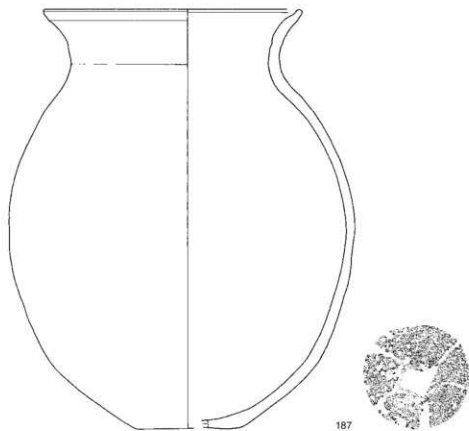
M'



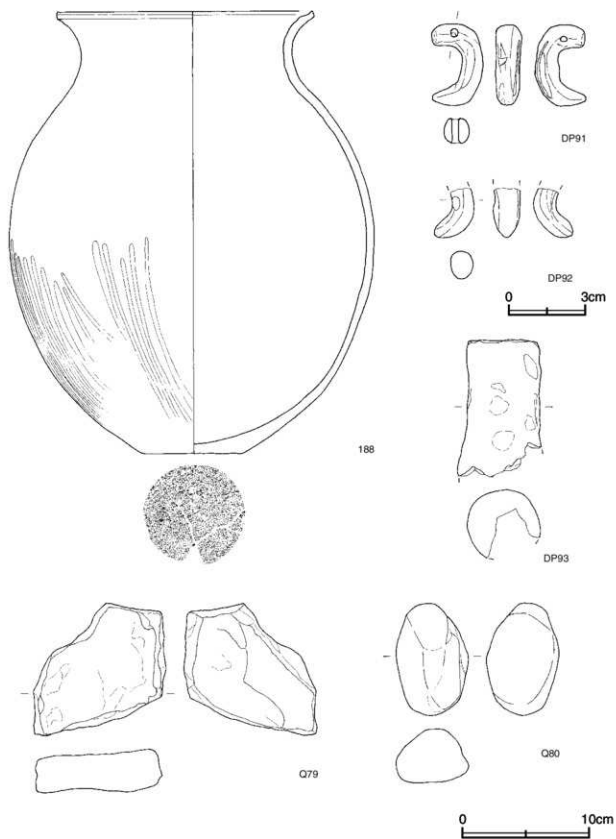
第77图 第29号住居跡・出土遺物実測図



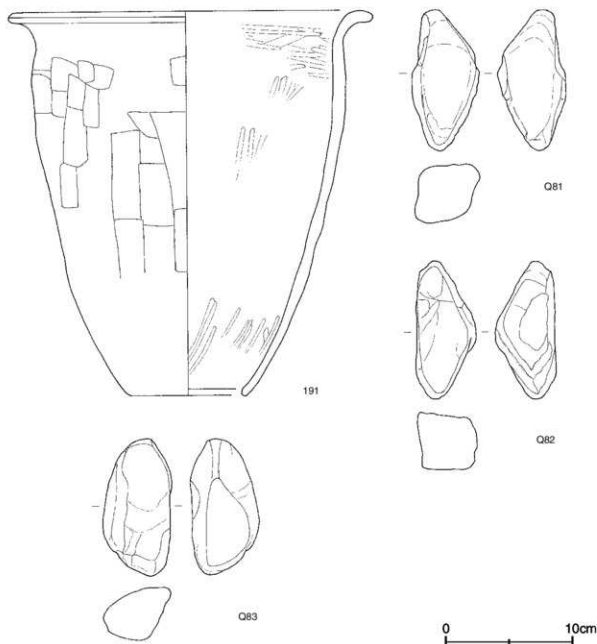
第78图 第29号住居跡出土遺物実測図(1)



第79図 第29号住居跡出土遺物実測図(2)



第80图 第29号住居跡出土遺物実測図(3)



第81図 第29号住居跡出土遺物実測図(4)

第29号住居跡出土遺物観察表(第77~81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
163	土師器	坏	160	7.7	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へウ張り後ナデ 内面ナデ 口縁部外面横ナデ一部へウ磨き 内面横ナデ	貯蔵穴底面	100% PL19
164	土師器	坏	100	4.3	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面へウ張り後ナデ 内面へウナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	100% PL19
165	土師器	坏	119	5.0	-	長石・石英・雲母 赤色胎子	橙	普通	体部外面へウ張り後ナデ 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	貯蔵穴底面	100% PL19
166	土師器	坏	128	4.2	-	長石・石英・雲母 赤色胎子	橙	普通	体部外面へウ張り後ナデ 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ 二次製熟煎	床面	95% PL19
167	土師器	坏	138	4.9	-	長石・石英・雲母 赤色胎子	橙	普通	体部内面へウ張り後ナデ 内面ナデ 口縁部内・内面横ナデ	惣溝縁底面	95% PL19
168	土師器	坏	142	4.7	-	長石・石英・雲母 赤色胎子	橙	普通	体部外面へウ張り後ナデ 内面ナデ一部へウ磨き 口縁部外面横ナデ 二次製熟煎	床面	95% PL19
169	土師器	坏	145	4.5	-	長石・石英・雲母 赤色胎子	にぶい橙	普通	体部外面へウ張り後ナデ 内面横ナデ 口縁部外・内面横ナデ 二次製熟煎	床面	98% PL19
170	土師器	坏	143	5.6	-	長石・石英・雲母 赤色胎子	橙	普通	体部外面へウ張り 内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	床面	98% PL19

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地肌	手法の特徴はか	出土位置	備考
171	土師器	杯	100	4.1	-	長石・石英・雲母 赤色胎子	橙	普通	体部外面へう張り 内面へう張りナデ 口縁部外・内面縁ナデ	床面	90% PL19
172	土師器	杯	100	4.6	-	長石・石英・雲母 赤色胎子	黄橙	普通	体部外面へう張り後ナデ 内面へう張り 口縁部外・内面縁ナデ	床面	90%
173	土師器	杯	126	4.7	-	長石・石英・雲母 赤色胎子	橙	普通	体部外面へう張り後ナデ 内面縁ナデ一部へう張り 口縁部外・内面縁ナデ	床面	90% PL19
174	土師器	杯	140	4.6	-	長石・石英・雲母 赤色胎子	橙	普通	体部外面へう張り後ナデ 内面縁ナデ 口縁部外・内面縁ナデ	貯蔵穴直前	90% PL19
175	土師器	杯	[136]	4.5	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り後ナデ 口縁部外・内面縁ナデ 二次焼熟痕	床面	90%
176	土師器	杯	[140]	3.8	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り後ナデ 口縁部内面縁ナデ 二次焼熟痕	床面	90%
177	土師器	杯	136	5.1	-	長石・石英・雲母	にぶい・黄橙	普通	体部外面へう張り後ナデ 内面縁ナデ 口縁部内面縁ナデ 二次焼熟痕	床面	80%
178	土師器	杯	154	8.1	-	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	体部外面へう張り後ナデ 内面縁ナデ一部へう張り 口縁部外・内面縁ナデ	90% PL19	
179	土師器	杯	[102]	4.6	-	長石・石英・雲母 赤色胎子	橙	普通	体部外面へう張り後ナデ 内面縁ナデ 口縁部外・内面縁ナデ 二次焼熟痕	床面	80%
180	土師器	杯	124	6.3	-	長石・石英・雲母 赤色胎子	橙	普通	体部外面へう張り 内面縁ナデ一部へう張り 口縁部外・内面縁ナデ	床面	70% PL20
181	土師器	杯	[158]	7.2	-	長石・石英・雲母	にぶい・黄	普通	体部外面へう張り後ナデ一部へう張り 内面縁ナデ一部へう張り 口縁部外・内面縁ナデ	床面	70% PL20
182	土師器	杯	[104]	6.0	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面下位へう張り 上位縁ナデ 内面縁ナデ	床面	40%
183	土師器	瓶	148	8.0	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り後ナデ一部へう張り 内面へう張り 口縁部外・内面縁ナデ一部へう張り	床面	60%
184	土師器	杯	-	6.8	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り 内面縁ナデ一部へう張り 二次焼熟痕	床面	60%
185	土師器	瓶	186	11.4	-	長石・石英・雲母 赤色胎子	にぶい・橙	普通	体部外面へう張り一部へう張り 内面へう張り一部へう張り 口縁部外・内面縁ナデ	床面	50% PL20
186	土師器	壺	122	10.7	7.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り 内面ナデ 口縁部内面縁ナデ 内面へう張り	墓土層・床面	80% PL22
187	土師器	壺	203	33.4	8.0	長石・石英・雲母	黄橙	普通	体部外・内面ナデ 口縁部外・内面縁ナデ 二次焼熟痕	床面	90% PL25
188	土師器	壺	252	35.2	8.0	長石・石英・雲母	黄橙	普通	体部外面へう張り 口縁部外面縁ナデ 二次焼熟痕	床面	90%
189	土師器	壺	188	22.7	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面縁位のへう張り後縁位のへう張り 内面へう張り 口縁部外・内面縁ナデ	床面	80% PL23
190	土師器	瓶	[186]	17.1	6.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り後ナデ 内面へう張り後へう張り 内から内への穿孔19孔のうち未貫通1孔 穿孔後ナデ	墓土層・床面	60% PL25
191	土師器	瓶	27.5	30.7	9.2	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面へう張り後ナデ 内面へう張り 口縁部外・内面縁ナデ	貯蔵穴直前	80%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
D191	写玉	3.2	2.0	1.0	0.3	5.8	土(石英・雲母)	明黄褐色 一方向からの穿孔 ナデ	御溝層土中	PL27
D192	写玉	[2.0]	[1.6]	1.1	-	[2.7]	土(石英)	褐色 ナデ 一部欠損	墓土中層	PL27

番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
D193	土師	[10.9]	[6.7]	[5.0]	[266.0]	土(長石・石英・雲母)	にぶい・橙色 ナデ 唇部厚さ 一部欠損	床面	

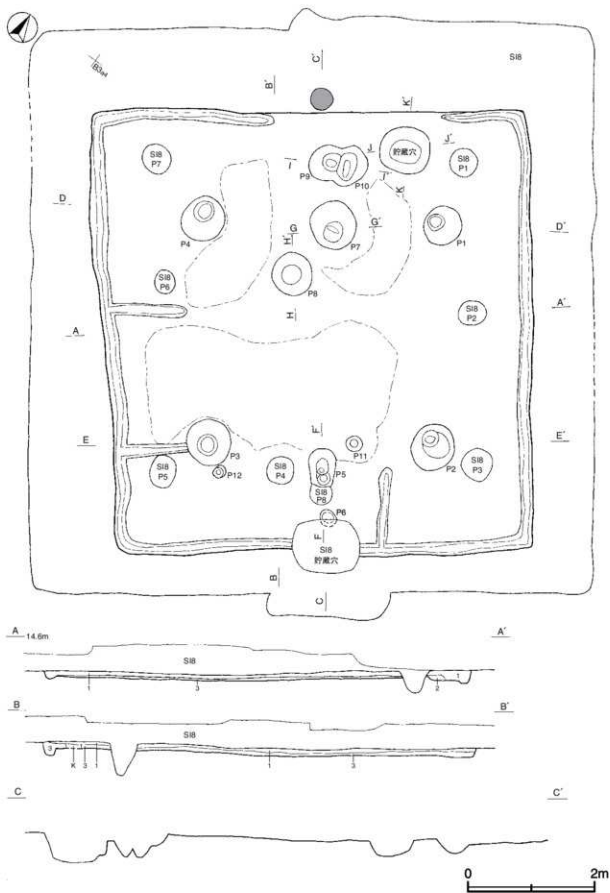
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q79	自然石	10.5	10.5	3.4	907.0	雲母片岩	1面に若干の研削痕有り 縦石として使用*	床面	PL29
Q80	自然石	9.0	5.8	4.3	209.0	雲母片岩	研削痕なし	床面	PL29
Q81	自然石	10.2	5.4	4.7	341.0	雲母片岩	研削痕なし	床面	PL29
Q82	自然石	10.9	4.8	4.5	314.0	雲母片岩	研削痕なし	床面	PL29
Q83	自然石	10.8	5.5	4.2	352.0	雲母片岩	研削痕なし	床面	PL29

第30号住居跡(第82・83図)

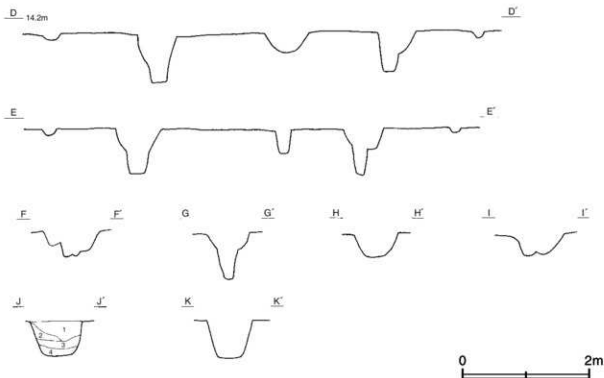
位置 調査区中央部のB3a5区、標高14.1mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第8号住居の拡張前の住居である。

規模と形状 長軸7.12m、短軸7.02mの方形で、主軸方向はN-38°-Wである。第8号住居跡の床下から確認できたため、柱穴や壁溝は確認できたが、壁の立ち上がりは確認できなかった。



第82図 第30号住居跡実測図(1)



第83図 第30号住居跡実測図(2)

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。南東壁から1条、南西壁から2条のそれぞれ中央部に延びる間仕切り溝を確認した。

竈 第8号住居の竈の火床部の掘方から火床面のみ確認できた。

ピット 12か所。P1～P4は深さ65～76cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ40cmで、位置や硬化面の広がりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は第8号住居の貯蔵穴に掘りこまれているが、深さ32cmと推定でき、P5に付随するピットと考えられる。P7は深さ74cmでP1とP4の中央に位置していることから補助柱穴と考えられる。P8～P12は深さ18～37cmで、性格不明である。

貯蔵穴 北西壁中央と北コーナー部の間に位置している。長径82cm、短径73cmの不定円形である。深さは55cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

覆土 3層に分層できる。ロームブロック主体の堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量(締まり強) |
| 2 褐色 | ロームブロック中量(締まり普通) | | |

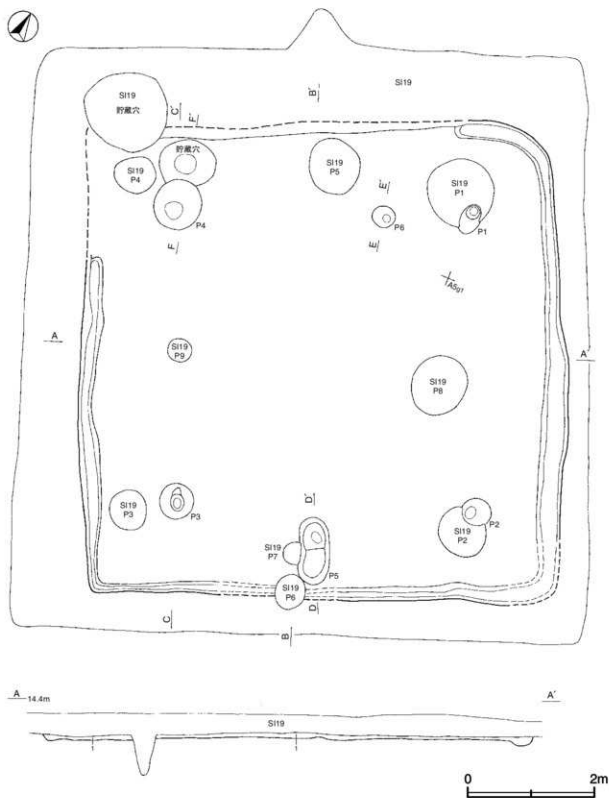
遺物出土状況 土師器片11点(杯4、甕類6、瓶1)が、P3や貯蔵穴の覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 第8号住居と主軸方向がほぼ同じで、各壁を平行に拡張した様相から、第8号住居の拡張前の住居と考えられる。時期は、出土遺物と拡張関係から、6世紀前葉と推定できる。

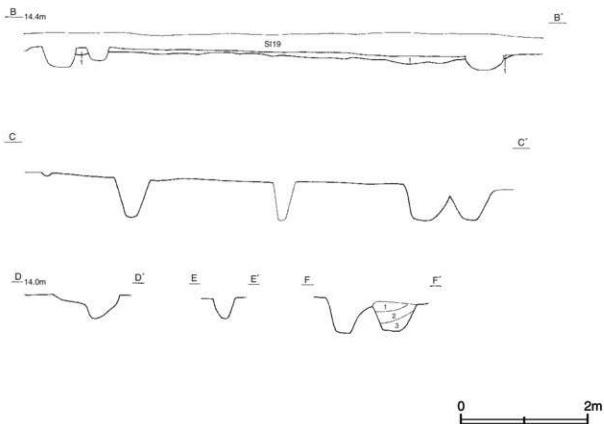
第 31 号住居跡 (第 84・85 図)

位置 調査区中央部の A 4g0 区、標高 13.9 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 19 号住居の拡張前の住居である。



第 84 図 第 31 号住居跡実測図 (1)



第85図 第31号住居跡実測図(2)

規模と形状 長軸7.77m、短軸7.67mの方形で、主軸方向はN-23°-Wである。

第19号住居の床下から確認できたため、柱穴や壁溝は確認できたが、壁の立ち上がりは確認できなかった。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。北西コーナー部・南東コーナー部以外では、壁溝が巡っている。

ピット 6か所。P1～P4は深さ48～67cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ42cmで、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ34cmで、性格不明である。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置している。長径92cmで、短径はP4と重複している部分があるため72cmしか確認できなかった。形状は、楕円形と推測できる。深さは46cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

覆土 単一層である。ロームブロック主体の堆積状況であることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | |
|---|-------|------------------|
| 1 | にぶい褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
|---|-------|------------------|

遺物出土状況 土師器片6点(甕類)がP1・2・5の覆土中から出土している。いずれも細片のため、図化できない。

所見 第19号住居と主軸方向がほぼ同じで、各壁を平行に拡張した様相から、第19号住居の拡張前の住居と考えられる。時期は、出土遺物と拡張関係から、6世紀中葉以前と推定できる。

表3 古墳時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	構造	内部施設				覆土	主要出土遺物	時期	備考 重複関係(内→外)	
								主柱穴	出入口	ピット	貯蔵・野焼穴					
2	B 3a2	方 形 (長方形)	N-38°-W	5.78 × 2.64	82	平坦	全周	2	-	1	覆1	-	自然 崩壊土	土師器、土製品	6世紀前半	
3	B 2a8	方 形	N-25°-W	5.78 × 5.66	24	平坦	全周	4	1	-	覆1	1	人瓦	土師器	6世紀後半	本跡→SF3
4	A 2a6	方 形	N-19°-W	7.64 × 7.52	50 ~ 65	平坦	全周	4	3	1	覆2	2	自然	土師器、須恵器、土製品	6世紀前半	
5	A 2a7	方 形 (長方形)	N-81°-E	6.08 × (5.30)	28 ~ 34	平坦	全周	3	2	-	-	-	自然	土師器、須恵器、土製品	6世紀前半	本跡→SK20、SD1
6	A 3a2	方 形 (長方形)	N-56°-E	9.64 × (7.02)	36 ~ 57	平坦	全周	4	-	6	-	-	人瓦	土師器、須恵器、土製品	6世紀前半	本跡→SK2
7	B 2a9	方 形	N-52°-W	6.24 × 6.06	53 ~ 62	平坦	全周	4	3	1	覆1	1	自然	土師器、土製品、石製品	6世紀中葉	本跡→SK45
8	B 3a5	方 形	N-36°-W	9.18 × 9.05	21 ~ 46	平坦	全周	7	4	3	覆1	1	人瓦	土師器、須恵器、土製品、石製品	6世紀後半	SE30→43B→SD2
9	B 3a4	方 形 (長方形)	N-77°-E	7.34 × (5.35)	68 ~ 71	平坦	全周	2	2	-	-	-	人瓦	土師器、土製品	6世紀前半	本跡→SK47・81
10	B 3a5	方 形 (長方形)	N-26°-W	3.84 × (3.00)	30 ~ 36	平坦	-	1	-	-	覆1	1	人瓦	土師器、土製品	6世紀後半	
11	B 3a6	方 形 (長方形)	N-45°-E	5.70 × (4.26)	32 ~ 57	平坦	全周	4	1	1	-	-	人瓦	土師器、土製品	6世紀前半	
12	B 319	方 形	N-4°-E	8.65 × 7.95	17 ~ 42	平坦	全周	4	1	3	覆1	2	人瓦	土師器、須恵器、土製品、石製品	6世紀後半	SK122→本跡
13	B 411	方 形	N-55°-W	6.23 × 6.05	15 ~ 27	平坦	全周	4	2	1	覆1	1	自然	土師器、土製品	6世紀前半	本跡→SK14、SD3
14	B 4a2	方 形 (長方形)	N-23°-W	9.35 × (5.90)	28 ~ 42	平坦	全周	2	-	1	覆2	-	人瓦	土師器	6世紀後半	SK13→本跡
15	B 4a7	方 形	N-46°-W	5.61 × 5.44	9 ~ 22	平坦	全周	4	1	1	覆1	1	人瓦	土師器、土製品、石製品	6世紀中葉	
16	B 4a3	方 形	N-30°-W	7.61 × 7.48	21 ~ 32	平坦	全周	3	1	-	-	1	人瓦	土師器、土製品	6世紀後半	
17	F 4a5	方 形	N-2°-W	8.57 × 8.18	38 ~ 63	平坦	全周	9	2	4	覆1	1	人瓦	土師器、土製品、石製品	6世紀後半	
19	A 4a0	方 形	N-21°-E	9.38 × 9.22	20 ~ 37	平坦	全周	5	2	2	覆1	1	人瓦	土師器、土製品	6世紀中葉	SE1→本跡
20	A 5e1	方 形	N-19°-W	5.30 × 5.12	13 ~ 19	平坦	一部	4	1	-	-	1	人瓦	土師器	6世紀後半	
21	A 5a2	方 形 (長方形)	N-22°-W	6.06 × (2.98)	32	平坦	全周	2	-	1	覆1	-	人瓦	土師器、土製品	7世紀前半	本跡→SK99・90
22	B 511	方 形 (長方形)	N-25°-W	5.33 × (3.85)	20	平坦	全周	1	-	1	-	1	自然	土師器、土製品	6世紀後半	
23	B 5a2	方 形 (長方形)	-	5.00 × (3.87)	27 ~ 30	平坦	全周	1	-	-	-	-	人瓦	土師器	6世紀中葉	本跡→SK18
25	B 5a5	方 形	N-10°-W	7.88 × 7.72	8 ~ 24	平坦	全周	4	2	5	覆1	1	人瓦	土師器、土製品	6世紀後半	
26	B 5a3	方 形	N-16°-W	5.50 × 5.33	36 ~ 47	平坦	全周	4	1	-	覆1	1	自然	土師器、土製品	6世紀中葉	
27	B 5a3	方 形	N-76°-E	6.33 × 6.11	27 ~ 32	平坦	全周	4	1	-	覆1	1	人瓦	土師器、須恵器、土製品	6世紀後半	
28	A 5b4	方 形	N-17°-W	5.90 × 5.84	5 ~ 32	平坦	一部	3	1	2	砂1	1	不明	土師器	6世紀後半	
29	A 119	方 形	N-24°-W	7.26 × 7.04	41 ~ 60	平坦	全周	4	2	5	覆1	1	人瓦	土師器、土製品	7世紀前半	本跡→SD6
30	B 3a5	方 形	N-36°-W	7.12 × 7.02	-	平坦	全周	4	2	6	-	1	人瓦	土師器	6世紀前半	本跡→SB
31	A 4a0	方 形	N-23°-W	7.77 × 7.67	-	平坦	一部	4	1	1	-	1	人瓦	土師器	6世紀中葉	本跡→SI19

(2) 鍛冶工房跡

第1号鍛冶工房跡 (第86～88図)

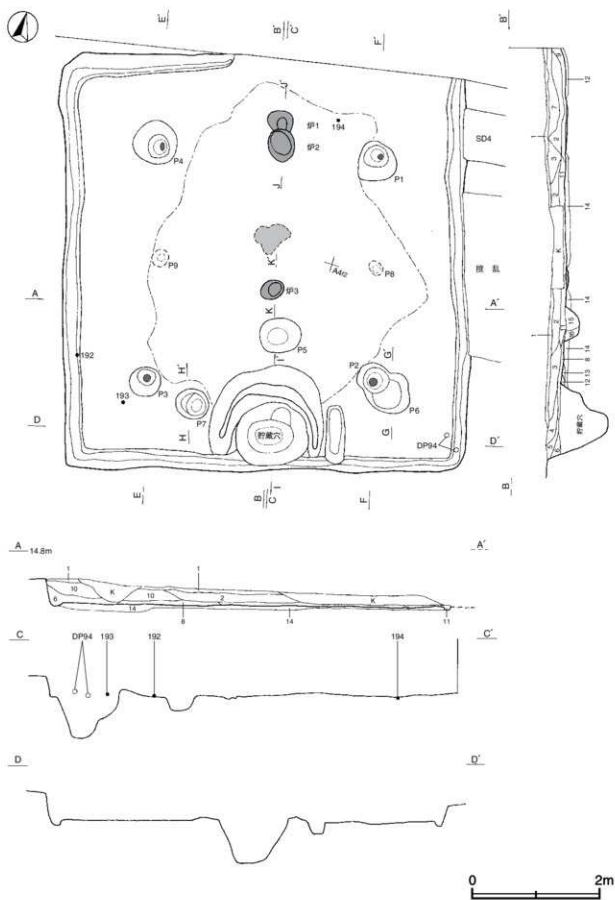
位置 調査区中央部のA 4e1区、標高143mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4号溝に掘り込まれている。

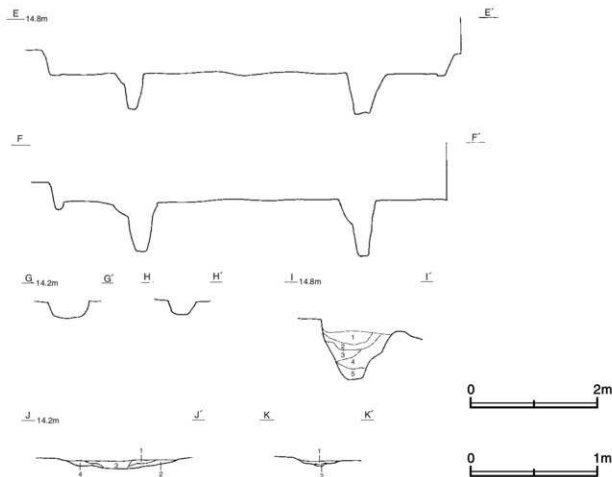
規模と形状 北東コーナー部が調査区域外に延びているが、長軸652m、短軸637mの方形で、長軸方向はN-15°-Wである。壁高は30～40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロック主体ののび黄褐色土と暗褐色土、ローム粒子を微量に含む暗褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。貯蔵穴の周りには約14cmの馬蹄形状の高まりが確認できた。

炉 3か所。炉1は、P1とP4のほぼ中間に付設された地床炉である。規模は、長径は42cmで、短径は炉2に掘り込まれているため30cmしか確認できなかった。炉床部は床面とほぼ同じ高さで、炉床面は赤変硬化している。炉2は、P1とP4のほぼ中間に付設され、炉1を掘り込んで付設された地床炉である。規模は長径53cm、短径43cmである。炉床部は床面とほぼ同じ高さで、炉床面は赤変硬化している。



第86图 第1号鍛冶工房跡実測図(1)



第87図 第1号鍛冶工房跡実測図(2)

炉3は、中央部やや南寄りに付設された地床炉である。規模は長径38cm、短径30cmである。炉床部は床面から6cmくぼんでおり、炉床面は赤変硬化している。炉2と炉3の新旧関係は不明である。

炉1・2土層解説

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1 黒 褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 3 濃い褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量 |
| 2 灰 黄 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 4 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量 |

炉3土層解説

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 灰 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 | 2 灰 黄 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
|--------------------|----------------------|

ピット 9か所。P1～P4は深さ67～90cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ24cmで、位置や硬化面の広がりと、周囲に馬蹄状の高まりがあることから出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・7は深さ25・24cmで、性格不明である。P8・9は深さ57・21cmで、床下で確認したが、性格不明である。

貯蔵穴 南壁中央部に位置している。長径115cm、短径100cmの楕円形である。深さは70cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子中量 | 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極微量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・砂粒微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子極微量 | |

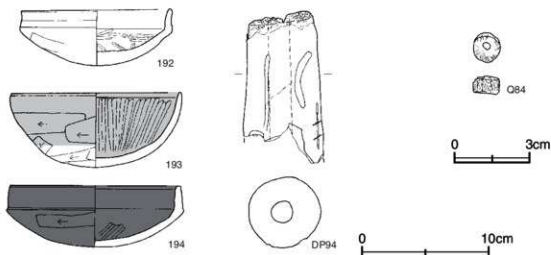
覆土 13層に分層できる。ブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。第12～14層は貼床の構築土である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック少量	9 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子極微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子極微量	11 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック中量	12 暗褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	ローム粒子微量、炭化粒子極微量	13 褐色	ローム粒子微量
6 褐色	ローム粒子中量	14 に近い黄褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子微量	15 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子極微量
8 褐色	ロームブロック微量	16 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片311点（坏90、高坏3、甕類217、甌1）、土製品7点（羽口7）、石製品1点（白玉）、粘土塊6点、鉄滓3点（計17.5g）、粒状滓（5g）が覆土上層から中層にかけて出土している。また、混入した縄文土器片1点（深鉢）も出土している。194は北部、DP94は南東コーナー部の床面から、192は西壁際、193は南西コーナー付近の覆土下層から、Q84は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 多量の遺物は、埋め戻す際に一括投棄されたものと判断した。時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。また、当該する時期の住居には竈が付設されていることが通常であるが、竈はなく、炉を3か所有していることと、羽口が出土していることから鍛冶工房跡の可能性が高い。



第88図 第1号鍛冶工房跡出土遺物実測図

第1号鍛冶工房跡出土遺物観察表（第88図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	4か	出土位置	備考
192	土師器	坏	11.8	4.6	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	暗	普通	底部外面へラ彫り後ナデ	内面へラ磨き	口縁部外・内面磨ナデ	覆土下層 98% PL20
193	土師器	坏	13.3	6.0	-	長石・石英・雲母	に近い黄褐色	普通	底部外面へラ彫り後ナデ	内面へラ磨き		覆土下層 95% PL20
194	土師器	坪	113.3	4.9	-	長石・石英・雲母	に近い黄褐色	普通	底部外面へラ彫り後ナデ	内面ナデ一部へラ磨き	口縁部外・内面磨ナデ	床面 98%

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP94	甌	57	1210	1.7	336.0	土（石英・雲母・鉄粒）	明赤褐色、表面ナデ、端部に鉄付着	床面	PL28

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q84	瓦片	1.1	0.7	0.3	1.2	滑石	一方側からの穿孔、全面磨	覆土中	PL29

(3) 柵跡

第2号柵跡 (第89図)

位置 調査区中央部のA44区、標高14.1mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南北方向に柱穴5か所が並び、軸方向はN-7°-Eである。柱間寸法は1.1~1.6mと一定していないが、柱筋は整っている。

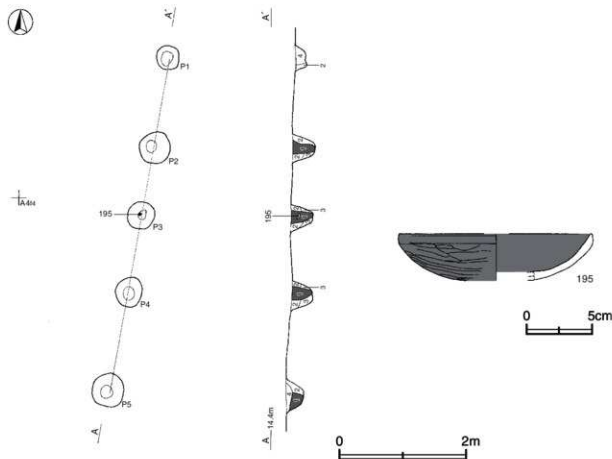
柱穴 平面形は円形または楕円形で、長径37~50cm、短径35~50cmである。掘方の断面形は逆台形またはU字形である。第1層は柱痕、第2~4層は埋土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片3点(坏2、甕類1)が出土している。195は、P3の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第89図 第2号柵跡・出土遺物実測図

第2号柵跡出土遺物観察表 (第89図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
195	土陶器	坏	(15.2)	(3.7)	-	長石・雲母	橙	赤褐色	体部外面へう張り残ナデ 内面横ナデ 口縁部外・内面横ナデ	P3覆土中層	3%

(4) 土坑

第3号土坑 (第90図)

位置 調査区中央部のB3c2区、標高14.1mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 径1.04mの円形である。深さは20cmで、底面は平坦である。壁は、外傾して立ち上がっている。

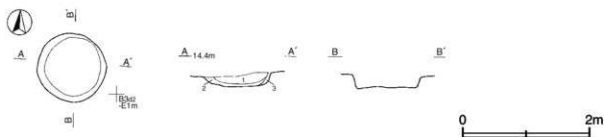
覆土 3層に分層できる。ロームブロック主体の堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子極微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片21点(坏4、甕類16、瓶1)が出土している。いずれも細片のため図化できない。

所見 時期は、出土土器の様相から古墳時代後期と推定できる。性格は不明である。



第90図 第3号土坑実測図

第7号土坑 (第91図)

位置 調査区中央部のB3g1区、標高14.1mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.87m、短径0.68mの楕円形で、長径方向は $N-20^{\circ}-W$ である。深さは20cmで、底面は平坦である。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がっている。

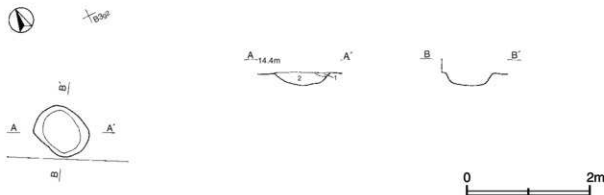
覆土 2層に分層できる。ロームブロック等が主体の堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極微量

遺物出土状況 土師器片15点(坏6、甕類8、瓶1)が出土している。いずれも細片のため図化できない。

所見 時期は、出土土器の様相から古墳時代後期と推定できる。性格は不明である。



第91図 第7号土坑実測図

第9号土坑（第92図）

位置 調査区中央部のB3d4区、標高14.3mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第8・10号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 短径は0.95mであるが、第10号土坑に掘り込まれているため、長径は1.12mしか確認できなかった。楕円形と推測でき、長径方向はN-75°-Wである。深さは40cmで、底面は皿状である。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がっている。

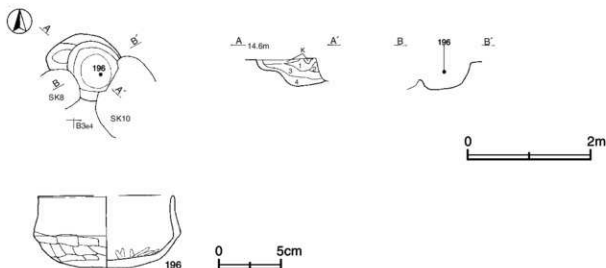
覆土 4層に分層できる。ロームブロックやローム粒子主体の堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子極微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片39点（坏2、高坏1、甕類36）が出土している。また、混入した縄文土器片2（深鉢）も出土している。196は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。性格は不明である。



第92図 第9号土坑・出土遺物実測図

第9号土坑出土遺物観察表（第92図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
196	土師器	坏	110cm	5.8	-	灰石・石灰・雲母	黒	普通	体部外面へう張り 内面へう巻き 口縁部外・内面張りナシ	覆土中層	29%

第10号土坑（第93図）

位置 調査区中央部のB3d4区、標高14.3mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第9号土坑を掘り込んでいる。

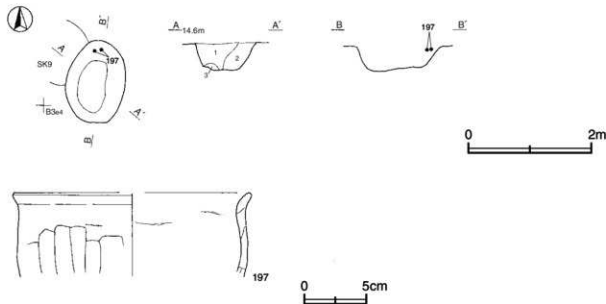
規模と形状 長径1.32m、短径0.94mの楕円形で、長径方向はN-8°-Eである。深さは38cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含みブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|--------------------------|---|----|------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック極微量 | 2 | 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| | | | 3 | 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片41点(坏6, 甕類34, 瓶1)が出土している。197は、覆土上層から出土している。
所見 第9号土坑と重複しているが、出土遺物から時期差はほとんどないと考えられる。時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。性格は不明である。



第93図 第10号土坑・出土遺物実測図

第10号土坑出土遺物観察表(第93図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
197	土師器	瓶	(18.8)	(6.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面施装のへら刷り後ナデ 内面ナデ 口縁部外・内面縁ナデ	覆土上層	5%

第29号土坑(第94図)

位置 調査区中央部のB 2a9区、標高13.9mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第30号土坑を掘り込んでいます。

規模と形状 長径0.48m、短径0.35mの楕円形で、長径方向はN-88°-Eである。深さは12cmで、底面は平坦である。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がっている。

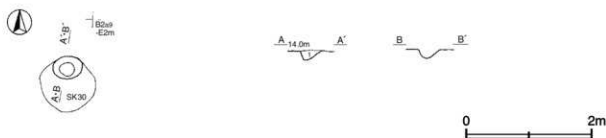
覆土 単一層である。微量のローム粒子が混入しているが、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量、焼土粒子極微量

遺物出土状況 土師器片4点(坏2, 高坏1, 甕類1)が出土している。いずれも細片のため図化できない。

所見 時期は、出土土器の様相から古墳時代後期と推定できる。性格は不明である。



第94図 第29号土坑実測図

第45号土坑 (第95図)

位置 調査区中央部のB 2b0区、標高14.0mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第7号住居跡・第44号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径3.94m、短径0.84mの長楕円形で、長径方向はN-37°-Eである。深さは27cmで、底面は平坦である。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がっている。覆土上層から覆土中層にかけて攪乱を受けている。

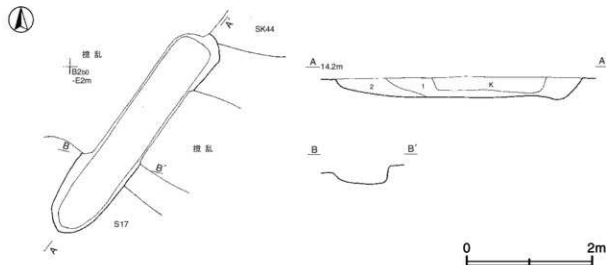
覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量 2 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量

遺物出土状況 土師器片38点(坏7、高坏2、甕類29)が出土している。いずれも細片のため図化できない。

所見 時期は、出土土器の様相と重複関係から6世紀中葉以降の古墳時代後期と推定できる。性格は不明である。



第95図 第45号土坑実測図

第72号土坑 (第96図)

位置 調査区中央部のB 3b1区、標高14.0mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3号柵跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 北コーナー部分が攪乱を受けているが、長軸2.33m、短軸1.33mの隅丸長方形で、長軸方向はN-40°-Wである。深さは34cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。底面からはP1を確認した。

ピット 深さ22cmで、北コーナーに位置している。性格は不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|--------|---------|--------|------------------|
| 1 暗 褐色 | ローム粒子微量 | 3 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 褐 色 | 炭化粒子極微量 | | |

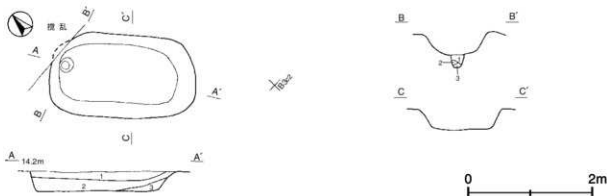
覆土 3層に分層できる。ロームブロック主体の堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|-----------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック微量 | 3 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子極微量 | | |

遺物出土状況 土師器片23点(坏7, 甕類16)が出土している。いずれも細片のため図化できない。

所見 時期は、出土土器の様相から古墳時代後期と推定できる。性格は不明である。



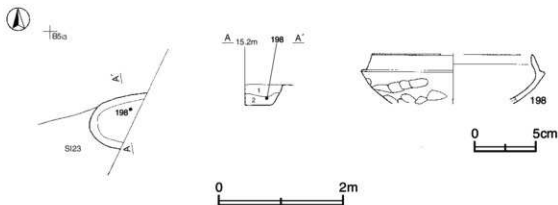
第96図 第72号土坑実測図

第118号土坑 (第97図)

位置 調査区東部のB5区、標高14.4mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第23号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 短径は0.80mであるが、南東部が調査エリア外に延びているため、長径は0.90mしか確認できなかった。形状は楕円形で、長径方向は $N-78^{\circ}-E$ である。深さは34cmで、底面は平坦である。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がっている。



第97図 第118号土坑・出土遺物実測図

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 2 にぶい褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片2点(坏, 甕類)が出土している。198は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。性格は不明である。

第118号土坑出土遺物観察表(第97図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
198	土師器	坏	[137]	(44)	-	長石	浅黄橙	普通	外部外面へ向う後ナデ 内面ナデ 口縁部内・内面傾ナデ	覆土下層	10%

第132号土坑(第98図)

位置 調査区東部のB5d8区、標高14.3mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.34m、短軸0.82mの隅丸長方形で、長軸方向はN-54°-Wである。深さは22cmで、底面は平坦である。壁は、外傾して立ち上がっている。

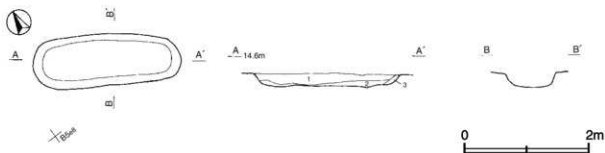
覆土 3層に分層できる。炭化物や焼土ブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 3 暗 赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量
2 黒 色 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片7点(坏1, 甕類6)が出土している。いずれも細片のため図化できない。

所見 時期は、出土土器の様相から古墳時代後期と推定できる。性格は不明である。



第98図 第132号土坑実測図

第133号土坑(第99図)

位置 調査区東部のB5b9区、標高14.2mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.28m、短径1.22mの円形である。深さは30cmで、底面は平坦である。壁は、外傾して立ち上がっている。

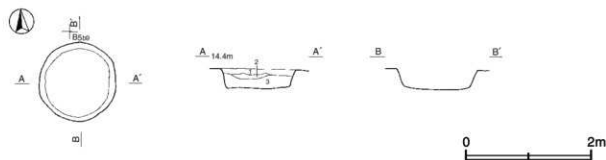
覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 95 点 (坏 23, 甕類 72) が出土している。いずれも細片のため図化できない。

所見 時期は、出土土器の様相から古墳時代後期と推定できる。性格は不明である。



第 99 図 第 133 号土坑実測図

第 143 号土坑 (第 100 図)

位置 調査区中央部の A 4β 区、標高 142 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 0.58 m、短径 0.52 m の楕円形で長径方向は N-2°-E である。深さは 46cm で、底面は凹凸がある。壁は、外傾して立ち上がっている。

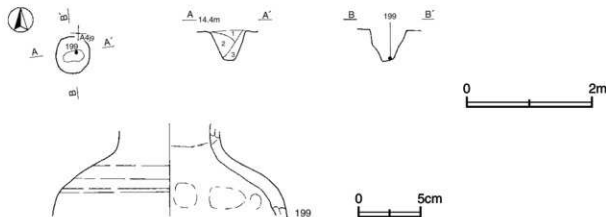
覆土 3 層に分層できる。ブロック状の堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量 3 におい褐色 ロームブロック中量
2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 5 点 (坏 1, 碗 1, 甕類 2, 瓶 1), 須恵器片 1 点 (長頸壺) が出土している。199 は、底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。性格は不明である。



第 100 図 第 143 号土坑・出土遺物実測図

第 143 号土坑出土遺物観察表 (第 100 図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴はか	出土位置	備考
199	須恵器	長頸壺	-	(7.4)	-	灰白・石灰・雲母	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ	底面	10%

第 154 号土坑 (第 101 図)

位置 調査区中央部の B 2c8 区、標高 13.7 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 0.78 m、短径 0.76 m の円形である。深さは 32 cm で、底面は平坦である。壁は、外傾して立ち上がっている。

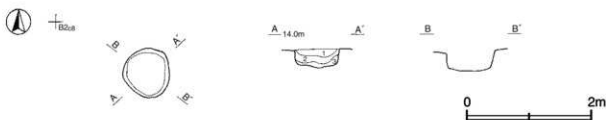
覆土 3 層に分層できる。周囲から流入した堆積状況であることから自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量、焼土粒子極微量 3 にふい褐色 ローム粒子少量、炭化粒子極微量
2 褐色 ローム粒子微量、炭化粒子極微量

遺物出土状況 土師器片 5 点 (杯 1, 碗 1, 甕類 2, 瓶 1) が出土している。いずれも細片のため図化できない。

所見 時期は、出土土器の様相から古墳時代後期と推定できる。性格は不明である。



第 101 図 第 154 号土坑実測図

表 4 古墳時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		覆土	底面	壁面	主な出土遺物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
3	B 3c2	-	円形	1.04×1.04	20	人工	平坦	外傾	土師器	
7	B 3gl	N-30°-W	楕円形	0.67×0.66	20	人工	平坦	傾斜	土師器	
9	B 3d4	N-75°-W	[楕円形]	1.12×0.95	40	人工	凹状	傾斜	土師器	本跡→SK8-10
10	B 3d4	N-8°-E	楕円形	1.32×0.94	38	人工	凹状	傾斜	土師器	SK9→本跡
29	B 2a9	N-88°-E	楕円形	0.48×0.35	12	自然	平坦	傾斜	土師器	SK30→本跡
45	B 2b0	N-32°-E	長楕円形	3.94×0.84	27	人工	平坦	傾斜	土師器	ST, SK44→本跡
72	B 3b1	N-40°-W	隅丸長方形	2.33×1.33	34	人工	平坦	外傾	土師器	SA3との新旧不明
118	B 5i3	N-78°-E	[楕円形]	0.90×0.80	34	人工	平坦	傾斜	土師器	SK23→本跡
132	B 5d8	N-54°-W	隅丸長方形	2.34×0.82	22	人工	平坦	外傾 傾斜	土師器	
133	B 5b9	-	円形	1.28×1.22	30	人工	平坦	外傾	土師器	
143	A 4j8	N-2°-E	楕円形	0.58×0.52	46	人工	凸凹	外傾	土師器、須恵器	
154	B 2c8	-	円形	0.78×0.76	32	自然	平坦	外傾	土師器	

(5) 不明遺構

第 1 号不明遺構 (第 102・103 図)

位置 調査区中央部の B 3a1 区、標高 14.1 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 32・33 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部が攪乱を受けているため、北西・南東軸 3.65 m、北東・南西軸 2.75 m しか確認できなかった。

隅丸長方形と推定できる。主軸方向は N-43°-W である。壁高は 2～22 cm で、緩やかに立ち上がっている。

床 ほほは平坦で、硬化面は確認できなかった。東壁際には、壁溝状の掘り込みが確認できた。

炉 中央部やや南東寄りに付設された地床炉である。規模は長径60cm、短径42cmである。炉床部は床面から4cmくぼんでおり、炉床面は赤変硬化している。

伊土層解説

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| 1 暗 褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 にふい赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量 |
| 2 にふい赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 | 4 にふい褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |

ピット 2か所。P1・2は深さ20・30cmで、配置から主柱穴である。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は、西コーナー部に位置している。長径88cm、短径80cmの不整形円形である。深さは72cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は、北コーナー部に位置している。長径100cm、短径98cmの不整形円形である。深さは57cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴1土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子極微量 | 4 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐色 炭化粒子中量、ローム粒子微量、焼土粒子極微量 | 5 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子極微量 |
| 3 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子中量 | 6 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

貯蔵穴2土層解説

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1 黒 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | |

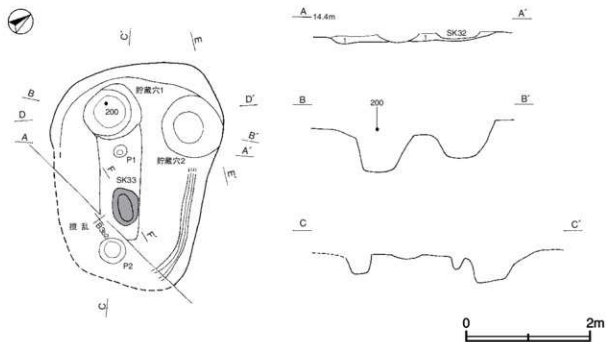
覆土 単一層である。ロームブロック主体の層であることから、埋め戻されている。

土層解説

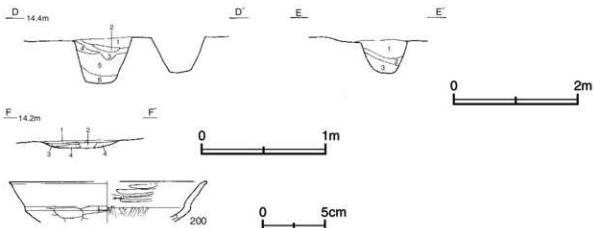
- | |
|-------------------------|
| 1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
|-------------------------|

遺物出土状況 土師器片47点(坏4、甕類43)が出土している。200は、貯蔵穴1の覆土上層から出土している。

所見 本跡は狭い床面積に対し、貯蔵穴が2か所あり、炉も有していることから工房、あるいは倉庫の様な用途の建物と思われる。類似した形状の遺構は、牛久市の馬場遺跡から確認されている。時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。



第102図 第1号不明遺構実測図



第103図 第1号不明遺構・出土遺物実測図

第1号不明遺構出土遺物観察表(第103図)

番号	種別	図種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
290	土師器	坏	15.6	13.3	-	灰石・石英・雲母	明赤褐色	普通	体部外面へう張り 内面へう張り	貯蔵穴 層上土層	5%

第2号不明遺構(第104図)

位置 調査区中央部のA3i6区、標高14.5mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.70m、短軸2.32mの長方形で、主軸方向はN-42°-Eである。壁高は2~10cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、P1と炉を結ぶ範囲が踏み固められている。北西壁の中央部を除き壁溝が通っている。

炉 南西壁際に付設された地床炉である。規模は長径32cm、短径32cmである。炉床部は床面とほぼ同じ高さで、炉床面は赤変硬化している。

炉土層解説

1 濃い褐色 焼土ブロック・炭化物中量、ローム粒子微量 2 褐色 ローム粒子中量

ピット 深さ14cmで、中央部に位置していることから主柱穴と考えられる。

貯蔵穴 3か所。貯蔵穴1は、北コーナー部に位置している。長径88cm、短径82cmの不整円形である。深さは42cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は、東コーナー部に位置している。長径84cm、短径84cmの円形である。深さは50cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴3は、北西壁際の中央部に位置している。長径78cm、短径68cmの楕円形である。深さは40cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴1土層解説

1 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子極微量 4 褐色 ロームブロック中量
2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子極微量 5 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子極微量
3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極微量 6 褐色 ロームブロック多量

貯蔵穴2土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極微量 2 褐色 ローム粒子中量

貯蔵穴3土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極微量 3 褐色 ローム粒子中量
2 褐色 ロームブロック中量

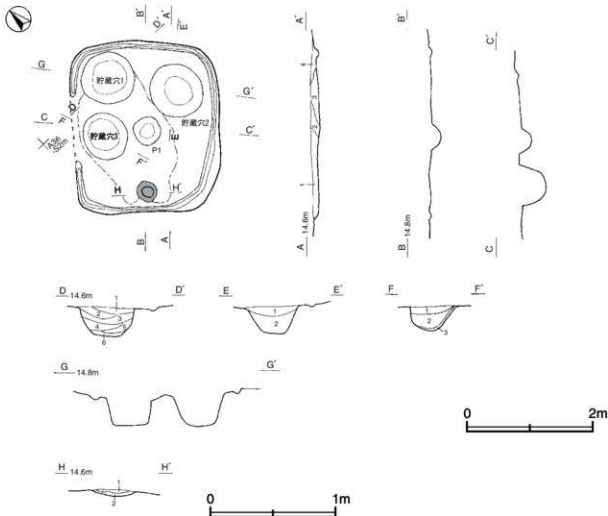
覆土 4層に分層できる。ブロック状堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子極微量 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子極微量
 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極微量 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子極微量

遺物出土状況 土師器片34点(莖類)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 本跡は狭い床面積に対し、貯蔵穴が3か所あり、炬も有していることから工房、あるいは倉庫の様な用途の建物と思われる。時期は、出土土器の様相から古墳時代後期と推定できる。



第104図 第2号不明遺構実測図

表5 古墳時代不明遺構一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m, 単高はcm)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長軸×短軸	壁高					
1	B3al	N-43°-W	四角長方形	(3.65)×2.75	2-22	織葺	平掘	入土	土師器	本跡→SK32-33
2	A3a	N-42°-E	長方形	2.70×2.32	2-10	織葺	平掘	入土	土師器	

3 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡1軒を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

竪穴住居跡

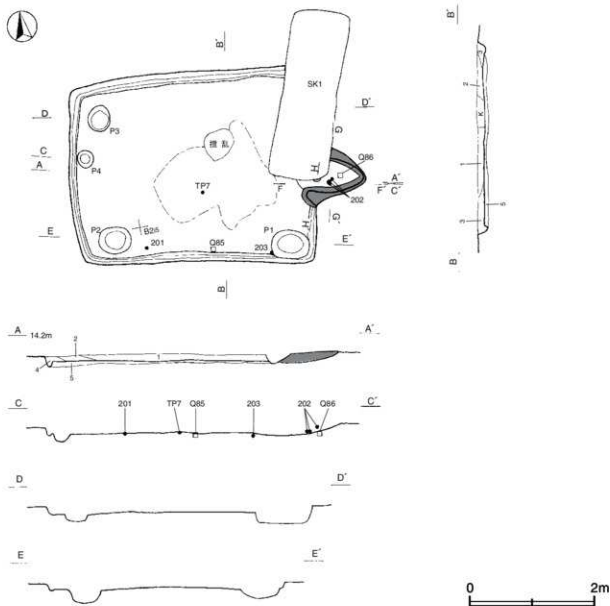
第1号住居跡（第105～107図）

位置 調査区中央部のB 2h5区、標高13.9mの平坦な台地上に位置している。

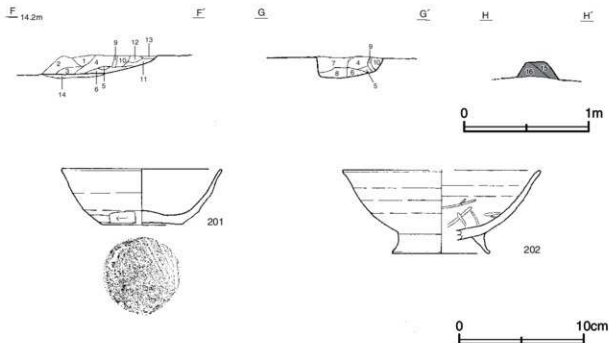
重複関係 第1号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東コーナー部が第1号土坑に掘り込まれているため、長軸は3.88mで、短軸は3.11mしか確認できなかった。長方形と推測でき、主軸方向は $N-84^{\circ}-W$ である。壁高は13cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦な貼床で、竪穴の中央部が踏み固められている。貼床は、ローム粒子を多く含んだ暗褐色土を埋土して構築されている。確認できた壁下には、壁溝が巡っている。



第105図 第1号住居跡実測図



第106図 第1号住居跡・出土遺物実測図

竈 東壁中央部に付設されている。第1号土坑に掘り込まれているため、焚口部と火床部の一部、左袖は確認できなかった。確認できた規模は、焚口部から煙道部まで110cmで、燃焼部幅は44cmである。袖部は床面から8cmほど皿状に掘りくぼめた部分に、ロームブロックを含む第14層を埋土して、ロームブロックを含む第15・16層を積み上げて構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に78cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。石製の支脚が火床部の奥から立位で出土した。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|-----------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 10 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 12 に近い赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 5 に近い赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック多量 |
| 7 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 8 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極微量 | 16 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |

ピット 4か所。P1～P3は深さ10～21cmで、配置から支柱穴である。P4は深さ14cmで、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含みブロック状の堆積状況であることから、埋め戻されている。

第5層は、貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片66点（坏21、高台付碗2、甕類36、瓶7）、須恵器片2（坏、甕）、石器2点（砥石、支脚）が出土している。201・Q85は南壁際、203は南東コーナー部、TP7は中央部の床面から出土している。202・Q86は竈内から、202は破片の状態でそれぞれ出土している。

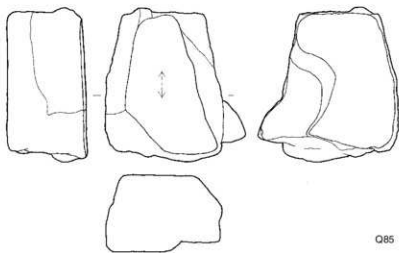
所見 時期は、出土土器から9世紀後葉に比定できる。



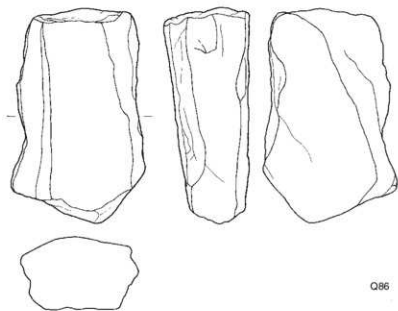
203



TP7



Q85



Q86



第107图 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表 (第106・107図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	胎質	胎色	千土の特徴ほか	出土位置	備考
291	須忠器	杯	12.6	4.5	6.4	長石・石英・雲母 を含む	普通	普通	底部下端平持ちへう張り、底部一方向のへう張り	床面	95%、PL20
292	土師器	高台付 椀	15.6	6.6	7.6	長石・石英	改良普通	普通	口テラナデ、底部整形後高台張り付け	壺大床部	30%
293	土師器	壺	13.3	15.4	9.0	長石・石英・雲母	普通	普通	底部内面上位段のへう張り、下位段のへう張り、内面へう張り、上段部の内面横ナデ、二次焼成跡、編目者	床面	90%、PL22

番号	種類	器種	胎土	胎質	千土の特徴ほか	出土位置	備考
T77	須忠器	甕	長石	灰青	底部外面平行列	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q85	硯石	12.3	11.2	6.1	1180	雲母片岩	紙面1面	床面	
Q86	土師	17.0	10.8	6.9	1880	雲母片岩	全面に焼成跡	壺大床部	

4 中世の遺構と遺物

中世の遺構は、土坑1基、溝1条を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 土坑

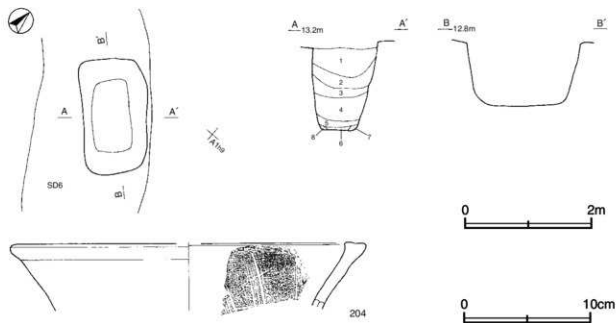
第135号土坑(第108図)

位置 調査区西部のA1h8区、標高130mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第6号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.84m、短軸1.00mの隅丸長方形で、長軸方向はN-41°-Wである。深さは138cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 8層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況であるが、ロームブロックや粘土ブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。



第108図 第135号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | |
|---------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗 褐色 黄褐色粘土ブロック中量、ロームブロック・細礫少量 | 5 暗 褐色 黄褐色粘土ブロック中量、ローム粒子・細礫微量 |
| 2 暗 褐色 ローム粒子少量、黄褐色粘土粒子・細礫微量 | 6 灰 黄 褐色 青灰色粘土粒子少量、ロームブロック微量 |
| 3 黒 褐色 ロームブロック・細礫少量、黄褐色粘土ブロック微量 | 7 にぶい青褐色 灰白色粘土粒子多量 |
| 4 暗 褐色 黄褐色粘土粒子中量、ロームブロック・細礫少量 | 8 灰 黄 色 青灰色粘土粒子極多量 |

遺物出土状況 土師質土器片2点(播鉢・内耳鍋)が出土している。204は、覆土中から出土している
所見 時期は、出土土器から中世と推定できる。

第135号土坑出土遺物観察表(第108図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	材質	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
394	土師質土器	播鉢	125cm	5.3	-	灰石・石英・雲母	にぶい橙	普通	3条1束の羅9目 95・内面無ナテ	覆土中	5%

(2) 溝跡

今回の調査で確認した中世の溝跡については、平面図は遺構全体図(第4図)に掲載する。

第6号溝跡(第109図)

位置 調査区西部のA17区からB1c9区にかけて、標高130mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第29号住居跡を掘り込み、第135号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南側と北側が調査区域外へ延びているため、長さは31.00mしか確認できなかった。A17区から南東方向に直線の18.96m延び、A1j0区ではほぼ90°南西方向に屈曲した後、やや東側に屈曲して12.04m延びている。上幅1.05~2.00m、下幅0.29~0.57m、深さ12~39cmである。断面形は逆台形で、壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

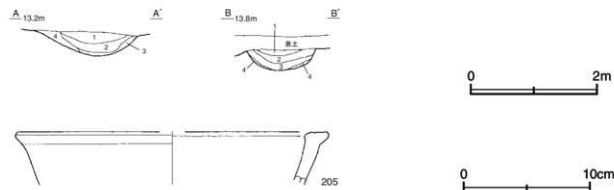
覆土 4層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況であることから自然堆積である。

土層解説(A、Bライン共通)

- | | |
|--------------------------|---------------|
| 1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子極微量 | 3 褐 色 ローム粒子少量 |
| 2 暗 褐色 ロームブロック微量、焼土粒子極微量 | 4 褐 色 ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)の他、混入した土師器片15点(坏3、甕類12)が出土している。205は、覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係から中世前半の溝跡と推定できる。



第109図 第6号溝跡・出土遺物実測図

第6号溝跡出土遺物観察表 (第109図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	材質	色調	地蔵	特徴	出土位置	備考
356	土師瓦土器	内耳罎	24.5	4.2	-	灰白・石灰・黒褐色胎子	橙	普通	体部外・内面黒ナメ	覆土中	5%

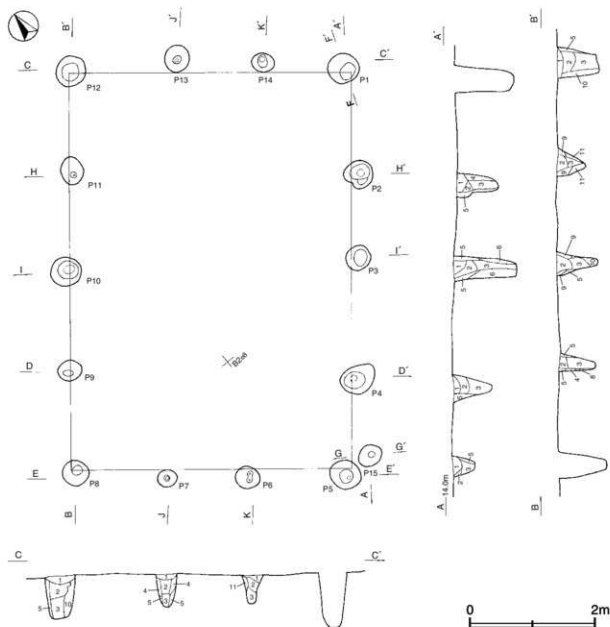
5 その他の遺構と遺物

出土遺物がなく、時期を決定できない掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基、道路跡3条、溝跡2か所、土坑127基、溝跡10条、ピット群1か所、埋没谷1か所と遺構外出土遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第110・111図)

位置 調査区中央部のB 2c8～B 2e8区、標高138mの平坦な台地上に位置している。



第110図 第1号掘立柱建物跡実測図(1)

規模と構造 桁行4間、梁行3間の側柱建物跡で、桁行方向N-40°-Eの南北棟である。規模は桁行6.25m、梁行4.45mで、面積は27.81㎡である。柱間寸法は、西桁行が南妻から1.55m・1.65m・1.50m・1.55m、東桁行が南妻から1.40m・1.90m・1.35m・1.60mで柱筋はほぼ整っている。南梁行は西平から1.50m・1.35m・1.60m、北梁行は1.70m・1.35m・1.40mで、P13がやや外側に出ているが、柱筋はほぼ整っている。

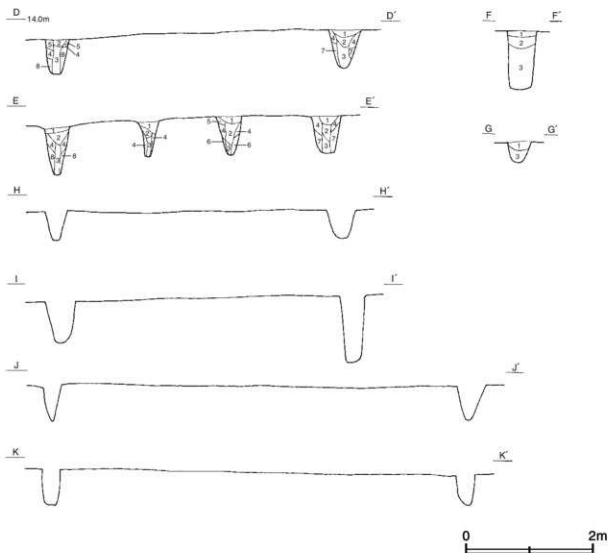
柱穴 15か所。平面形は円形もしくは不整形円形で、長径31～52cm、短径27～48cmである。深さは45～90cmで、掘方の断面形は、逆台形である。第2・3層は柱抜き取り後の覆土で、第4～11層は掘方への埋土である。P15は、P5の補助柱穴として機能していたと考えられる。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 灰褐色 ローム粒子少量 | 7 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量 | 8 灰褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | 9 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 4 灰褐色 ロームブロック微量 | 10 灰褐色 ロームブロック中量 |
| 5 褐色 ローム粒子中量 | 11 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 6 褐色 ロームブロック中量 | |

遺物出土状況 土師器5点(環1、甕類4)がP2・10・12・13の覆土中から出土している。いずれも細片のため図化できない。

所見 遺構に伴う遺物がないことから、時期・性格ともに不明である。



第111図 第1号掘立柱建物跡実測図(2)

(2) 井戸跡

第1号井戸跡 (第112図)

位置 調査区中央部のB4e9区、標高14.1mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径2.17m、短径2.00mの円形で、断面形は漏斗状をしている。深さ1.8mほど掘り込んだ時点で、崩落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

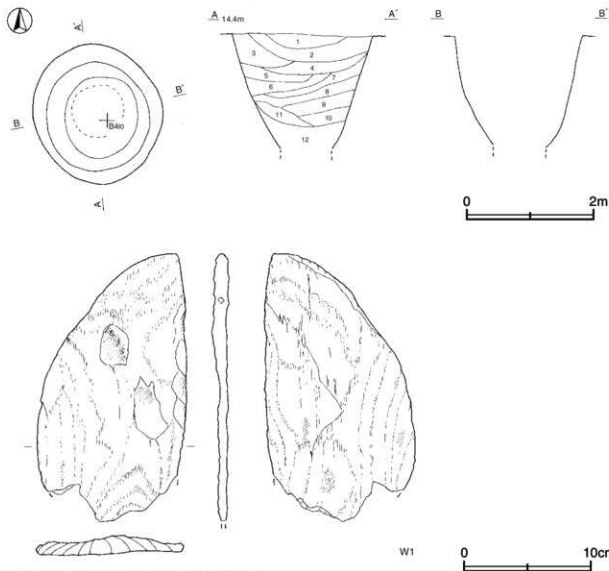
覆土 12層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックの混入が認められることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---|-----------|--|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、浅黄褐色粘土ブロック微量、
焼土粒子・炭化粒子極微量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック・浅黄褐色粘土ブロック少量
ロームブロック・青灰色粘土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・浅黄褐色粘土ブロック少量、焼
土粒子・炭化粒子極微量 | 6 褐色 | ロームブロック・青灰色粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 浅黄褐色粘土ブロック中量、ロームブロック少量、
焼土粒子・炭化粒子極微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック中量、青灰色粘土ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | 浅黄褐色粘土ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子
極微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・青灰色粘土ブロック中量 |
| | | 9 暗褐色 | 青灰色粘土ブロック中量、ロームブロック微量 |
| | | 10 灰褐色 | ロームブロック・青灰色粘土ブロック中量 |
| | | 11 黒褐色 | 青灰色粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| | | 12 オリーブ灰色 | 粘土ブロック極多量 |

遺物出土状況 木製品1点(曲物)が出土している。竹片も出土したが、腐食のため取り上げられなかった。W1は覆土中から出土している。

所見 時代を特定できる遺物がないことから、時期不明である。



第112図 第1号井戸跡・出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表 (第112図)

番号	品名	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
W1	曲物	(21.3)	11.7	(1.6)	(222.3)	木	底部*	墓土中	PL30

(3) 道路跡

今回の調査で確認した時期・性格不明の道路跡3条の規模については一覧表で、土層断面図 (第113図) と土層解説は遺構順に掲載し、平面図については遺構全体図 (第4図) で掲載する。

第1・2・3号道路跡土層解説 (Aライン)

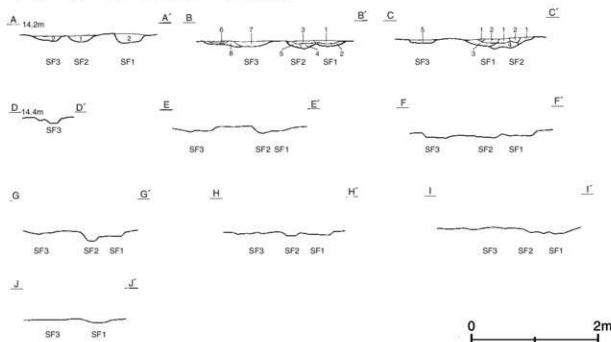
- | | |
|----------------|------------------|
| 1 灰 褐色 ローム粒子少量 | 2 暗 褐色 ロームブロック少量 |
|----------------|------------------|

第1・2・3号道路跡土層解説 (Bライン)

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量 | 5 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子極微量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子極微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量、面礫極微量 | 7 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子極微量 |
| 4 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子極微量 | 8 褐色 ローム粒子少量 |

第1・2・3号道路跡土層解説 (Cライン)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック少量 |
| 3 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | |



第113図 第1・2・3号道路跡実測図

表6 その他の道路跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規 模 (m, 長さ (m))				断面形	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	墓 跡 取 扱 方 法
				長さ	上幅	下幅	深さ						
1	B 146~ B 311	N-70°-W	直線状	(60.20)	0.40~0.25	0.24~0.44	8	浅いU字状	礫砂	凹凸	自然	土陶器	本跡→SF2
2	B 361~ B 311	N-75°-W	直線状	(41.76)	0.18~0.42	0.19~0.20	10	浅いU字状	礫砂	凹凸	自然	土陶器	SF1→本跡
3	B 145~ B 313	N-83°-W	直線状	(74.60)	0.32~0.96	0.19~0.20	8	浅いU字状	礫砂	凹凸	自然	土陶器	SF1-2との新旧不明

(4) 欄跡

第1号欄跡 (第114図)

位置 調査区中央部のA3j9～B3a8区、標高14.6mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北東・南西方向に柱穴5か所が並び、軸方向はN-52°-Eである。柱間寸法は0.95～1.80mと一定せず、P5はやや南にずれるが、柱筋はほぼ整っている。

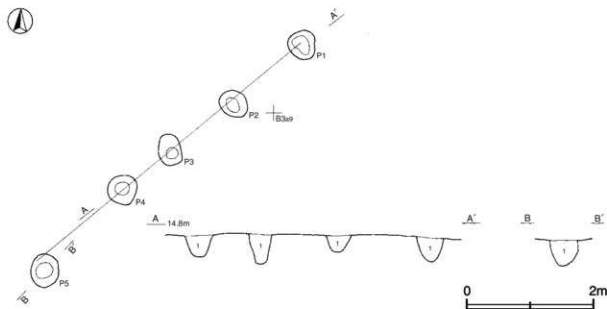
柱穴 平面形は円形または楕円形で、長径47～50cm、短径37～41cmである。掘方の断面形は、逆台形またはU字形で、覆土は単一層である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子極微量

遺物出土状況 土師器片1点(甕類)がP1覆土中から出土している。細片のため固化できない。

所見 遺構に伴う遺物がないことから、時期・性格ともに不明である。



第114図 第1号欄跡実測図

第3号欄跡 (第115図)

位置 調査区中央部のB3b2～B3b1区、標高14.2mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第72号土坑との新旧関係は不明である。

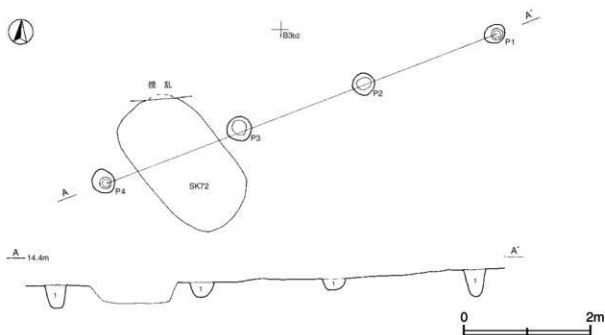
規模と形状 東西方向に柱穴4か所が並び、軸方向はN-70°-Eである。柱間寸法は2.12～2.30mと一定していないが、柱筋は整っている。

柱穴 平面形は円形または楕円形で、長径33～40cm、短径28～39cmである。掘方の断面形は、逆台形またはU字形で、覆土は単一層である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック粒子少量

所見 遺構に伴う遺物がないことから、時期・性格ともに不明である。



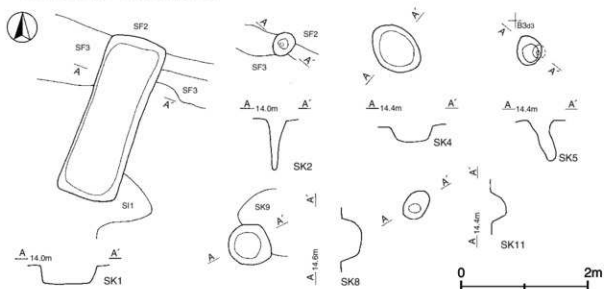
第115図 第3号柵跡実測図

表7 その他の柵跡一覧表

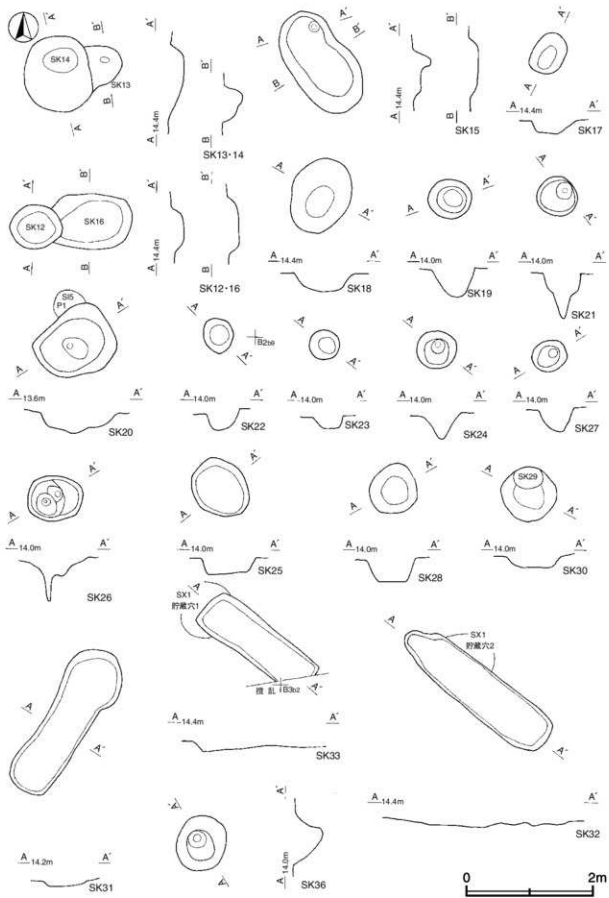
番号	位置	主軸方向	長さ(m)	柱間(m)	柱 穴				備考 (時期)	
					柱穴本数	平面形	長径(cm)	短径(cm)		深さ(cm)
1	A 3j9 B 3a8	N-32°-E	540	095-180	5	円形・楕円形	47-50	37-41	27-47	
3	B 3b2 B 3b1	N-70°-E	668	212-230	4	円形・楕円形	33-40	28-39	17-40	

(5) 土坑

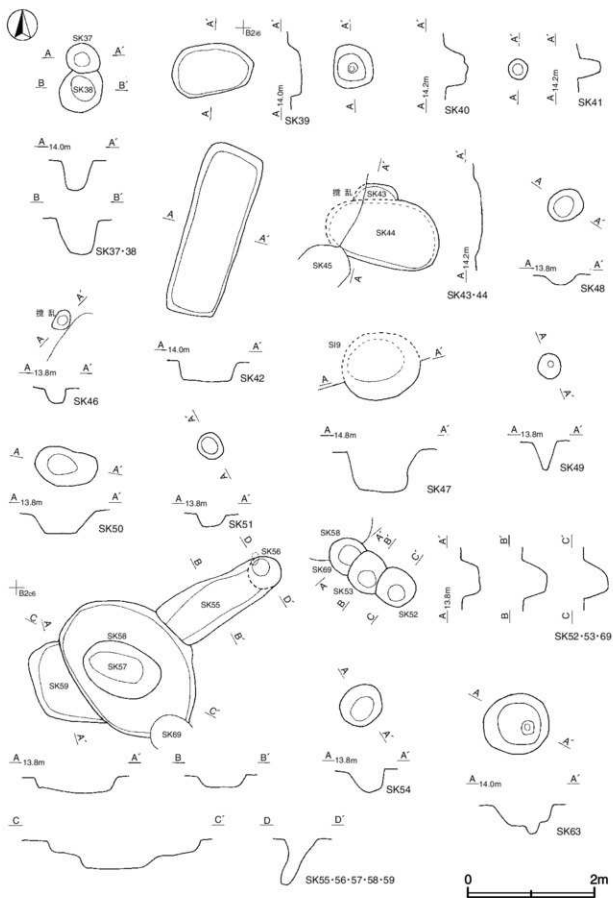
今回の調査で確認した時期・性格ともに不明の土坑127基は、規模、形状等について実測図(第116図～第122図)及び一覧表を掲載する。



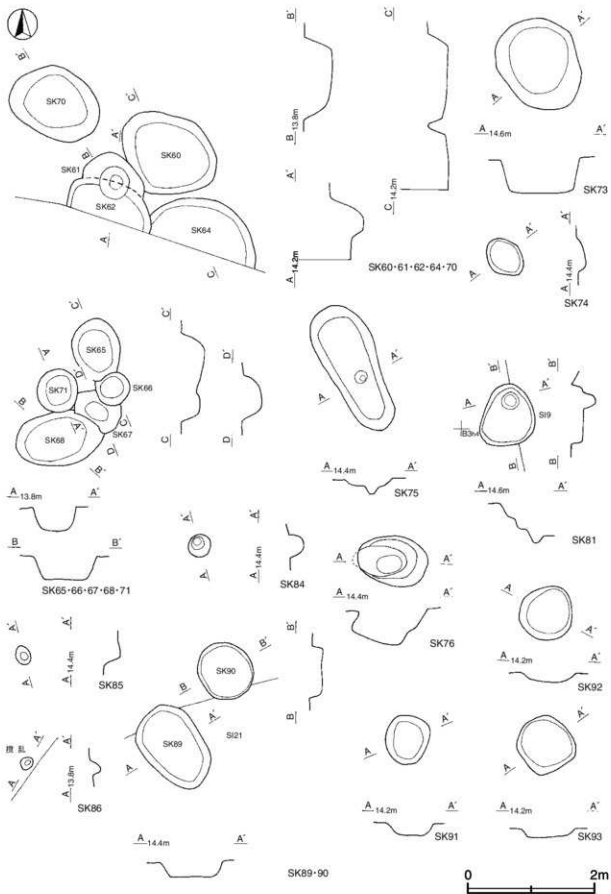
第116図 その他の土坑実測図(1)



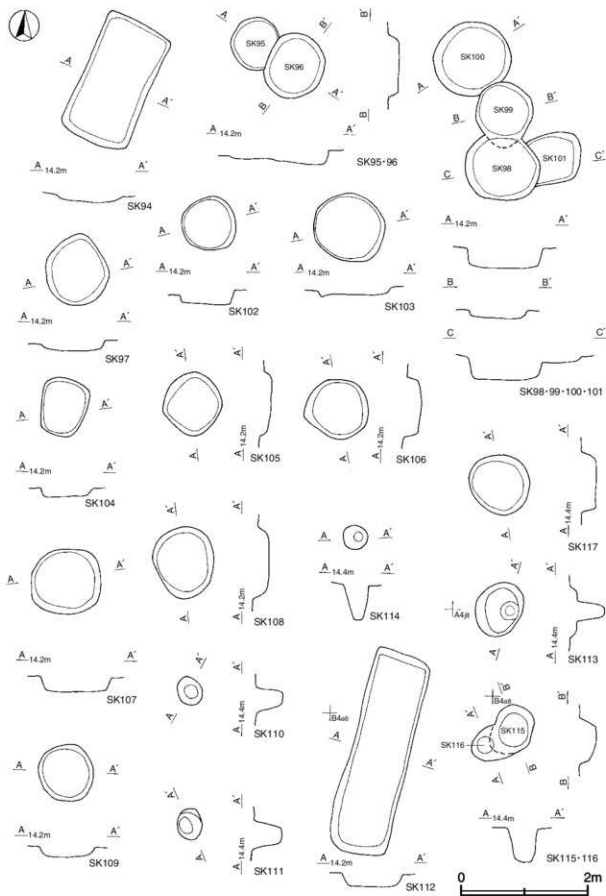
第117図 その他の土坑実測図(2)



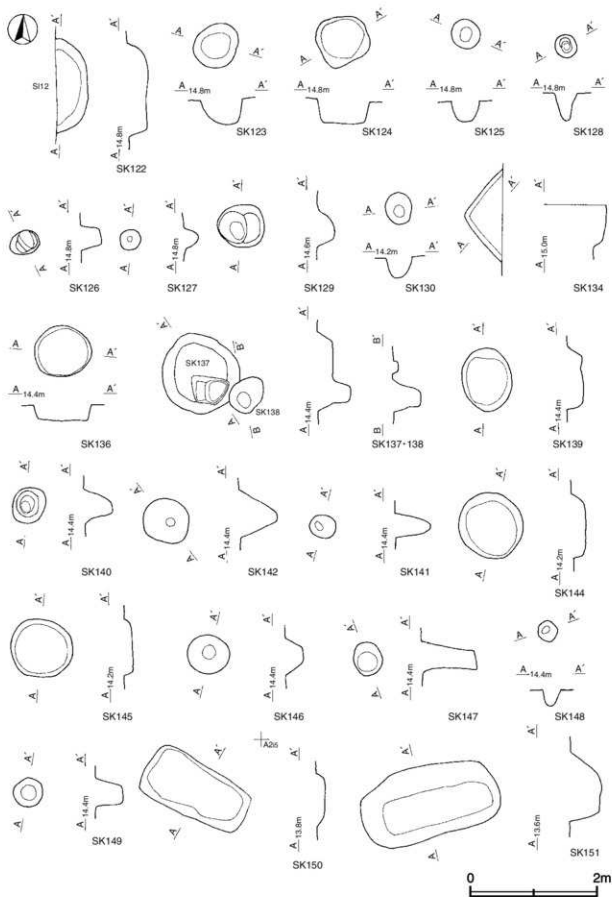
第118図 その他の土坑実測図(3)



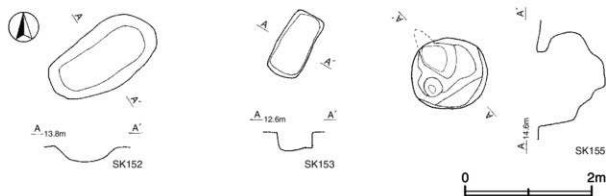
第119図 その他の土坑実測図(4)



第120図 その他の土坑実測図(5)



第121図 その他の土坑実測図(6)



第122図 その他の土坑実測図(7)

表8 その他の土坑一覧表

番号	位置	長短方向	平面形	規模		覆土	底面	壁面	土層等	出土品	備考 調査関係(古→新)
				長径(m)	短径(m)						
1	B 2h5	N-20°-E	長方形	2.71×0.88	25	人工	平坦	外傾	土層等		SF2-3, SF1→本跡
2	B 2g5	N-43°-E	楕円形	0.40×0.32	76	人工	U字状	外傾			SF2-3→本跡
4	B 3e1	N-49°-W	楕円形	0.90×0.67	24	人工	平坦	外傾			
5	B 3d3	N-16°-W	楕円形	0.48×0.40	64	人工	U字状	外傾	土層等		
8	B 3d3	-	円形	0.72×0.68	32	人工	平坦	外傾	土層等		SK9→本跡
11	B 3d2	N-52°-E	楕円形	0.50×0.37	26	人工	皿状	傾斜			
12	B 3d2	N-81°-E	楕円形	0.83×0.69	18	人工	平坦	傾斜	土層等		SK16→本跡
13	B 3r2	N-8°-W	[楕円形]	0.65×0.53	31	人工	皿状	傾斜			本跡→SK14
14	B 3e2	N-10°-W	楕円形	1.22×1.06	22	人工	皿状	傾斜	土層等, 鏡片		SK13→本跡
15	B 3d2	N-30°-W	楕円形	1.73×0.88	14	人工	平坦	傾斜	土層等		
16	B 3d2	N-81°-E	[楕円形]	1.13×0.87	18	人工	平坦	傾斜			本跡→SK12
17	B 3d3	N-25°-E	楕円形	0.68×0.50	22	自然	平坦	外傾 傾斜			
18	B 3d2	N-30°-E	楕円形	1.23×0.96	28	人工	皿状	傾斜	土層等		
19	A 2j8	-	円形	0.70×0.64	45	人工	皿状	傾斜			
20	A 2h8	N-53°-E	不定形	1.22×1.02	34	人工	円凸	傾斜			SE3→本跡
21	B 2h8	-	円形	0.66×0.62	70	人工	平坦	外傾	土層等		
22	B 2h8	N-20°-W	楕円形	0.56×0.48	30	人工	平坦	外傾	土層等		
23	B 2a8	-	円形	0.48×0.49	19	自然	平坦	外傾 傾斜			
24	A 2j8	-	円形	0.65×0.60	40	自然	U字状	傾斜			
25	B 2a8	N-43°-W	楕円形	1.01×0.85	26	人工	平坦	外傾			
26	B 2a8	N-77°-E	楕円形	0.89×0.74	30	人工	円凸	傾斜			
27	A 2j8	N-73°-E	楕円形	0.57×0.49	37	自然	皿状	外傾 傾斜			
28	A 2j8	N-30°-E	楕円形	0.84×0.75	36	自然	平坦	外傾	縄文土層, 土層等		
30	B 2a9	-	円形	0.90×0.89	19	自然	平坦	傾斜			本跡→SK29
31	B 2c9	N-32°-E	不規則円形	2.60×0.90	9	自然	平坦	傾斜			
32	B 3a1	N-50°-W	長方形	2.80×0.72	10	自然	円凸	傾斜	縄文土層, 土層等		SK1→本跡
33	B 3a1	N-52°-W	長方形	2.03×0.64	17	自然	平坦	傾斜	縄文土層, 土層等		SK1→本跡
36	B 2c9	N-15°-E	楕円形	0.88×0.75	43	人工	U字状	傾斜			
37	B 2j5	N-52°-W	楕円形	0.55×0.46	47	人工	皿状	外傾			SK38→本跡
38	B 2j5	N-49°-E	[楕円形]	(0.80)×0.64	54	人工	平坦	外傾			本跡→SK37
39	B 2j5	N-82°-E	楕円形	1.30×0.91	18	人工	平坦	外傾 傾斜	土層等		

序号	位置	长径方向	平面形状	宽 度		覆土	筑面	排水	主要出土构筑物	备注 新旧图幅(占一附)
				长径×短径(m)	深 Z (cm)					
40	B 2 27	N-3'-W	梯形形	0.68×0.62	30	人工	内凸	外植		
41	B 2 26	-	圆形	0.32×0.32	35	人工	平坦	外植		
42	B 2 25	N-12'-E	长方形	2.77×0.92	31	人工	平坦	外植	土编器	
43	B 3 a1	N-80'-W	[梯形形]	[0.73]×[0.24]	10	人工	平坦	铺斜		本册→SK44
44	B 3 a1	N-76'-W	[梯形形]	[1.85]×[1.08]	11	自然	平坦	铺斜		SK43→本册→SK45
46	B 2 10	N-36'-E	[梯形形]	[0.34]×[0.26]	24	人工	凹状	外植		
47	B 3 a5	N-74'-E	[梯形形]	[1.25]×[1.07]	64	人工	平坦	外植		S29→本册
48	B 2 18	N-60'-E	梯形形	0.58×0.50	15	人工	平坦	铺斜		
49	B 2 c7	-	圆形	0.38×0.36	45	人工	U字状	外植		
50	B 2 c7	N-80'-W	梯形形	1.01×0.61	33	人工	平坦	铺斜		
51	B 2 c6	N-40'-W	梯形形	0.45×0.40	20	人工	平坦	外植 铺斜		
52	B 2 c6	-	圆形	0.63×0.63	38	人工	平坦	铺斜		SK33→本册
53	B 2 c6	N-1'-W	[梯形形]	[0.69]×[0.62]	38	人工	平坦	外植		SK39→本册→SK32
54	B 2 d6	N-58'-E	梯形形	0.70×0.61	35	人工	凹状	外植 铺斜		
55	B 2 c6	N-58'-E	不定形	[1.78]×[0.81]	20	人工	平坦	铺斜		SK36→本册→SK38
56	B 2 d6	-	[圆形]	[0.53]×[0.52]	72	不明	U字状	外植 铺斜		本册→SK35
57	B 2 c6	N-68'-W	梯形形	1.26×0.83	46	人工	平坦	铺斜	土编器	SK39→SK36→本册
58	B 2 c6	N-41'-W	梯形形	2.46×1.80	25	人工	平坦	铺斜		SK35-59→本册→SK37-60
59	B 2 c6	N-68'-W	不定形	1.63×0.71	25	人工	平坦	铺斜	绳文土器	SK38→SK34→SK37
60	B 2 d6	N-58'-W	不定形	1.64×1.32	30	人工	平坦	外植		本册→SK61
61	B 2 d6	N-72'-E	[梯形形]	[1.00]×[0.37]	56	人工	平坦	铺斜	土编器	SK60→本册→SK62
62	B 2 d6	N-70'-W	[梯形形]	[1.40]×[0.60]	11	自然	凹状	外植	土编器	SK61-64→本册
63	B 2 d6	N-76'-E	梯形形	1.07×0.96	34	人工	平坦	铺斜		
64	B 2 d6	N-71'-W	[梯形形]	[1.88]×[0.80]	31	人工	平坦	外植		本册→SK62
65	B 2 c6	N-1'-E	梯形形	[1.02]×[0.79]	37	人工	平坦	外植		SK66→本册
66	B 2 d6	-	圆形	0.56×0.56	31	不明	平坦	外植		SK67→本册→SK65
67	B 2 d6	N-50'-W	[梯形形]	[0.82]×[0.34]	31	人工	平坦	铺斜		本册→SK66-68-71
68	B 2 d6	N-84'-E	梯形形	[1.41]×[0.86]	38	人工	平坦	外植		SK67→本册→SK71
69	B 2 c6	N-87'-E	[梯形形]	[0.59]×[0.44]	30	人工	平坦	外植		SK68→本册→SK33
70	B 2 d5	N-61'-W	梯形形	1.46×1.08	45	人工	平坦	外植		
71	B 2 d6	-	圆形	0.68×0.64	39	自然	平坦	外植		SK67→本册
73	A 3 j2	N-31'-W	梯形形	1.55×1.28	56	人工	平坦	外植		
74	B 3 a3	N-42'-W	梯形形	0.68×0.54	11	自然	平坦	外植		
75	B 3 b3	N-45'-W	椭圆形方形	2.19×0.82	10	自然	平坦	铺斜		
76	B 3 a2	N-82'-W	梯形形	1.12×0.81	54	人工	平坦	铺斜	土编器	
81	B 3 b4	N-7'-E	不规则形	0.96×0.90	18	自然	平坦	外植		S29→本册
84	B 3 a1	-	圆形	0.37×0.35	22	自然	平坦	外植		
85	B 2 a0	N-13'-W	梯形形	0.32×0.23	20	自然	凹状	外植		
86	B 2 10	N-36'-E	[梯形形]	[0.24]×[0.20]	15	自然	凹状	外植		
89	A 5 b2	N-30'-W	椭圆形方形	1.42×0.98	27	人工	平坦	外植	绳文土器、土编器	SK21→本册
90	A 5 b2	N-21'-W	梯形形	0.96×0.82	18	人工	平坦	外植		SK21→本册
91	A 4 b7	-	圆形	0.79×0.74	19	人工	平坦	铺斜	土编器	
92	A 4 d7	-	圆形	0.90×0.87	14	人工	平坦	铺斜	土编器	
93	A 4 d7	N-37'-W	方形	0.88×0.85	12	人工	平坦	外植	土编器	
94	A 4 e7	N-23'-E	长方形	2.05×1.08	10	人工	平坦	铺斜	土编器	
95	A 4 8	-	圆形	0.82×0.78	2	人工	平坦	铺斜	土编器	本册→SK36
96	A 4 8	N-35'-E	梯形形	1.04×0.70	17	人工	平坦	铺斜		SK65→本册
97	A 4 8	N-12'-E	梯形形	1.14×1.02	13	人工	平坦	外植 铺斜		

番号	位置	長狭方向	平面形	施 築		敷土	地面	壁面	主な出土遺物	備 考 新旧関係(古-新)
				長径×短径(m)	深さ(m)					
98	A 4e8	N-60°-W	[楕円形]	1.20×1.07	32	人工	平坦	外堀	土層露	SK101→本跡→SK30
99	A 4e8	N-8°-W	楕円形	1.08×0.92	11	人工	平坦	外堀	土層露	SK98-100→本跡
100	A 4e8	-	円形	1.20×1.14	31	人工	平坦	外堀		本跡→SK39
101	A 4e8	N-78°-E	長方形	0.80×0.60	7	人工	平坦	縦斜	土層露、土製品、瓦片	本跡→SK38
102	A 4e8	-	円形	0.86×0.84	21	人工	平坦	外堀	土層露	
103	A 4e8	N-80°-W	楕円形	1.14×1.09	7	人工	平坦	外堀		
104	A 4e8	N-12°-E	長方形	0.93×0.72	13	人工	平坦	外堀	土層露	
105	A 4e9	N-14°-W	楕円形	1.00×0.94	14	人工	平坦	凹凸	外堀	土層露
106	A 4e9	N-73°-E	楕円形	1.02×0.96	24	人工	平坦	外堀	土層露	
107	A 4e9	-	円形	1.10×1.02	25	人工	平坦	外堀	土層露	
108	A 4e9	N-10°-W	楕円形	1.13×0.90	21	人工	平坦	外堀	土層露	
109	A 4b6	-	円形	0.93×0.86	16	人工	平坦	縦斜	土層露	
110	A 4e	N-23°-W	楕円形	0.48×0.39	43	人工	平坦	外堀		
111	A 4j5	N-27°-W	楕円形	0.49×0.40	47	人工	平坦	外堀	土層露	
112	A 4e	N-16°-E	長方形	3.26×0.93	20	人工	平坦	外堀	土層露	
113	A 4e	N-33°-E	楕円形	0.91×0.73	10	自然	平坦	縦斜		
114	A 4e	-	円形	0.40×0.36	56	自然	平坦	縦斜		
115	B 4a8	N-9°-W	不整形	0.76×0.60	25	人工	傾斜	縦斜		SK116→本跡
116	B 4a7	-	円形	0.58×0.50	52	人工	U字状	外堀		本跡→SK115
117	B 4a8	-	円形	0.98×0.92	26	人工	平坦	縦斜		
122	B 3e0	N-1°-W	[楕円形]	1.50×0.50	33	人工	平坦	縦斜		本跡→SK12
123	B 3e6	N-11°-E	楕円形	0.75×0.66	42	人工	凹状	縦斜		
124	B 4d2	N-62°-E	方形	0.98×0.75	39	自然	平坦	外堀		
125	B 4e3	-	円形	0.48×0.45	35	人工	平坦	外堀		
126	B 4f4	N-71°-E	楕円形	0.48×0.38	32	人工	平坦	外堀		
127	B 3e9	-	円形	0.54×0.32	22	自然	凹状	縦斜		
128	B 3e0	N-21°-W	楕円形	0.38×0.34	42	自然	U字状	外堀		
129	B 4e5	N-86°-W	楕円形	0.75×0.69	26	自然	凹状	縦斜		
130	A 4f3	N-6°-W	楕円形	0.51×0.42	34	人工	凹状	外堀	土層露	
134	B 5e0	N-37°-E	[方形]	1.00×1.00	20	人工	平坦	外堀	土層露	
136	A 4j9	N-88°-E	楕円形	0.92×0.81	27	人工	平坦	外堀	土層露	
137	B 4a9	-	円形	1.29×1.22	26	人工	平坦	縦斜	土層露	本跡→SK136
138	B 4a9	N-55°-E	楕円形	0.59×0.50	44	人工	平坦	外堀		SK137→本跡
139	A 4j9	N-8°-W	楕円形	1.01×0.79	26	人工	平坦	外堀 縦斜	土層露	
140	B 4a9	N-47°-E	楕円形	0.61×0.51	45	自然	平坦	外堀 縦斜		
141	A 4j8	N-63°-W	楕円形	0.42×0.37	36	自然	U字状	外堀	土層露	
142	A 4j8	N-44°-W	楕円形	0.78×0.70	60	人工	U字状	縦斜		
144	A 5f1	-	円形	1.06×1.00	22	人工	平坦	外堀		
145	A 5f1	-	円形	0.96×0.92	14	人工	平坦	外堀		
146	B 4a0	N-70°-E	楕円形	0.68×0.60	28	人工	平坦	縦斜		
147	A 4j0	N-20°-W	楕円形	0.54×0.46	86	自然	平坦	垂直	土層露	
148	A 5f1	-	円形	0.34×0.32	26	人工	平坦	外堀		
149	A 4j0	-	円形	0.46×0.45	44	自然	平坦	外堀		
150	A 2f4	N-58°-W	長方形	1.76×0.85	14	人工	平坦	外堀		
151	A 5e9	N-78°-E	隅丸長方形	2.20×1.13	48	不明	凹凸	外堀		
152	A 5e6	N-56°-E	楕円形	1.86×0.95	24	人工	平坦	縦斜		
153	B 1a4	N-35°-E	長方形	1.09×0.58	32	人工	平坦	垂直		
155	A 3f4	-	円形	1.24×1.22	108	人工	段状	縦斜	土層露	

(6) 溝跡

今回の調査で確認した時期・性格不明の溝跡 10 条については、土層断面図（第 123 図～第 125 図）と土層解説は遺構頭に掲載し、平面図については遺構全体図（第 4 図）に掲載する。

第 1 号溝跡土層解説

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 暗 褐色 ロームブロック微量、炭化粒子極微量 | 2 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
|--------------------------|------------------------|

第 2 号溝跡土層解説

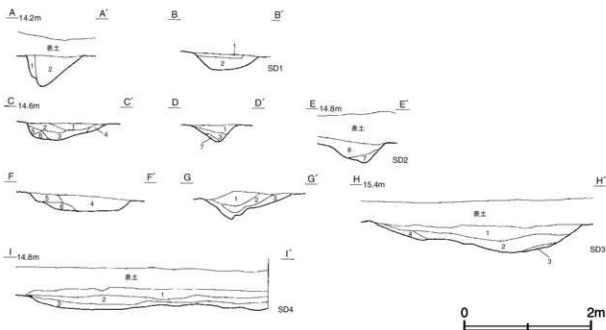
- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子極微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色 ローム粒子微量、焼土粒子・炭化粒子極微量 |

第 3 号溝跡土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・細礫極微量 | 4 灰褐色 ローム粒子少量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 5 褐色 ロームブロック少量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量 | 6 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |

第 4 号溝跡土層解説

- | | |
|----------------------------|---------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量 | 3 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子極微量 | |



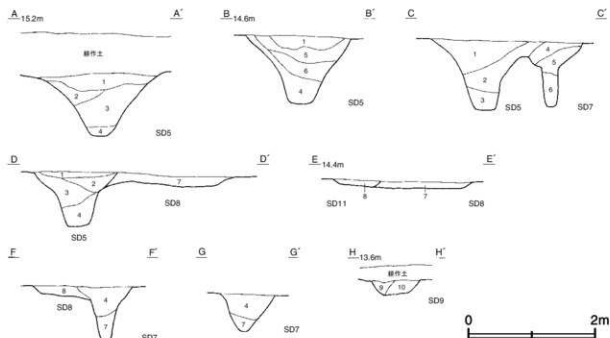
第 123 図 第 1～4 号溝跡実測図

第 5・8・11 号溝跡土層解説 (A・B・D・E ライン)

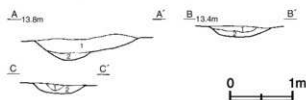
- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 極暗褐色 ローム粒子中量 |
| 4 灰黄褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

第 5・7・8・9 号溝跡土層解説 (C・F・G・H ライン)

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 | 7 褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック少量 |
| 2 灰黄褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子微量 | 8 極暗褐色 ローム粒子中量 |
| 3 に近い褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | |
| 6 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |



第124図 第5・7・9・11号溝跡実測図



第125図 第10号溝跡実測図

第10号溝跡土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子極微量
 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極微量

表9 その他の溝跡一覧表

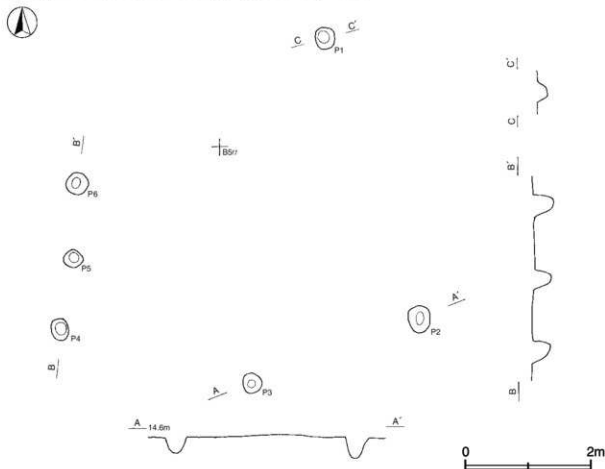
番号	位置	方向	形状	縦 横 (m, 深さ (cm))				深さ	前面形	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	発見品目録(古→新)
				長さ	上幅	下幅	深さ							
1	A 2g7 A 2g8	N-87°-W	直線状	(10.78)	0.40-0.80	0.14-0.38	20-46	逆台形	外側 縦割	平坦 U字状	自然	土師質土器	SD5→本跡	
2	A 3g1 B 3g4	N-25°-W	直線状	(20.86)	0.42-1.24	0.07-0.52	25-30	逆台形	縦割	階段 V字状	人為	土師器	SD8-16, SD6→本跡	
3	B 3b6 B 4g2	N-50°-E N-130°-E	L字状	(15.03)	0.65-1.09	0.14-1.20	22-43	逆台形	縦割	平坦 両側 切込	自然	土師器、土師質土器 石器	SD13-14→本跡	
4	A 4e1 A 4e2	N-87°-E	直線状	(3.84)	0.64-1.00	0.28-0.66	14-33	浅いU字状	縦割	平坦	自然	土師器	SD17→本跡	
5	B 5b5 B 5g9	N-67°-W N-25°-E	L字状	(23.50)	0.90-1.59	0.22-0.50	85-106	U字状	縦割	平坦	自然 人為	土師器、土師質土器 土敷石	SD7-8→本跡	
7	A 6f2 B 6e7	N-30°-E N-63°-E	L字状	(37.60)	0.58-1.35	0.12-0.35	58-100	U字状	外側 縦割	平坦	自然 人為	土師器、土師質土器 土敷石	SD8-9-11→本跡 →SD5	
8	A 5g8 B 5e6	N-47°-E	直線状	(14.16)	1.00-1.30	0.75-1.08	10-14	逆台形	縦割	平坦	自然	土師器	本跡→SD5-7-11	
9	A 5g9 A 5f2	N-22°-W	直線状	(14.60)	0.77-1.20	0.27-0.41	21	逆台形	縦割	平坦	自然	土師器、土師質土器 陶器片	本跡→SD7	
10	A 2h3 A 2g6	N-70°-E	直線状	(13.32)	0.61-1.08	0.20-0.68	13-29	逆台形	縦割	平坦	自然	土師器		
11	B 5k5 B 5b2	N-67°-W	直線状	(7.90)	0.35-0.53	0.18-0.38	9	逆台形	縦割	平坦	自然	土師器	SD8→本跡→SD7	

(7) ビット群

今回の調査で、調査区東部でビット群1か所を確認した。以下、ビット計測表と平面図を掲載する。

第1号ピット群（第126図）

位置 調査区東部の標高144 mのB5f7区を中心とした南北6 m、東西64 mの範囲からピット6か所を確認した。平面形は長径28～44 cmの円形または楕円形で、深さが17～36 cmである。P3～P5の分布状況から、橋跡に類似しているが掘り込みが浅いことから、ピット群とした。覆土中から1点の土師器片が出土したが、細片のため図示できなかつた。時期・性格ともに不明である。



第126図 第1号ピット群実測図

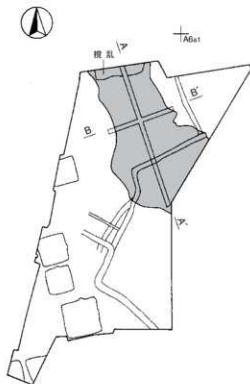
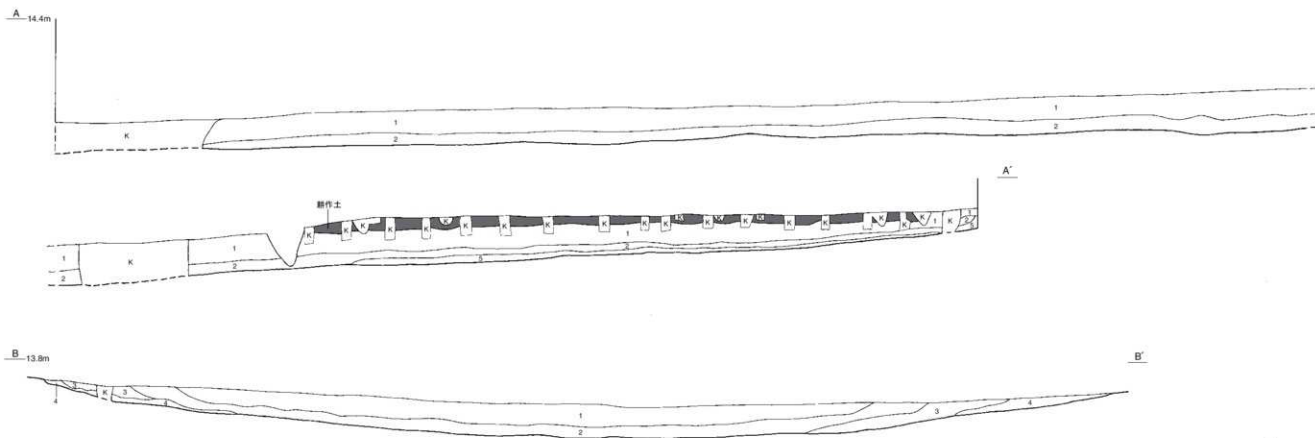
表10 第1号ピット群計測表

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)				
			長径	×	短径				深さ	長径	×	短径	深さ
1	B5e7	楕円形	37	×	32	17	4	B5f6	楕円形	38	×	29	25
2	B5f7	楕円形	44	×	36	36	5	B5f6	円形	28	×	27	26
3	B5f7	円形	33	×	32	28	6	B5f6	円形	36	×	34	34

(8) 埋没谷

第1号埋没谷（第127図）

位置 調査区東部のA5c6～A5j0区、標高129～139 mの緩斜面に位置している。



第 127 图 第 1 号埋没谷实测图

確認状況 表土除去時に北に向かい緩やかに傾斜した面で、広範囲に黒色土を確認した。本跡の上面では、第7号溝跡を確認し、その確認面で土師器細片が出土したので、集落の調査終了後にトレンチを入れ土層の確認を行った。

規模 北部及び南東部が調査区域外に延びているため、南北軸 33.2 m、東西軸 27.8 m しか確認できなかった。東西軸の断面形は浅いU字状で、深さは 66cm を確認した。

覆土 5層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況であり、黒色土や暗褐色土が主体であることから、傾斜地に流れ込んだ自然堆積である。

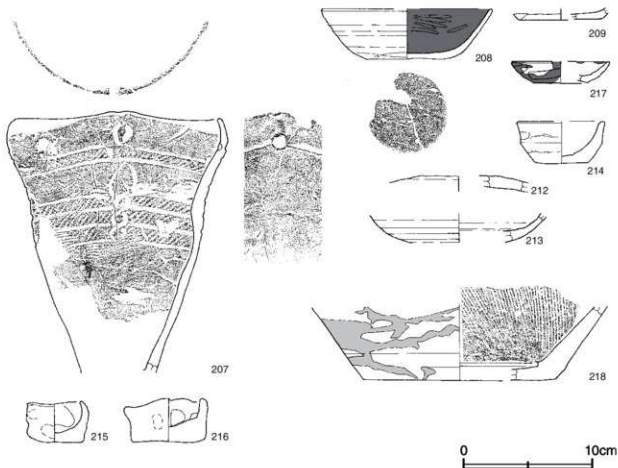
土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|---------|--------------|
| 1 黒色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量 | 5 不均質褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

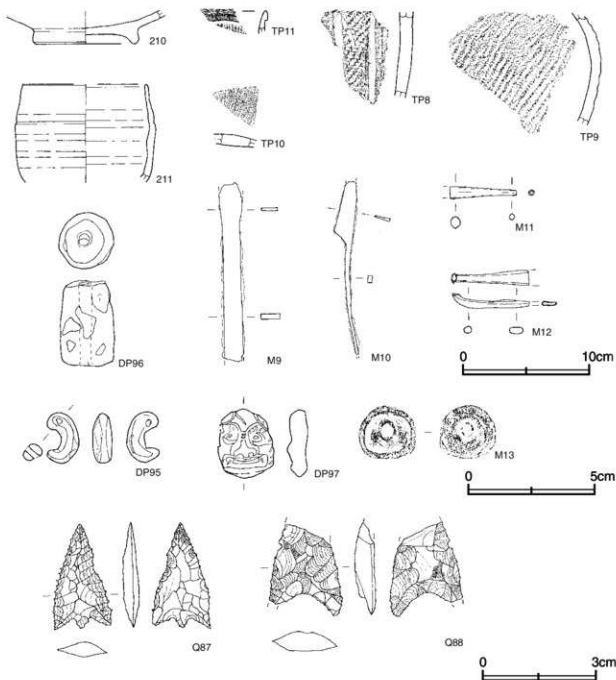
所見 現代の土地区画と重複し、中世以降の遺構と考えられる第7号溝跡が本跡の上面で確認できたことから、中世以前には埋没していたと考えられる。出土遺物は細片のため図化できなかったが、一部を写真図版に掲載した。

(9) 遺構外出土遺物

今回の調査で出土した、遺構に伴わない主な遺物について、実測図と観察表を掲載する。



第128図 遺構外出土遺物実測図(1)



第129図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表(第128・129図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
207	縄文土器	深鉢	15.8	(30.3)	-	長石・石英・赤色 粘土	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面棒状工具による内折の沈線文 胴部外面6条の沈線文 各沈線間は筋文もしくは単筋斜横文し其 胴部の2条の斜行沈線文による区切り	表土	70% PL25
208	土師器	坏	[13.2]	4.0	6.2	長石・石英・雲母	橙	普通	外部外面口テラナダ、下部へテラナダ、内面へテラナダ、切立縁上縁一方向へのへテラナダ	第6号住居跡層上土	30%
209	須恵器	坏	-	(10.9)	(6.4)	長石・雲母	青灰	普通	外面下部へテラナダ、内面口テラナダ	表土	5%
210	須恵器	高付付立	-	(2.6)	(7.6)	長石・石英	灰黄	普通	外部外・内面口テラナダ	第4号住居跡層上土	20%
211	須恵器	台付物	(9.8)	(7.8)	-	長石・石英・雲母	灰オリーブ	普通	外部外・内面口テラナダ	第5号住居跡層上土	10%
212	須恵器	蓋	-	(1.3)	-	長石・石英	橙	不具	外面口テラナダ	第19号住居跡層上土	5%
213	須恵器	甕	-	(2.3)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	外部外面回転へテラナダ	第5号住居跡層上土	5%

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	地 成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
214	土師器	シロチャブ土器	6.6	3.3	4.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外・内面ナデ	第10号遺跡 壘上中	30%
215	土師器	手捏土器	4.2	3.2	4.5	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外・内面ナデ 磨面付着	表土	90%
216	土師器	手捏土器	6.0	3.1	5.8	長石・石英・雲母・磁石	にぶい橙	普通	体部外・内面ナデ 磨面付着	表土	100%
217	土師器土器	小皿	(7.6)	1.7	(4.2)	石英	にぶい橙	普通	体部外・内面ナデ 底部ナデ 外・内面油滲	表土	30%
218	陶器	磁鉢	-	(5.8)	(15.0)	長石・石英・黒色磁石	赤褐色	普通	磨口・先端部 器蓋1單位の磁目 外面積ナデ 磨輪 底部斜転痕引	表土	5%

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP8	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	棒状工具による区画沈線文内に単面斜織文し及	表土	
TP9	縄文土器	深鉢	長石	橙	単面斜織文し及	表土	
TP10	埴土器	蓋	長石・石英・雲母	灰	ロクロナデ	第7号住居跡 壘上中	
TP11	埴土器	具形瓶	長石	黄灰	面部外面磨面の沈面	第14号住居跡 壘上中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
DP95	写玉	20	1.3	0.8	0.2	1.7	土(石英)	明褐色 一方向からの穿孔 ナデ	表土	PL27

番号	器 種	径	長さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
DP96	管状土器	4.4	6.8	1.2	199.2	土(長石・石英・黒色磁石)	にぶい黄褐色 一方向からの穿孔 ナデ	第13号住居跡 壘下層底内	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
DP97	瓶蓋子	2.6	2.2	0.8	4.0	土(石英)	褐色 芥子面 表面人面 裏面ナデ	表土	PL28

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q87	皿	2.8	1.5	0.1	1.1	チャート	河面調整調整	第1号住居跡 壘上中	PL28
Q88	皿	(2.4)	1.9	0.6	(2.0)	珪礫石	河面調整調整	表土	PL28

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M9	不明(灰製)	(14.3)	2.0	0.4	(64.3)	瓦	河堀欠損	第5号遺跡 壘上中	PL30
M10	皿*	(13.8)	1.9	0.6	(17.0)	瓦	河堀欠損	第5号遺跡 壘上中	PL30
M11	磨管	(5.3)	1.0	0.9	(2.7)	鋼	外面緑青 噴口部のみ	第1号遺跡 壘上中	PL30
M12	磨管	(6.3)	1.2	1.2	(5.0)	鋼	外面緑青 大田欠損 壘下部のみ	表土	PL30

番号	器種	径 名	径	孔幅	重量	材料	特 徴	出土位置	備 考	
M13	古銭*	不明	2.31	0.4	4.0	-	鋼	表面緑青 最厚部2.2mm 加圧のため不整形	表土	PL30

第4節 ま と め

1 はじめに

今回の調査では、主に古墳時代の住居跡や鍛冶工房跡、平安時代の住居跡、中世の溝跡などが確認され、当遺跡は複合遺跡であることが判明した。遺物は、各遺構に関わる土師器類とともに、少数の須恵器片や土製模造品が出土している。

ここでは、当遺跡において住居数が最も多い古墳時代後期の主な坏と甕の土器編年と集落の変遷について述べるとともに、土製模造鏡を始めとする祭祀遺物と当地域との関わりについて若干の考察を加え、まとめとしたい。

2 古墳時代後期の様相 (第130～132図)

当遺跡では古墳時代後期の堅穴住居跡28軒と鍛冶工房跡1基、土坑12基、不明遺構2基などを確認した。

ここでは、「出土土器の編年」と「集落の変遷」について考察を進めていきたい。また、考察を進めるにあたり、その基準となる事項や特例などを、以下に掲載しておく。

時期区分：第Ⅰ期(6世紀前葉)、第Ⅱ期(6世紀中葉)、第Ⅲ期(6世紀後葉)、第Ⅳ期(7世紀前葉)としたが、時期を特定できる須恵器の出土が乏しく、いずれも覆土中からの出土であったため、現在までの研究論文や報告書¹⁾などをもとに土師器で時期を決定した。良好な資料の須恵器としては、第6号住居跡出土の高坏(TK209式期)があるが、埋め戻しの際に投棄されたものと判断したため、第6号住居跡は出土した土師器をもとに第Ⅰ期(6世紀前葉)と判断し、第Ⅱ期はTK10式併行期とした。同様に、第4号住居跡からは坏(TK209式期)が出土しているが、覆土上層からの出土であったことや、他の住居跡から出土した破片と接合したものであることから、投棄されたものと判断した。したがって、第4号住居跡は出土した土師器をもとに第Ⅱ期(6世紀中葉)と判断し、第Ⅲ期はTK209式併行期とした。

住居の規模：面積が20㎡未満を小形住居、20㎡～50㎡未満を中形住居、50㎡～80㎡未満を大形住居、80㎡以上を超大形住居とした。また、規模の算出にあたっては、長軸×短軸を基本としたが、調査区域外に延びているために片方の軸しか確定できなかった場合は、確認できた軸の平方とした。なお、両軸ともに確定できなかった第10・21～23号住居跡は規模の考察から除外した。

住居の主軸：原則として竈・炉を通る軸線としたが、竈や炉を確認できない住居跡は、出入口とその対壁を通る軸線とした。

なお、第30・31号住居跡は、第8・19号住居跡の拡張前の住居跡と判断したため、帰属する遺物が少なく時期は推測したのみであるため、全ての考察から除外した。

第Ⅰ期(6世紀前葉)

当期は、住居跡6軒(第2・5・6・8・11・13号住居跡)が該当する。

(1) 出土遺物の様相

坏：口縁部と体部の境目に明確な稜をもつものはA類・B類に大別でき、須恵器坏蓋模倣で口縁部が直立するものをA類、須恵器坏身模倣で口縁部が内傾するものをB類とした。また、口縁部と体部の境目

に明確な稜が見られないC類がある。椀状坏は、器高が高く肉厚で、内面に放射状のヘラ磨きが施されたものをD類とし、器高が低く肉薄のものをE類とした。口縁部が大きく外反して立ち上がるF類と平底のG類は今期で消滅する。比較的に赤彩されているものが多いが、黒色処理されているものが若干見受けられる。

甕：体部が球形に近いものをA類とし、頸部の断面が「コ」の字を呈しているものをB類とした。小型甕のC類には頸部が明確に括れ口径と体部の最大径がほぼ等しいC1類と、頸部の括れが弱く口径とよりも体部の最大径が大きいC2類がある。(頸部から口縁部までが全高の3分の1を占める甕であるD類は参考資料として掲載したが、当期で消滅する。)

(2) 集落の様相

当期の住居跡は調査区域の中央部からやや西部に分布し、主軸方向はW-17-55°-Nであり、各期の中では最も西に振れている。規模は、中形住居4軒(第2・5・11・13号住居跡)、超大形住居2軒(第6・8号住居跡)である。注目できる住居跡としては、出入口に張り出しをもつ第8号住居跡が挙げられる。第8号住居跡は、第30号住居跡を拡張した超大形住居で、8条の間仕切り溝や5条の根太跡などがあるばかりでなく、竈の両脇に竈を覆う構築物に関わると考えられるピットも存在し、当期の他の住居跡とは形態を異にしている。出土遺物に関しても、土師器片が3000点以上出土したばかりでなく、土製品(勾玉3、土玉16、白玉3)や石製品(白玉2、霰玉1)などの祭祀遺物が出土している。

第Ⅱ期(6世紀中葉・TK10式併行期)

当期は、住居跡6軒(第4・7・15・19・23・26号住居跡)と鍛冶工房跡1基(第1号鍛冶工房跡)が該当する。

(1) 出土遺物の様相

坏：A類は第Ⅰ期より須恵器坏を意識した形状となり、口縁部がやや外反して立ち上がるA1類と、須恵器坏をより忠実に模倣したA2類に分化している。B類は稜がより明瞭になり、口縁部の内傾が顕著になるとともに大型化する。C類は稜がやや明確になるが、今期で消滅する。D類は、器高が増し深くなるが今期で消滅する。E類は、体部外面がヘラ削りなどが施されるようになり、口縁部がやや内傾するようになる。赤彩されているものの割合が急激に減少し、黒色処理されているものの割合が増えるようになる。

甕：A類は体部のヘラ削りが顕著になり、底部の突出が弱くなるものも出現する。B類はより肩が張り、「コ」の字がより顕著になるが今期で消滅する。C1類は、頸部の括れが目立ち球形に近づくがC2類は確認できない。また、当期になると口縁端部を上方もしくは横に掴み出す手法が取り入れられ、いわゆる常総型甕の素形になるもの(E類)が散見し始める。

(2) 集落の様相

当期の住居跡及び鍛冶工房跡は、調査区中央部からやや西部(A群:第4・7号住居跡)と、やや東部(B群:第15・19・23・26号住居跡、第1号鍛冶工房跡)に分かれて分布し、主軸方向はW-16-52°-Nであり、第Ⅰ期よりも西への振れが若干弱い。規模は、中形住居3軒(第7・15・26号住居跡)、大形住居1軒(第4号住居跡)、超大形住居(第19号住居跡)である。

A群で注目できる住居跡としては、第4号住居跡が挙げられる。第4号住居跡は、第Ⅰ期の中心的住居跡と推測できる第8号住居跡から約30m西に位置している。第7号住居跡とともに、出入口に張り出し

をもつて第8号住居跡と共通している。

一方、B群で注目できる住居跡としては、第19号住居跡が挙げられる。第19号住居跡は、第31号住居跡を拡張した超大形住居で、主柱穴と補助柱穴が合計7か所あり、ベッド状の高まりがある。また、約1500点の土師器片のほか、土製勾玉・土玉なども出土している。

第Ⅲ期（6世紀後葉・TK209式併行期）

当期は、住居跡12軒（第3・9・10・12・14・16・18・20・22・25・27・28号住居跡）が該当する。

(1) 出土遺物の様相

環：A1類は口縁部が一度括れてから立ち上がるようになる。A2類は縁が滑らかになり立ち上がるようになる。また、A2類の中でも、器高が低くなり縁が器高の中央に近づくようになるもの（A3類）が見受けられるようになる。B類は小型化し、より須恵器坏身を模倣するもの（B1類）と、口縁部の立ち上がりの内傾が顕著でなくなるもの（B2類）が出現する。E類は、口縁部の内傾が目立たなくなるE1類、口径が約1.5倍になるE2類と、口径に対する深さの比率が増大するE3類に細分化される。当期は、黒色処理を施されているものの割合が飛躍的に増え、赤彩されているものは見られなくなる。

甕：A類はより長胴化するが、当期をもって出土量が極端に減る。それに代わり、口縁部を積み上げ、体部下位にヘラ磨きを施す、常総型甕の形態を呈するE類が主流を占めるようになる。C類ではC2類は口径と胴部の最大径がほぼ等しくなる一方で、やや長胴化したC3類も出現するが、C2・3類とも当期で消滅する。

(2) 集落の様相

当期の住居跡は調査区中央部の南端から東部にかけて広い範囲に分布し、第27号住居跡を除き、主軸方向は $W-30^{\circ}-N$ から $E-2^{\circ}-N$ の範囲となり、第Ⅱ期以上に西への振れ幅が小さくなり、真北方向を向くようになる。第27号住居跡は本遺跡唯一の東窓の住居で、その主軸は $E-76^{\circ}-N$ となっている。規模は中形住居4軒（第3・20・27・28号住居跡）、大形住居5軒（第9・12・16・18・25号住居跡）、超大形住居1軒（第14号住居跡）である。当期最大の住居は第14号住居跡で面積は87.4㎡と推定できるが、南半分が調査区域外に延びているため、その全貌は不明である。

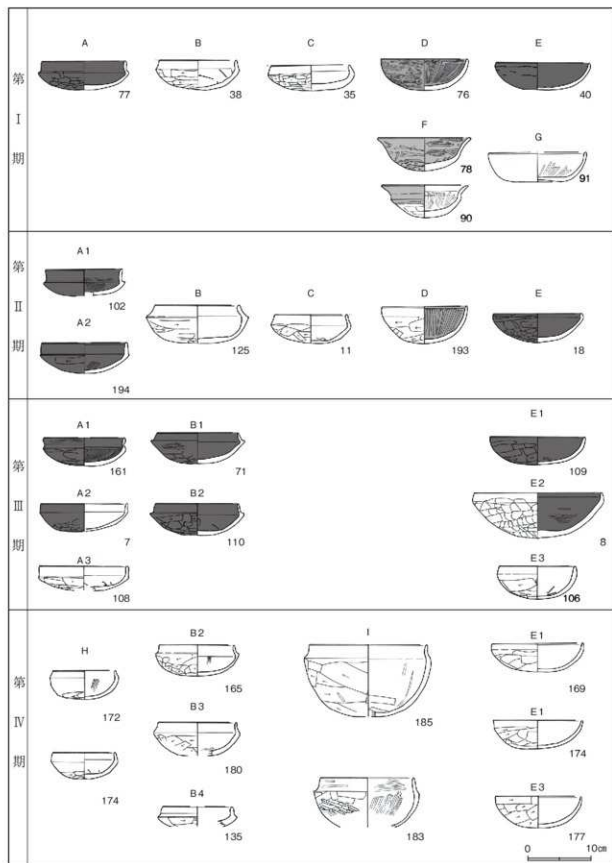
当期で注目できる住居は、第Ⅰ・Ⅱ期の中心的な住居と考えられる第8・19号住居跡のほか中間に位置している第18号住居跡で、当期では第2の規模である。形態は第Ⅰ期の第8号住居跡に類似しており、主柱穴が9か所、間仕切り溝は6条、竈を仕切ると考えられるピットも存在している。また、土師器片が約1400点出土したばかりでなく、土製品13点（勾玉10、土玉3）や石製品（白玉）も出土している。

第Ⅳ期（7世紀前葉）

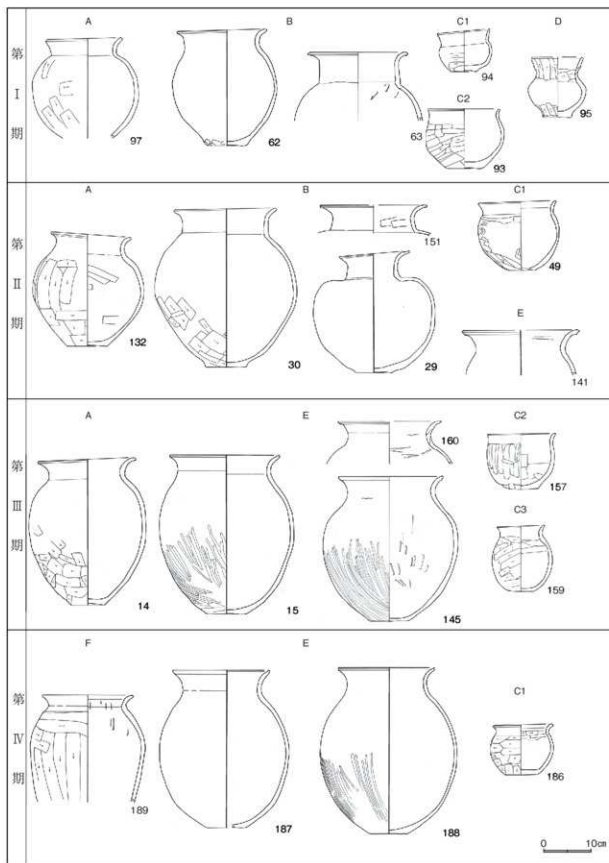
当期は、住居跡2軒（第21・29号住居跡）が該当する。

(1) 出土遺物の様相

環：A類の出土は消滅し確認できない。B類では、B1類は確認できないが新たに肉厚で器高が高いB3類と、肉厚で器高が低いB4類が出現する。E類では大形のE2類は確認できなかったが、E1類・E2類は引き続き存在する。当期からは、第Ⅲ期の環類よりも小型で肉厚のもの（H類）が確認できる。また、口径・器高とも大型化したもの（I類）が出現する。（183・185は大型の碗と判断し、参



第130图 平北田遺跡土器編年案(坏) ■ 赤彩 ■ 黑色处理



第 131 图 平北田遺跡土器編年案 (甕)

考資料として掲載した。) 当期では、黒色処理の施された遺物はほとんど出土しなくなる。

甕：確認できた甕の出土が少なかったため良好な資料は少なかったがE類の常総型甕が主流を占めている。当期になると体部から直線的に底部に向かう器形を呈するもの(F類)が出土するようになる。C1類は傾向を引き継いでいるが、小型甕であるC類の出土は減少する。

(2) 集落の様相

当期の住居は、調査区西端と東部に1軒ずつ分布し、主軸方向はW-22°24'-Nである。第Ⅲ期よりは若干西への振れ幅が大きくなる。規模は大形住居が1軒(第29号住居跡)である。2軒のみの確認で、第21号住居跡は規模の確定が困難で出土遺物も少なかったため、第29号住居跡が良好な資料となる。第29号住居跡は、最も標高が低い面に位置し、面積が51.1㎡で、第Ⅲ期までの中心的な住居跡より規模は小さくなるが、間仕切り溝を7条確認した。さらに、出入口施設付近で、性格は不明であるが床上に自然石が円を描くように出土した。出土土器では、大型の坏・碗の他に、平底に近い甕の底部に19孔以上の穿孔を施した甕(P190)が出土している。この甕の同型のものは、他の住居跡から出土していないが、高名前野東遺跡の第13号住居跡から出土した甕に形状が類似している。

以上のことをもとに、当遺跡の集落変遷について各期ごとに概観を述べる。

第Ⅰ期 小集落期

祭祀に関わり、集落の有力者が居住していた第8号住居跡があり、それを囲むように他の住居が位置する小規模な集落が存在していた時期である。

第Ⅱ期 集落の拡散期

第Ⅰ期の中心的な住居である第8号住居跡と形態の似ている第4号住居跡が西に、土製勾玉などが出土した超大形住居の第19号住居跡が東に位置している。第Ⅰ期の集落が、住居形態や祭祀的行為などを維持・継承したまま、標高145m以上の微高地を広場として、東西方向に広がっていった時期である。

また、次の二つの観点から、集落の拡散の過程を推測できる。

(ア) 住居形態の観点から

A群の第4・7号住居跡は出入口に張り出しをもつ構造が、第Ⅰ期の第8号住居跡と似ている。したがって第8号住居跡に住んでいた集団が第4・7号住居跡に移り住んだ。その集団の長は、出土遺物から推測すると第4号住居跡に住んでいたと考えることができる。

(イ) 集団構成の観点から

大形住居とそれに伴う数軒の小形住居という観点では、第Ⅰ期の第8号住居跡を中心とした集団が、その構成を保ったまま西に移り住み、集落を形成したと考えることができる。

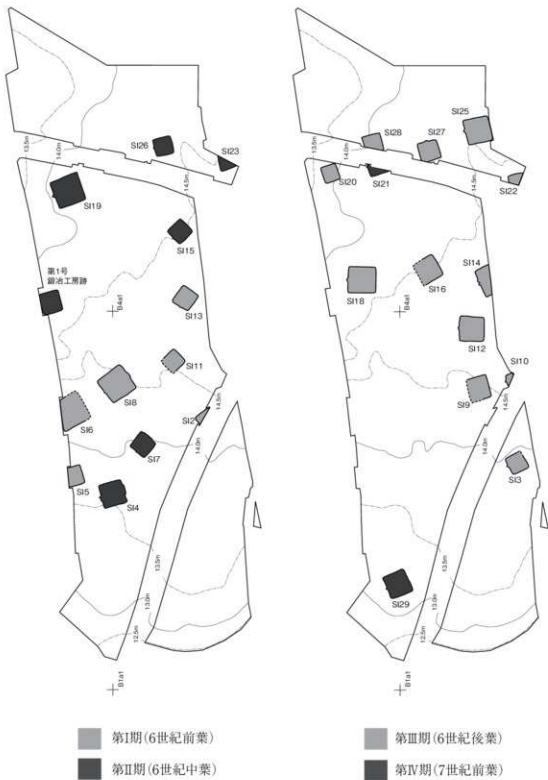
第Ⅲ期 集落の拡大期

第Ⅱ期までの有力者の住居形態を継承した第18号住居跡の南方に、他の住居がほぼ等間隔で囲んで集落を形成し、集落が広まった時期である。

第Ⅳ期 集落の変革・終焉期

東谷田川沿いには、7世紀になると集落が消滅してしまう遺跡があり、当遺跡も同様である。第Ⅲ期に住居数が一気に増えた後に、急激に終焉を迎える時期であると同時に、第Ⅲ期までにはなかった新しい甕の製作技法が取り入れられるなど、変革を迎えた時期である。

なお、出入口に張り出しをもつ住居跡の類例は、本県つくば市島名熊の山遺跡、稲敷市堂ノ上遺跡、桜



第132図 平北田遺跡集落変遷図(古墳時代後期)



川市辰海道遺跡、ひたちなか市三反田下高井遺跡、牛久市・阿見町ナギ山遺跡や東京都八王子市中田遺跡、栃木県宇都宮市中島笹塚遺跡などがある。特に鳥名熊の山遺跡の第1110号住居跡（7世紀前半）や堂ノ上遺跡の第45号住居跡（6世紀後葉）、第100号住居跡（6世紀前葉）、第121号住居跡（6世紀中葉）、132号住居跡（6世紀後葉）に張り出しがあり、張り出し部には貯蔵穴かその可能性がある掘り込みがある。当遺跡の第8・12・13・15・16号住居跡と第1号鍛冶工房跡も出入口付近に貯蔵穴があり、特に第8号住居跡には張り出しもある。したがって、出入口に貯蔵穴が位置し外に張り出している住居形態は広い範囲で普及していたと考えられるとともに、貯蔵穴のみ住居内に位置し、張り出しが階段状に残り使用されていた形態が、当遺跡の第8号住居跡と考えることができる。

3 祭祀遺物について

今回の調査では祭祀遺物が出土しており、それについての考察をする。

当遺跡の祭祀遺物の出土状況は、同期の他の住居跡に比べ、大形の住居跡から比較的に多く出土している点や、土製の祭祀遺物に対し石製模造品の割合が少なく人為堆積の住居跡からの出土が多い点が共通している。このようなことから、集落の中心的な住居では祭祀的行為が行われ、祭祀的行為と生活が密接に関係していたことがうかがえる。

祭祀には、「日常的に行われていた行為」と「節目に行われていた行為」の二つが推定できる。「日常的に行われていた行為」として考えられるのは農耕に関する祭祀的行為で、広義には豊かな暮らしを追求した行為である。「節目に行われていた行為」とは住居廃絶時に伴った行為である。両者ともその形態や方法は推測することしかできないが、当時の生活は自然と直結していることから、自然に対する崇拝行為として祭祀的行為があったと推測できる。²⁾

以上の観点から、第2章第2節で述べた鳥名熊の山遺跡を補完する鳥名前野東遺跡の祭祀遺物の出土状況と当遺跡の祭祀遺物の出土状況を比較検討し、当遺跡の祭祀的行為についてさらに考察する。（なお、鳥名前野東遺跡の時期区分については調査報告³⁾を参考にし、当遺跡の土器編年案をもとに時期決定をしている。）

第Ⅰ期

両遺跡とも、土製品の出土量が多く、石製品は当遺跡で若干出土しているのみである。特に当遺跡の第8号住居跡からは、土製白玉3点・土製勾玉3点・土玉16点などが出土し、鳥名前野東遺跡の総数を超える量の祭祀遺物が出土している。第8号住居跡は前述のとおり集落で中心的な人物が住んでいたと推測できるが、人為堆積で多くの土製品が覆土中層から覆土下層にかけて撒かれたように出土しており、住居廃絶の「節目」に祭祀的行為が行われたことを示唆している。また、第5号住居跡の覆土中から土製模造鏡が出土しているが、自然堆積の過程で投棄されたものと判断した。

第Ⅱ期

当遺跡では祭祀関連遺物の出土量が減少し、鳥名前野東遺跡では出土量が増える時期である。鳥名前野東遺跡の第82号住居跡からは、土玉23点・石製白玉30点が出土している。当遺跡は当期になると、住居が東西に二分される時期で、東部に位置する第4号住居跡からは土製模造鏡が出土している。また、西部の中心的な住居と考えられる第19号住居跡も祭祀遺物の出土量は少ないが、床面もしくは覆土下層からの出土

であるばかりでなく焼失住居であることから、「節目」の祭祀的行為が行われたと考えることができる。

また当遺跡周辺では、南方約5.2kmのつくば根崎遺跡の第29号住居跡（5世紀中葉）から、全国で14例しか確認されていない五鈴鏡の土製模造品が出土している⁹⁾。時期差はあるが、これらの模造鏡が出土していることから、当遺跡を含む当地域では祭祀的行為が盛んに行われていたことの裏付けとなる。

表11 平北田遺跡・鳥名前野東遺跡出土祭祀遺物集計表

期	住居		土製品				手捏・ミニチュア	石製品				
	番号	堆積	白玉	勾玉	土玉	模造鏡		白玉	勾玉	霰玉	双孔円板	銅形模造品
第Ⅰ期	5	自然				1	1					
	8	人為	3	3	16		2	2		1		
	11	人為			6							
	平北田遺跡 計		3	3	22	1	3	2		1		
	鳥名前野東遺跡		1	7	4							
第Ⅱ期	4	自然	1		3	2	2					
	7	自然						1				
	15	人為						1				
	19	自・人		1	1		1	1				
	26	自然			2							
	平北田遺跡 計		1	1	6	2	3	3				
鳥名前野東遺跡		3	4	26		20	34					
第Ⅲ期	9	人為		1	3							
	12	人為			4		4	1				
	16	人為			4							
	18	人為		10	3		2	1				
	22	自然		1	3							
	25	人為		2			1					
	平北田遺跡 計			14	17		7	2				
鳥名前野東遺跡		11	3			3	5	1		2	2	
第Ⅳ期	21	人為			1							
	29	人為		2								
	平北田遺跡 計			2	1							
	鳥名前野東遺跡		4	3	2							

第Ⅲ期

当遺跡では祭祀遺物の出土量が増え、鳥名前野東遺跡では祭祀関連遺物が多様化する時期である。当遺跡では、当期の中心的な住居と考えられる第18号住居跡から土製勾玉10点・土玉3点などが出土し、鳥名前野東遺跡の土製品の総数に迫っている。祭祀遺物のほとんどが土製勾玉であることや、床面からの出土であることから、当遺跡の他の住居の祭祀的行為と形態が異なり、「日常的」な祭祀的行為が行われていた可能性がある。

また、鳥名前野東遺跡では石製の祭祀遺物の出土が目立つようになる。当期は、当地区において再び祭祀的行為が活発化した時期と考えることができる。

第Ⅳ期

当期は遺構の確認数が少ないため、祭祀的行為が衰退したとは言い切れないが、祭祀遺物の出土量が一気に減少する時期である。当遺跡においては、当期の住居跡は2軒しか確認していないが、両方の住居跡から祭祀関連遺物が出土している。しかし、その量は非常に少ないので、その実態は不明であるが、何らかの祭祀的行為が行われていたと推測できる。

3 おわりに

以上、当遺跡の土器編年と集落の変遷、祭祀関連遺物について若干の考察を記載し、当遺跡の概要の把握に努めた。しかし、今回の調査区域は遺跡のごく一部でしかないので、集落の中心まで調査が及んでいない可能性がある。したがって、平北田遺跡の全容解明については今後の調査に期待したい。

註

- 1) a 櫻村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』第2号 茨城県教育財団 1993年7月
b 橋田義弘「熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第190集 2002年3月
- 2) 飯泉達司「鳥名前野東遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財報告書Ⅵ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第215集 2004年3月
- 3) a 寺門千勝 田原康司 梅澤貴司「鳥名前野東遺跡、鳥名境松遺跡、谷田部遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第191集 2002年3月
b 註2に同じ
c 小松崎和治「鳥名境松遺跡、鳥名前野東遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財報告書ⅩⅣ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第281集 2007年3月
- 4) 根崎遺跡を含め、栃木県上長井遺跡・田島持舟遺跡・清六豆遺跡、千葉県沼つとるば遺跡・東田遺跡、静岡県日詰遺跡、長野県 竹花遺跡、福岡県大又遺跡の9遺跡14点しか確認されていない。

参考文献

- ・藤川賢『物部氏の研究』日本古代氏族研究叢書① 雄山閣 2009年8月
- ・秋本吉徳『常陸国風土記』講談社 2001年10月
- ・第2回東日本埋蔵文化財研究会『古墳時代の祭祀-祭祀関係の遺跡と遺物-』東日本埋蔵文化財研究会 1993年3月
- ・谷田部の歴史編さん委員会『谷田部の歴史』谷田部町教育委員会 1975年9月
- ・梶生直彦「竪穴建物の構造から中田遺跡を考える」『八王子中田遺跡の再検討』東京考古談話会 2010年3月
- ・栃木県立しもつけ風土記の丘資料館「ムラから見た古墳時代Ⅱ」栃木県教育委員会 2010年9月
- ・河野辰男 高木国男 河野通義「羽成1号墳発掘調査報告書」谷田部町羽成1号墳発掘調査会 1985年1月

写 真 図 版



遺跡全景(東から)

第2号住居跡
遺物出土状況



第3号住居跡
遺物出土状況



第3号住居跡
完掘状況





第4号住居跡
遺物出土状況



第4号住居跡
完掘状況



第5号住居跡
完掘状況



第 6 号住居跡
遺物出土状況



第 7 号住居跡
遺物出土状況



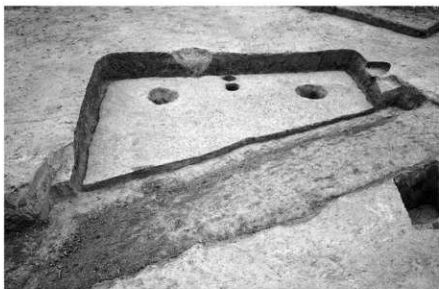
第 7 号住居跡
完掘状況



第8号住居跡
遺物出土状況



第8号住居跡
完掘状況



第9号住居跡
完掘状況

第10号住居跡
完掘状況



第11号住居跡
遺物出土状況



第11号住居跡
完掘状況





第12号住居跡
完掘状況



第13号住居跡
遺物出土状況



第13号住居跡
完掘状況

第14号住居跡
完掘状況



第15号住居跡
完掘状況



第16号住居跡
遺物出土状況





第18号住居跡
遺物出土状況



第18号住居跡
完掘状況



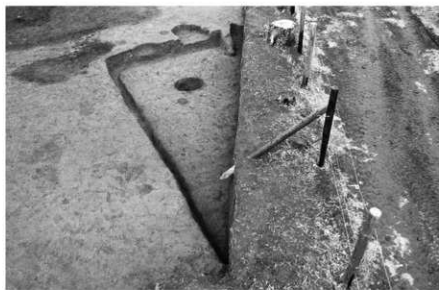
第19号住居跡
遺物出土状況



第19号住居跡
完掘状況



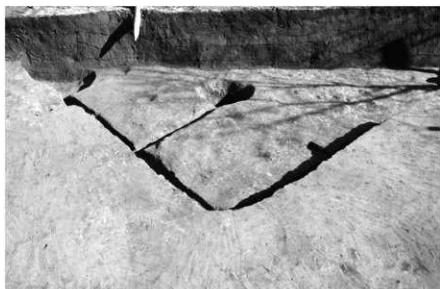
第20号住居跡
完掘状況



第21号住居跡
完掘状況



第22号住居跡
完掘状況



第23号住居跡
完掘状況

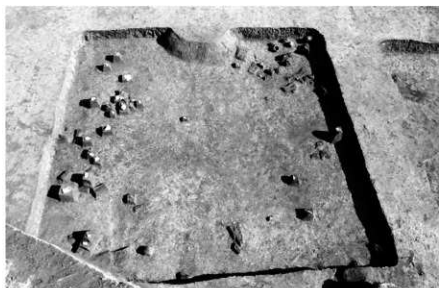


第25号住居跡
完掘状況

第26号住居跡
完掘状況



第27号住居跡
遺物出土状況



第27号住居跡
完掘状況





第28号住居跡
完掘状況



第29号住居跡
遺物出土状況



第29号住居跡
貯蔵穴遺物出土状況



第29号住居跡
完掘状況



第30号住居跡
完掘状況



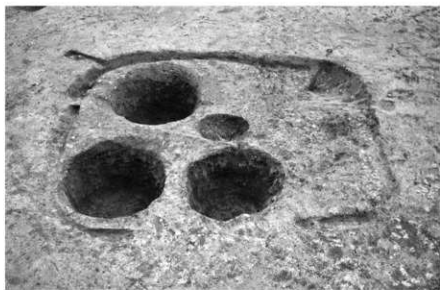
第31号住居跡
完掘状況



第1号鍛冶工房跡
完掘状況

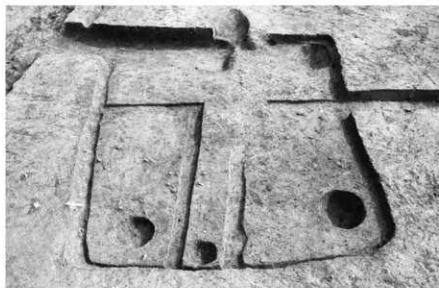


第1号不明遺構
完掘状況



第2号不明遺構
完掘状況

第1号住居跡
完掘状況



第1号掘立柱建物跡
完掘状況



第1号井戸跡
完掘状況

















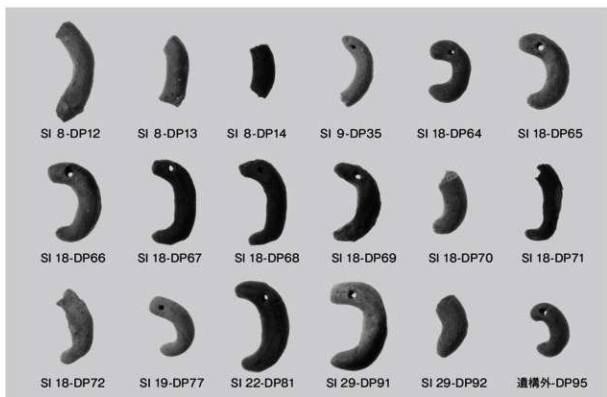
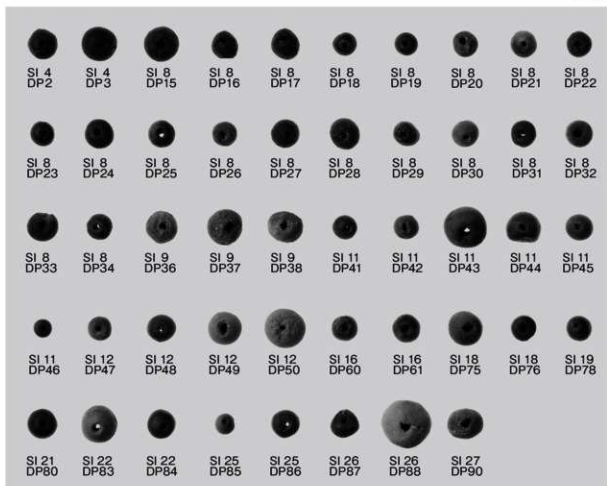






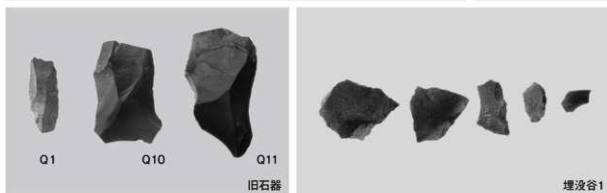
第3・12・29号住居跡，遺構外出土遺物



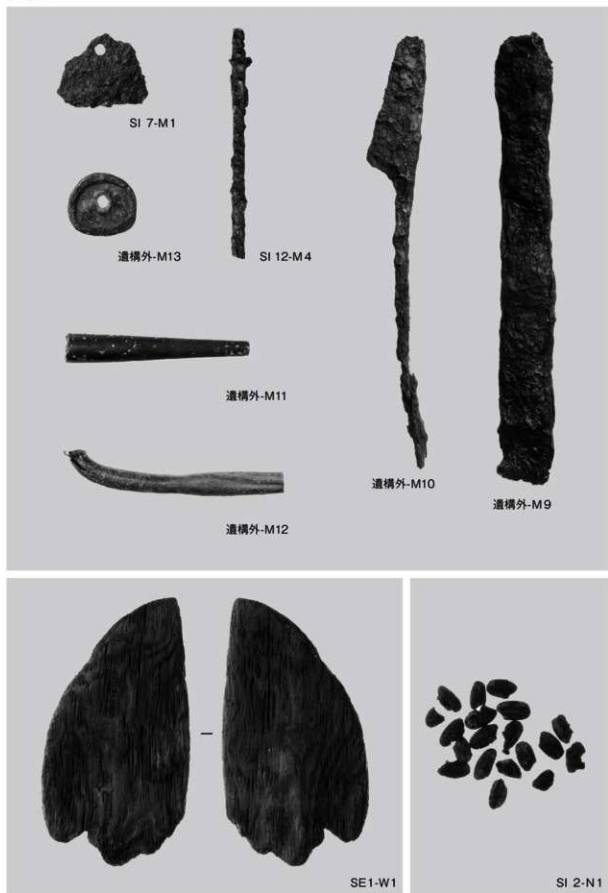




出土製品・石器



出土石製品・石器，埋没谷出土遺物



出土金属製品, 木製品, 炭化米

抄 録

ふりがな	たいらきただいせき									
書名	平北田遺跡									
副書名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書									
巻次										
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告									
シリーズ番号	第336集									
著者名	舟橋 理									
編集機関	財団法人茨城県教育財団									
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587									
発行日	2011(平成23)年3月23日									
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因		
平北田遺跡	茨城県つくば市平 字北田143番地ほか	08220 1 420	36度 3分 23秒	140度 4分 10秒	12 ～ 15m	20091001 ～ 20100331	11,259㎡	一般国道468号 首都圏中央連絡 自動車道新設 事業に伴う 事前調査		
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項			
平北田遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡	28軒	土師器(坏・高坏・甕・甗)	須恵器(坏・高坏)	土製品(土玉・白玉・勾玉・ 模造鏡・紡錘車)	石器(砥石)	石製品(白玉・甕玉)	金属製品(刀子・鐵)
			鍛冶工房跡	1基						
			柵跡	1か所						
	土坑	12基								
		不明遺構	2基							
		平安時代	竪穴住居跡	1軒	土師器(高台付碗・甕)	須恵器(坏)				
		中世	土坑	1基	土師質土器(櫛鉢・内耳鍋)					
		溝跡	1条							
	その他	時期不明	掘立柱建物跡	1棟	縄文土器、土師器、須恵器、					
			井戸跡	1基	土師質土器、陶器、磁器、					
			道路跡	3条	土製品、金属製品					
			柵跡	2か所						
			土坑	127基						
			溝跡	10条						
			ピット群	1か所						
			埋没谷	1か所						
要約	当遺跡は、縄文時代から中世にかけての複合遺跡で、古墳時代後期を中心に集落が営まれていたことを確認した。また、土玉・勾玉・白玉などが出土し、当遺跡で祭祀が行われていたことが判明した。									

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows XP Professional Version2002.ServicePack3
	編集	Adobe Indesign CS4
	図版作成	Adobe Illustrator CS4
	写真調整	Adobe Photoshop CS4
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000 図面類 EPSON GT-X750
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe Indesign CS4でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第336集

平北田遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成23（2011）年 3月17日 印刷

平成23（2011）年 3月23日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL. 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 いばらき印刷株式会社

〒319-1112 那珂郡東海村村松3115-3

TEL. 029-282-0370